

埋蔵錢貨出土遺跡群詳細分布調査報告書

2004. 3

山梨県教育委員会

埋蔵錢貨出土遺跡群詳細分布調査報告書

2004. 3

山梨県教育委員会

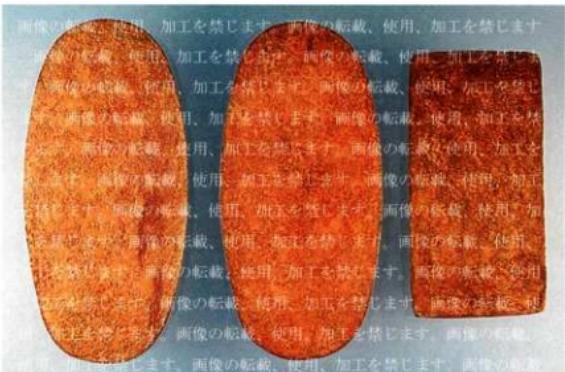


表 面



裏面

The image shows two large, irregularly shaped pieces of dried, brownish-orange material, possibly dried ginseng roots or a similar root vegetable. The pieces are roughly oval-shaped with irregular edges and a textured, fibrous surface. They are arranged side-by-side against a plain white background.



表 面

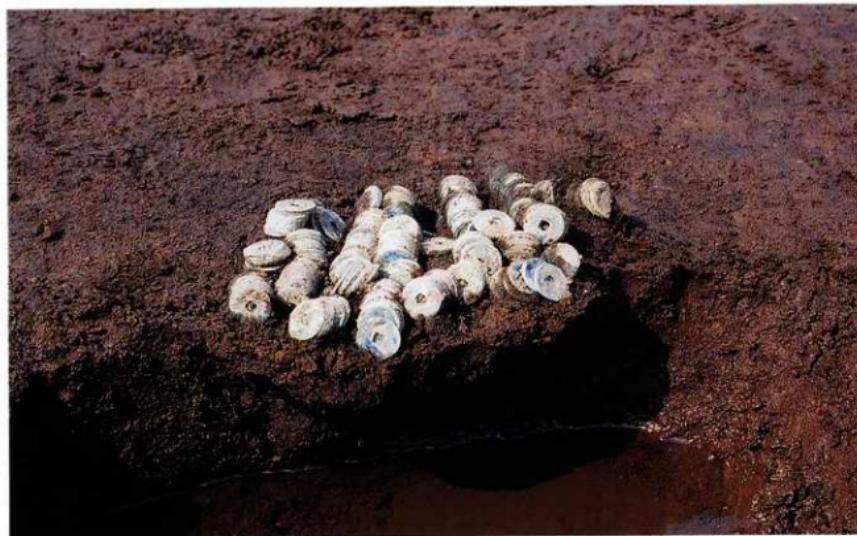
The image shows four individual pieces of dried ginseng root, which are light brown with dark, irregular spots. Each piece is attached to a small, rectangular red label with white text. The labels all bear the same number: "616321".



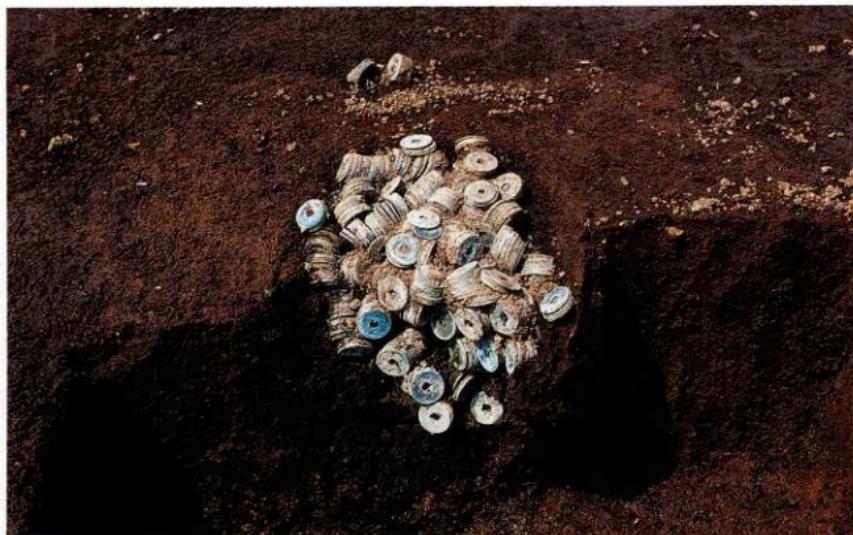
裏面



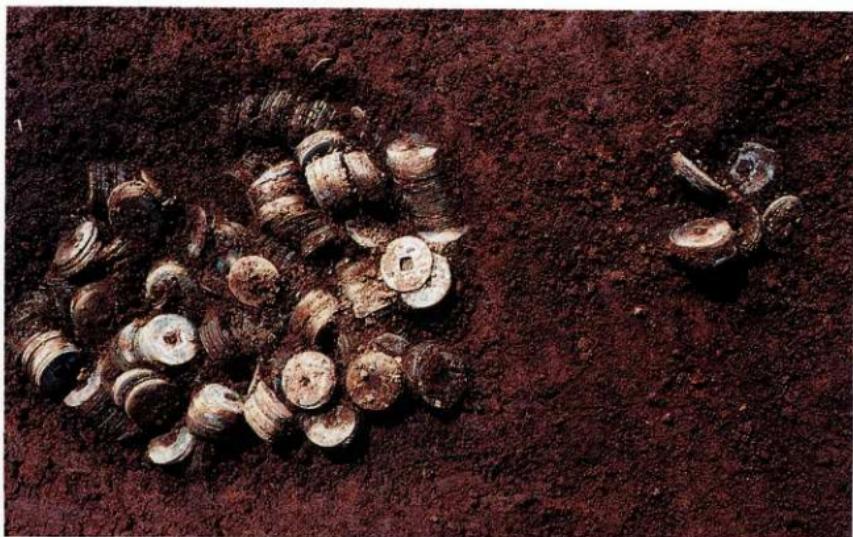
小和田遺跡
第1地点出土状況



小和田遺跡
第1地点半截状況



小和田遺跡
第2地點出土狀況



小和田遺跡
第2地點半截狀況



小和田遺跡
第3地點出土状況



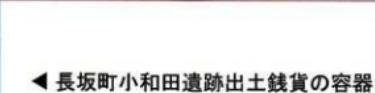
小和田遺跡
第3地點半截状況



上野原町樋原出土銭貨の容器 ▶



高根町村山西割出土銭貨の容器



序

本書は文化庁から補助金を受け、平成13年度（2001）から平成15年度（2003）までの3年間にわたり、山梨県内から出土した銭貨・金貨を調査した報告書であります。補助金の事業名は「埋蔵銭貨出土遺跡詳細分布調査」であります。

この調査の対象として、3つの事項がとりあげられました。第1の事項としては大量一括埋蔵銭貨を対象としました。大量一括埋蔵銭貨とは、室町時代～戦国時代にかけて盛行する地中に数千から数万枚単位の銭貨を埋める行為によって生じた、一括出土銭貨を指します。その埋蔵する目的は、備蓄ないしは祭祀目的と考えられていますが、内容については詳らかではありません。中世の人々がどのような意図をもって銭貨を埋めたのかという点を考えるには、出土事例についての考古学的見地だけではなく、文献など様々な資料から考察しなければなりません。今回の調査によって、埋められた要因を探るための、ある程度の資料整理ができたと考えております。

第2の事項としては、金貨を対象にした調査を行いました。戦国時代の山梨県においては、甲州金と呼ばれる金貨が成立します。この貨幣について、まだ不明な事項が多くありますが、今回の調査によって、県内出土事例の報告を行うことができました。第3の事項としては、一括埋蔵銭貨・遺跡出土銭貨・六道銭を対象にしました。これらの集成によって、今後の研究に向けての基礎的な整理ができました。

また、今回の調査では、出土した資料の整理だけではなく、出土資料の年代などを探ることを目的とし発掘調査を行いました。4ヶ所の大量一括埋蔵銭貨・金貨出土地点において発掘調査を行うことができ、各調査地点毎に様々な成果を得ることができました。

この報告書が山梨の中世から近世における貨幣流通やその考え方などについての歴史復元に少しでも貢献できるものなら幸甚です。

最後に、調査にあたって御指導を頂いた先生方を始め、御協力頂いた関係者、関係機関、調査・整理作業に従事された方々並びに発掘調査を許可して下さった地権者の皆様、所蔵資料の借用を許可して頂いた皆様方に厚く御礼を申し上げます。

2004年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 渡辺 誠

例 言

1. 本書は、文化庁の補助金を受けて、平成13年度（2001）～平成15年度（2003）の3年計画で実施した「埋蔵銭貨出土遺跡詳細分布調査」の報告書である。
2. 分布調査・発掘調査・整理作業は山梨県埋蔵文化財センター（東八代郡中道町所在）で行い、平成13・14年度は三森鉄治・網倉邦生、平成15年度は網倉邦生が担当した。
3. 本書の編集及び第Ⅰ章から第Ⅴ章の執筆は、網倉邦生が担当した。
4. 第Ⅱ章第4節の「詳細不明事例」・「遺跡出土銭貨枚数」は網倉が作成し、「六道銭出土遺跡」は三森が作成したデータを網倉が編集した。
5. 写真撮影は発掘調査（遺構）では網倉・三森が、整理作業（遺物）では網倉が担当した。
6. 石造物の位置については、一部県史編纂室のデータを利用した。また、六地蔵石幢については、全て15世紀に比定される。
7. 模鋳銭の認定については、銭貨を縁にした状態で、他の銭貨に比べて最大長が小さいものを対象とした。なお、これは、第1回調査検討会で教示された方法である。
8. 銭貨の成分分析について山梨県工業技術センター研究員小林克次氏と網倉が共同研究を行い、樹種同定を（株）パリノ・サーヴェイに委託した。前者の原稿を附録1、後者の原稿を附録2として所収した。
9. 発掘調査に係る出土品及び記録図面・写真・出土遺物・デジタル化したデータ等は、一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。
10. 調査にあたって、次の組織や方々にご指導及び協力を戴いた。記して謝意を表したい。

公機関

市町村教育委員会（五十音順・敬称略）等

秋山村教育委員会、明野村教育委員会、同佐野隆、芦川村教育委員会、石和町教育委員会、市川大門町教育委員会、一宮町教育委員会、同瀬田正明、上野原町教育委員会、同小西直樹、塩山市教育委員会、同飯島泉、大泉村教育委員会、同渡邊泰彦、忍野村教育委員会、大月市教育委員会、同杉本正文、同福田正人、鰐沢町教育委員会、春日居町教育委員会、同内田裕一、勝沼町教育委員会、同室伏徹、上九一色村教育委員会、甲府市教育委員会、同數野雅彦（平成13・14年度）・信藤裕仁・佐々木満、小菅村教育委員会、小淵沢町教育委員会、境川村教育委員会、同野崎進、敷島町教育委員会、同大嵐正之、下部町教育委員会、昭和町教育委員会、須玉町教育委員会、高根町教育委員会、同雨宮直樹、田富町教育委員会、丹波山村教育委員会、玉穂町教育委員会、都留市教育委員会、道志村教育委員会、豊富村教育委員会、韮崎市教育委員会、南アルプス市教育委員会、同保坂敏子、同矢野晴代、同斎藤秀樹、同保阪太一、長坂町教育委員会、同村松佳幸、中富町教育委員会、中道町教育委員会、同林部光、鳴沢村教育委員会、南部町教育委員会、西桂町教育委員会、白州町教育委員会、同杉本充、牧丘町教育委員会、増穂町教育委員会、御坂町教育委員会、三珠町教育委員会、三富村教育委員会、身延町教育委員会、武川村教育委員会、双葉町教育委員会、富士河口湖町教育委員会、富士吉田市教育委員会、同布施光敏、同篠原 武、八代町教育委員会、同伊藤修二、山中湖村教育委員会、山梨市教育委員会、大和村教育委員会、竜王町教育委員会、六郷町教育委員会

国・都道府県機関（敬称略）

東京国立博物館、山梨県立桐原青少年自然の里、山梨県工業技術センター、同小林克次、帝京山梨文化財研究所、同平野修

銭貨保管者（個人・敬称略）

安藤節子、市川孝、金井正美、小宮伊佐雄、近藤照雄、三枝幸保、里見広、佐藤元道

土地所有者（敬称略）

大柴和人、小野英雄、小宮伊佐雄、金子満郎

凡 例

1. 揭載した遺構図面の縮尺は原則として下記の通りである。

遺構全体図 遺跡位置図 1/25,000 トレント設定図 1/500 1/1,000
グリッド設定図 1/100 その他 1/2,000 1/20,000

遺構微細図 平面図 1/30 1/50 1/60 1/300 断面図・土層図 1/30 1/60

2. 遺物実測図の縮尺は原則として下記の通りである。

第Ⅱ章中の遺物 陶磁器 1/1 1/2 1/4 金属製品 1/2 金貨 1/1 1/2
第Ⅳ章中の遺物 土器・陶磁器 1/3 石造物 1/6 木製品 1/3 金属製品 1/1

3. 遺構平面図の網目は次の通りである。

烧土 地山

4. 遺構平面図中の表記は次の通りである。

● 土器・陶磁器・瓦

■ 金属製品

▲ 木製品

5. 遺物実測図中の網目は次の通りである。

赤彩

6. 遺構図中の断面図脇にある数値は標高を示す。

7. 遺構図・全体図などに示した方位 (N) は国土座標による真北である。

8. 本書では、1,000枚以上の一括出土埋蔵錢貨を「大量一括埋蔵錢貨」、1,000枚未満の一括出土錢貨を「一括埋蔵錢貨」として区別して報告した。

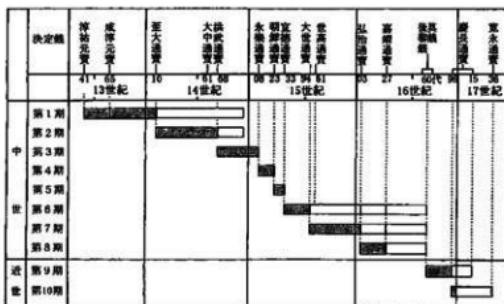
9. 出土地の名称は、市町村名と字名で呼称した。なお、塩山市千野出土の大量一括埋蔵錢貨については、研究史を鑑み、「塩山市千野鳥居原」とする。

10. 大量一括埋蔵錢貨の時期については、鈴木公雄氏と永井久美男氏の時期区分案を参考とした。本書で扱った出土事例における、時期区分の基準となる最新銭は、鈴木氏・永井氏の時期区分案で共通するため、第Ⅱ章第2節・第3節中の項目「5) 年代」では「第〇期」と標記することとする。
なお、両者の時期区分案は下記の通りである。

11. 事例報告書中の包蔵地・石造物は中世だけを対象としている。

世紀	13	14	15	16	17
四半期	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4
備蓄銭1期	--	--	--	--	--
備蓄銭2期		--	--	--	--
備蓄銭3期		--	--	--	--
備蓄銭4期		--	--	--	--
備蓄銭5期		--	--	--	--
備蓄銭6期		--	--	--	--
備蓄銭7期		--	--	--	--
備蓄銭8期		--	--	--	--

備蓄銭の時期と実年代の相関
(鈴木公雄 2002『銭の考古学』より)



大量出土銭時期区分
(永井久美男 2002
『新版 中世出土銭の分類図版』より)

本文目次

口絵
序文
例言
凡例
目次

図版目次・写真目次・表目次

第Ⅰ章 調査経過と組織	1
第1節 調査目的	1
第2節 調査方法	1
第3節 調査組織	1
第4節 調査検討会の概要	2
第Ⅱ章 出土銭貨の事例報告	3
第1節 用語の定義と調査対象	3
第2節 大量一括埋蔵銭貨出土事例報告	3
(1) 出土事例	4
1 塩山市千野鳥居原	4
2 勝沼町上岩崎	6
3 一宮町竹原田	8
4 一宮町市之藏	10
5 境川村石橋	12
6 南アルプス市上八田	14
7 長坂町大八田（小和田遺跡）	16
8 長坂町大八田（渋田遺跡）	20
9 南部町万沢（御屋敷遺跡）	22
10 上野原町洞原	24
11 富士吉田市上暮地（殿ノ入遺跡）	26
12 大月市駒橋	28
(2) 新聞掲載事例	30
1 塩山市小屋敷	30
2 八代町奈良原	31
3 中道町七覚	32
4 甲府市大里町古市場	33
5 高根町五町田	34
第3節 一括埋蔵銭貨出土事例報告	35
(1) 出土事例	36
1 一宮町石	36
2 大泉村谷戸	37
3 明野村小笠原（深山田遺跡）	38
4 一宮町塩田（北堀遺跡）	40
5 南アルプス市大師（大師東丹保遺跡）	42
(2) 新聞掲載事例	44
1 白州町白須	44

第4章 その他の銭貨出土事例	45
(1) 詳細不明事例	45
(2) 六道銭出土遺跡	46
(3) 遺跡出土銭貨枚数	47
第Ⅲ章 金貨の事例報告	51
第1節 調査対象	51
第2節 金貨出土事例報告	51
(1) 出土事例	52
1 春日居町下岩下	52
2 高根町村山西割	54
3 勝沼町上岩崎	(6頁参照)
(2) 新聞掲載事例	56
1 甲府市古府中町駒馬小路	56
第Ⅳ章 埋蔵銭・金貨出土地点発掘調査	57
第1節 調査目的	57
第2節 発掘調査の内容	57
(1) 標痕追跡	57
1 調査に至る経緯	57
2 調査地点の地理・歴史的環境	57
3 調査方法・内容	58
4 調査成果	77
(2) 信虎誕生墨敷	77
1 調査に至る経緯	77
2 調査地点の地理・歴史的環境	78
3 検出された遺構と遺物	78
4 調査成果	80
(3) 延命寺遺跡	83
1 調査に至る経緯	83
2 調査地点の地理・歴史的環境	83
3 検出された遺構と遺物	83
4 調査成果	85
(4) 小穴科遺跡	85
1 調査に至る経緯	85
2 調査地点の地理・歴史的環境	85
3 検出された遺構と遺物	87
4 調査成果	87
第Ⅴ章 調査の成果と課題	89
第1節 出土事例における中世段階の様相	89
第2節 年代と分布	89
附編	
I 大月市駒橋出土銭貨の成分分析	93
山梨県工業技術センター 小林克二・網倉邦生	
II 信虎誕生墨敷出土の樹種同定分析	95
パリノ・サーヴェイ株式会社	
写真図版	97

図版目次

第1図	大量一括埋蔵銭貨出土位置図	3
第2図	出土地周囲の包蔵地・石造物	4
第3図	出土地形図	4
第4図	出土地周辺における表探資料	5
第5図	出土地周囲の包蔵地・石造物	6
第6図	出土地形図	6
第7図	出土地周囲の包蔵地・石造物	8
第8図	出土地形図	8
第9図	出土地周囲の包蔵地・石造物	10
第10図	出土地形図	10
第11図	出土地周囲の包蔵地・石造物	12
第12図	出土地形図	12
第13図	出土遺物	13
第14図	出土地周囲の包蔵地・石造物	14
第15図	出土地形図	14
第16図	出土地周囲の包蔵地・石造物	16
第17図	出土地形図	16
第18図	小和田遺跡周辺の遺跡	18
第19図	出土遺物	18
第20図	出土遺物	18
第21図	D地区全体図	19
第22図	出土地周囲の包蔵地・石造物	20
第23図	出土地形図	20
第24図	出土地周囲の包蔵地・石造物	22
第25図	出土地形図	22
第26図	出土地周囲の包蔵地・石造物	24
第27図	出土地形図	24
第28図	出土遺物	25
第29図	出土地周囲の包蔵地・石造物	26
第30図	出土地形図	26
第31図	出土地周囲の包蔵地・石造物	28
第32図	出土地形図	28
第33図	出土遺物（元平口賣）拓影	29
第34図	出土地形図	30
第35図	出土地形図	31
第36図	出土地形図	32
第37図	出土地形図	33
第38図	出土地形図	34
第39図	一括埋蔵銭貨出土位置図	35
第40図	出土地周囲の包蔵地・石造物	36
第41図	出土地周囲の包蔵地・石造物	37
第42図	2070号・2071号ピット位置図	38
第43図	2070号・2071号ピット及び出土遺物	39
第44図	206号土坑位置図	40
第45図	286号土坑及び出土遺物	41
第46図	1号ピット位置図	42
第47図	1号ピット及び出土遺物	43
第48図	出土地形図	44
第49図	金賞出土位置図	51
第50図	出土地周囲の包蔵地・石造物	52
第51図	出土地形図	52
第52図	出土遺物	53
第53図	出土地周囲の包蔵地・石造物	54
第54図	出土地形図	54
第55図	出土遺物	55
第56図	出土地形図	56
第57図	権現遺跡位置図	61
第58図	調査対象図	61
第59図	トレンチ設定位図	61
第60図	グリッド設定位図	62
第61図	1トレンチ第I面遺物出土状況	63
第62図	1トレンチ第II面検出遺構・遺物	64
第63図	2トレンチ第II面検出遺構・遺物	65
第64図	2号石列出土状況	65
第65図	3トレンチ第II面検出遺構・遺物	66
第66図	4・5トレンチ位置図・土層図	67
第67図	1トレンチ出土遺物	68
第68図	1・2・3トレンチ出土遺物	69
第69図	4・5トレンチ出土遺物	70
第70図	1・3トレンチ出土遺物・表探資料	71
第71図	1・3トレンチ出土遺物・表探資料	72

第72図	信虎誕生屋敷位置図	81
第73図	トレンチ設定図	81
第74図	1トレンチ検出遺構・遺物	81
第75図	追構断面図・土層図	82
第76図	延命寺遺跡位位置図	84
第77図	トレンチ設定図	84
第78図	1トレンチ検出遺構	84
第79図	小六科遺跡位位置図	86
第80図	明治26年段階の小六科追跡周辺	86
第81図	トレンチ設定図	86
第82図	土層図	86
第83図	信虎誕生屋敷・延命寺遺跡・小六科追跡出土遺物	88
第84図	出土銭貨の賞光X線分析結果	94

写真目次

図版 1	出土地周辺	7
図版 2	出土地周辺	9
図版 3	出土地周辺	11
図版 4	出土地周辺	15
図版 5	出土地周辺	17
図版 6	出土遺物	18
図版 7	銭貨出土状況	19
図版 8	出土地周辺	21
図版 9	出土地周辺	23
図版 10	出土地周辺	27
図版11	出土地周辺	29
図版12	木材断面	96
図版13	権現遺跡調査状況	99
図版14	権現遺跡調査状況	100
図版15	信虎誕生屋敷調査状況	101
図版16	延命寺遺跡調査状況	102
図版17	小六科追跡調査状況	103
図版18	出土地周辺	104
図版19	出土遺物	105
図版20	出土遺物	106

表目次

第1表	塙市山千野島居原出土銭種一覧表	5
第2表	勝沼町上岩崎出土銭種一覧表	7
第3表	一宮町竹原出土銭種一覧表	9
第4表	一宮町之藏出土銭種一覧表	11
第5表	川村町石槽出土銭種一覧表	13
第6表	南アルプス市上八田出土銭種一覧表	15
第7表	長坂町大八田（小和田遺跡）第3地点出土銭種一覧表	17
第8表	長坂町大八田（浜田遺跡）出土銭種一覧表	21
第9表	南部町万沢（御屋敷跡）出土銭種一覧表	23
第10表	上野原町朝原出土銭種一覧表	25
第11表	富吉吉田市上墓地（殿ノ入遺跡）出土銭種一覧表	27
第12表	大月市鶴橋出土銭種一覧表	29
第13表	一括埋蔵銭貨報告書記載事例一覧表	35
第14表	一宮町石出土銭種一覧表	36
第15表	大泉谷戸出土銭種一覧表	37
第16表	明野村小笠原（深山田遺跡）出土銭種一覧表	39
第17表	一宮町塙田（北堀遺跡）出土銭種一覧表	41
第18表	南アルプス市大師（大師東丹保遺跡）出土銭種一覧表	43
第19表	許能不明事例一覧表	45
第20表	白州町猪手（古衛所遺跡）1・5号ピット出土銭種一覧表	45
第21表	勝沼町勝沼（勝沼氏館跡）8区出土銭種一覧表	45
第22表	六道銭出土遺跡一覧表	46
第23表	追跡出土銭貨枚数一覧表	47
第24表	春日居町下岩下出土金賞計測表	53
第25表	高根町村山西割出土金賞計測表	55
第26表	権現遺跡出土遺物一覧表	72
第27表	信虎誕生屋敷出土遺物一覧表	75
第28表	延命寺遺跡出土遺物一覧表	76
第29表	小六科追跡出土遺物一覧表	76
第30表	事例のまとめ	90
第31表	大量一括埋蔵銭貨の時期比定	91
第32表	出土銭貨の賞光X線分析結果	94
第33表	各資料別のズス（Sn）濃度平均値	94
第34表	各資料別の鉛（Pb）濃度平均値	94
第35表	樹種同定結果	95

第Ⅰ章 調査経過と組織

第1節 調査目的

中世を対象とする考古学的な研究は文献資料との対照が行える点などから近年注目されている分野であり、発掘調査によって新たな知見が明らかにされている。中世研究において、主に遺構・遺物論的な問題点は徐々に明らかになっている一方、中世の人々の風習に係る問題については未解明な点が数多くある。その中世考古学の課題の一つに地中から検出される埋蔵銭貨に関する事例が挙げられる。

埋蔵銭貨とは、中世の集落遺跡などから発見されるものと異なり、貯蔵・副葬・地鎮・呪禁などの目的で、とくに土中に意識的に埋蔵されたものをいう。これらは城跡・居館跡・集落跡をはじめ、経塚・墳墓などから発見される事例は多いが、出土状況など不明な点が多く、出土地点の歴史的位置付けも明確ではない。また、出土資料の性格上、散逸する危険性を孕んでおり、早急な資料化が求められてきた。

このため、今まで出土している県内の遺跡について、文献調査・確認調査等を実施する事により、中世の集落遺跡との関係の解明、遺跡の性格や時期の確定、出土遺構の実態を把握するとともに、開発事業との調整を行うための基礎資料を得ることを目的として、3年計画で埋蔵銭貨出土遺跡の詳細調査を行うこととした。

第2節 調査方法

調査対象としては、1ヶ所から1,000枚以上の銭貨が出土する、いわゆる大量一括埋蔵銭貨の事例を中心に取り上げ、その銭種構成・出土地点の歴史的位置付け等を検討した。また、1,000枚未満の出土事例である一括銭・六道銭・遺跡出土の銭貨枚数の把握などに努めた。

事業を実施する際に行った調査方法は、聞き取り調査・文献調査・分布調査・発掘調査・整理作業などである。聞き取り調査では、市町村毎に出土事例の有無を確認した。文献調査では、主に新聞を検索し、出土事例の集成に努めた。分布調査では、出土地点に赴き発見者・市町村埋蔵文化財担当者から出土事例の詳細について話を聞き、写真などで記録をとった。発掘調査では、大量一括埋蔵銭貨・金貨の出土地を対象に、発掘調査を実施することに同意してもらえるケースに関して、地権者と現地協議を行い、調査対象地を確定し、発掘調査を実施した。整理作業では、所蔵者・機関が判明している資料につき借用の申請を行い、銭貨の分類を主とする整理作業を行った。また、出土地点周囲の歴史的環境の把握を行うため、文献などに関する調査を行った。

事業を行うに当たり、調査への指針や専門的な視点による助言を頂き報告書作成に資することや調査対象に多角的な検討を加えることを目的として、調査検討会を組織した。調査検討会は各年度1回開催し、当該年度の調査成果に検討を加えることによって、上記の目的を達した。

第3節 調査組織

調査主体 山梨県教育委員会
調査機関 山梨県埋蔵文化財センター
調査担当者 主査文化財主事 三森鉄治（平成13年度～14年度）
文化財主事 綱倉邦生（平成13年度～15年度）
調査検討委員会 嶋谷和彦 鈴木公雄 橋口定志 畑大介 永井久美男（平成13年度まで）

（五十音順）

作業員（五十音順）
信虎誕生屋敷発掘調査 天川東太 小野繁雄 小林論 谷川清 山下勝美
小六科遺跡発掘調査 中込和子 中込道雄 名取幸一
延命寺遺跡発掘調査 天野茂治 加藤良三
權現遺跡発掘調査 伊東加代子 清水ヤス子 藤原喜美子 本田伸子 三井つや子 三井善満
整理作業 猪狩由美子 伊能あや子 堀内律子 金子春枝 河田幸雄 北川洋
野田友子 山浦正子

第4節 調査検討会の概要

(1) 経過

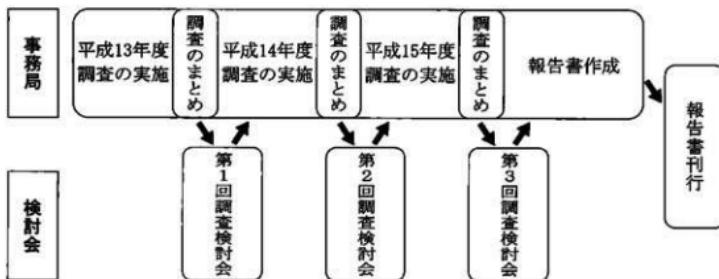
第1回調査検討会 平成14年3月6日(水)午前10:00～午後14:30 於山梨県立考古博物館

第2回調査検討会 平成15年3月4日(火)午前10:15～午後14:15 於山梨県立考古博物館

第3回調査検討会 平成15年10月20日(月)午前13:00～午後15:00 於山梨県立考古博物館

(2) 位置付け

調査検討会は、1) 調査への指針や専門的な視点による助言を頂き報告書作成に資すること、2) 調査対象に多角的な検討を加えることという2つの目的をもって運営した。経過としては、各年度の成果が出た段階で開催し、当該年度の調査成果の検討と次年度の方針・報告書内容に係る検討などを行った。なお、調査検討会の位置付けに関しては、下記の概念図の通りである。



(3) 協議内容

第1回調査検討会は1) 整理作業実施上の問題点の把握、2) 出土事例に係る検討、3) 今後の事業展開に関する展望など主に3つの協議事項について討議した。協議事項1に関しては、模銅錢の認定基準、加工銭の認定基準、同一銭種の錢文分類に関する意義や整理作業を行う上で必要な知見を中心に、錢貨製作に関する技術論的な問題の把握を行った。協議事項2に関しては、本報告を踏まえたデータのまとめ方についての議題である。この中で、調査における問題点を把握した上で新たな書式を作成すべきであるとの意見があった。また、大量一括埋蔵錢貨の性格に関する議論については、基礎データを積み上げた上で解釈すべきであるとの意見を頂いた。協議事項3に関しては、新聞検索を行い事例集成に努めるべきだとする意見や、大量一括埋蔵錢貨以外の出土錢貨に関して検討すべきであるといった意見がでた。

第2回調査検討会は1) 発掘調査した遺跡の検討、2) 本報告用書式の検討という2点の協議事項を扱った。協議事項1に関しては、平成14年度の事業内容報告に引き続き、調査の概要報告を行った。文献資料・石造物・絵図などを有機的に活用し、遺跡を解釈すべきであるという意見や、出土地周辺の地形情報を活用すべきであるとの意見があった。協議事項2に関しては報告書の概要説明と出土錢貨事例報告について事務局案を提示した。その結果、出土地点の地形が読み取れる地図を掲載すべきであるとの意見や事例報告の項目に係り、重複する部分を整理すべきだとする意見、項目の中に出土地点における中近世の郷名を入れるべきだとする意見があった。

第3回調査検討会は報告書の目次や第II・III章の原稿を提示し、1) 報告書の草立てについて、2) 事例報告の書式内容についての2点の協議事項を検討した。協議事項1に関しては、金貨出土事例は大量一括埋蔵錢貨とは別に草立てすべきであるとの意見がでた。協議事項2に関しては、事例報告の項目に係る質疑応答や、第II章第4節の取扱いに係る意見、新聞掲載事例に係る提示の仕方などの点で参考意見があった。

第Ⅱ章 出土銭貨の事例報告

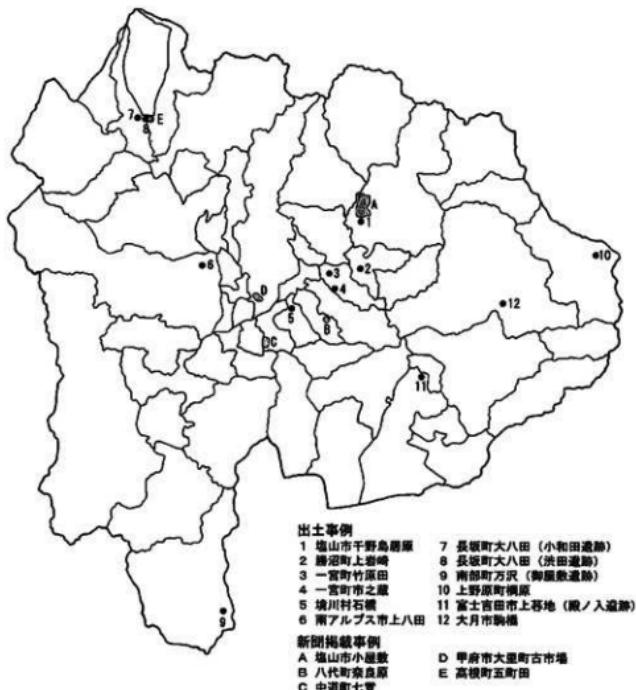
第1節 用語の定義と調査対象

今回の調査では出土銭貨の調査・報告に際し、出土事例の性格上の差異毎に報告をまとめるところとした。銭貨研究において、1,000枚以上の一括出土事例を「大量一括埋蔵銭貨」として、1,000枚未満の事例と区別するのが一般的である。今回の調査でも、1,000枚以上の出土事例を「大量一括埋蔵銭貨」とし、1,000枚未満の出土事例と区別して報告したい。また、大量一括埋蔵銭貨出土事例は、1) 銭種構成の把握が可能なものと2) 新聞で出土が確認されるものの2種類に分けられる。第2節では前者を出土事例、後者を新聞掲載事例として分けて記述したい。なお、一宮町市之藏出土事例は銭種が『一宮町誌』に掲載されていたため、これを引用した。

1,000枚未満の一括出土銭貨は「一括出土銭貨」とした。この事例については1) 銭種構成の把握が可能なもの、2) 発掘調査により検出されたもので銭種構成・遺構の状態が確認できるもの、3) 新聞で出土が確認されるものの3種類に分けられる。第3節では1・2を出土事例、3を新聞掲載事例とした。なお、六道銭については埋められた性格が他事例と異なるため、第4節中で取り扱うこととした。

上記の分類に該当しない事例については第4節で扱うこととする。断片的な情報だけであり、詳細についての把握が困難である事例や近世の出土事例は、その他の出土事例で扱いたい。一括出土以外の遺跡出土事例は遺跡出土銭貨枚数で、六道銭については六道銭出土遺跡で報告することとする。

第2節 大量一括埋蔵銭貨出土事例



第1図 大量一括埋蔵銭貨出土位置図

(1) 出土事例

塩山市千野鳥居原

1) 発見年月日	1986年(昭和61)4月上旬	2) 保管者(住所)	近藤照雄(塩山市千野3265)
3) 発見地	塩山市千野3265	4) 郷名・村名等	中世 千野郷 近世 千野村
5) 年代	第7期	6) 備考	
7) 立地と歴史	甲府盆地の北東部、重川右岸の扇状地に所在し、西北に恵林寺山、西南に塩ノ山が位置する。東側には甲斐守護武田信春の館跡があり、現在は信春の菩提寺である慈徳院の境内になっている。周囲には鹿子屋敷・馬場・女中屋敷など館跡を中心とした町割を示唆する地名が残る。また、館跡付近には千野六地蔵石幢(応永17年=1410年銘)があり、出土土地東側を青梅往還が走る。『甲斐国志』士庶部には千野氏・古屋清左衛門・村田弥三が挙げられ、出土土地の北には村田弥三の屋敷跡がある。千野の地名は史料上では14世紀後半からみられる。		
8) 出土状況	庭先に作業場を作るため、柿の木を伐採して伐根したところ地表下約1mから銭貨9,370枚が出土した。最古銭は開元通寶、最新銭は大世通寶である。銭貨は列状に規則的に並べられており、容器は確認されなかった。出土時には繻縫の状態であったが、取り上げ後に繻縫は散逸したという。また、銭貨出土地周囲の畠からは七寶などが表採されている。		

- 1 村田氏屋敷
- 2 武田信春館跡
- 3 伊保水遺跡
- 4 金山遺跡
- 5 高林遺跡



第2図 出土地周囲の包蔵地・石造物

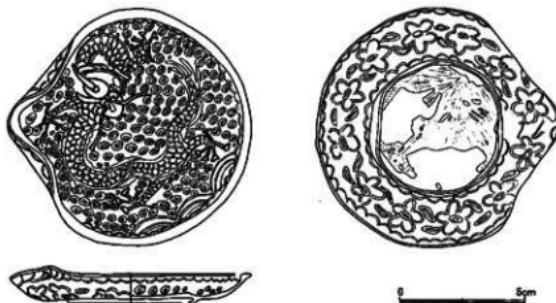
- A 薬師如来坐像
- B 六地蔵石幢
- C 六地蔵石幢
- D 地蔵石仏(光背型)
- E 六地蔵石幢
- F 応永17(1410)年銘
- G 六地蔵石幢
- H 六地蔵石幢



第3図 出土地形図

第1表 塩山市千野鳥居原出土錢種一覧表

番号	銭貨名	国名	初鑄年	枚数	No.	銭貨名	国名	初鑄年	枚数
1	開元通寶	唐	621	551	31	大觀通寶	北宋	1107	78
2	乾元重寶	唐	758	31	32	政和通寶	北宋	1111	273
3	光天元寶	前蜀	918	1	33	宣和通寶	北宋	1119	39
4	周通元寶	後周	955	3	34	紹興元寶	南宋	1131	1
5	唐國通寶	南唐	959	5	35	紹興通寶	南宋	1131	1
6	宋通元寶	北宋	960	30	36	淳熙元寶	南宋	1174	47
7	太平通寶	北宋	976	68	37	紹熙元寶	南宋	1190	14
8	淳化元寶	北宋	990	83	38	慶元通寶	南宋	1195	14
9	至道元寶	北宋	995	123	39	嘉泰通寶	南宋	1201	11
10	咸平元寶	北宋	998	139	40	開禧通寶	南宋	1205	4
11	景德元寶	北宋	1004	185	41	嘉定通寶	南宋	1208	19
12	祥符元寶	北宋	1009	199	42	紹定通寶	南宋	1228	6
13	祥符通寶	北宋	1009	133	43	端平元寶	南宋	1234	1
14	天禧通寶	北宋	1017	161	44	嘉熙通寶	南宋	1237	2
15	天聖元寶	北宋	1023	403	45	淳祐元寶	南宋	1241	10
16	明道元寶	北宋	1032	37	46	皇宋元寶	南宋	1253	9
17	景祐元寶	北宋	1034	119	47	開慶通寶	南宋	1259	2
18	皇宋通寶	北宋	1038	983	48	景定元寶	南宋	1260	13
19	至和元寶	北宋	1054	91	49	咸淳元寶	南宋	1265	14
20	至和通寶	北宋	1054	28	50	正隆元寶	金	1157	18
21	嘉祐元寶	北宋	1056	98	51	大定通寶	金	1178	8
22	嘉祐通寶	北宋	1056	156	52	至大通寶	元	1310	4
23	治平元寶	北宋	1064	142	53	大中通寶	明	1361	3
24	治平通寶	北宋	1064	24	54	洪武通寶	明	1368	463
25	熙寧元寶	北宋	1068	740	55	永樂通寶	明	1408	1236
26	元豐通寶	北宋	1078	963	56	朝鮮通寶	朝鮮	1423	24
27	元祐通寶	北宋	1086	745	57	宣德通寶	明	1433	41
28	紹聖元寶	北宋	1094	348	58	大世通寶	琉球	1454	1
29	元符通寶	北宋	1098	117	59	判読不能	日本		16
30	聖宋元寶	北宋	1101	292		合計			9370



本事例掲載資料

第4図 出土地周辺における表探資料

永井久美男編 1996 『中世の出土銭 補遺1』 兵庫県埋蔵銭調査会

山梨日日新聞 1995年6月1日

勝沼町上岩崎

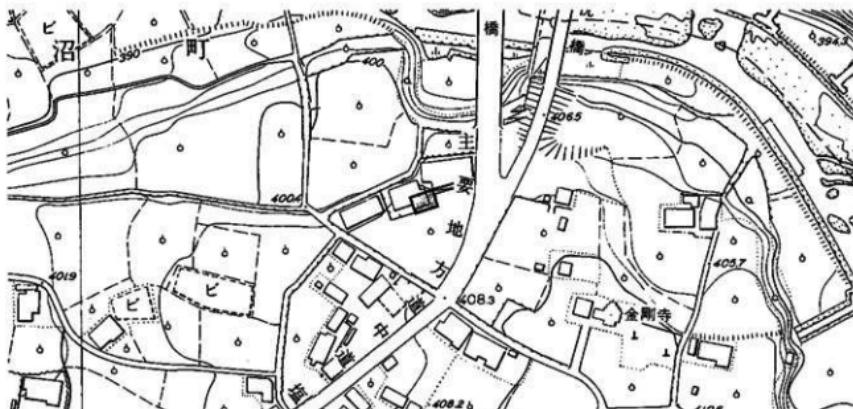
1) 発見年月日	1971年(昭和46)4月1日・5月5日	2) 保管者(住所)	金井正美(東山梨郡勝沼町上岩崎662)
3) 発見地	東山梨郡勝沼町上岩崎662	4) 郷名・村名等	中世)不明 近世)上岩崎村
5) 年代	第6期	6) 備考	
7) 立地と歴史			
日川左岸の河岸段丘上に位置し、福寺遺跡の範囲内に所在する。出土地東側を旧鎌倉駿往還、南側を甲州道中が通り、甲府盆地東部と郡内方面などを結ぶ交通の要衝に立地する。周囲の遺跡には城館跡が多い。出土地の対岸にある国史跡勝沼氏館跡は、武田信玄の叔父で、郡内目付けである信友の居館跡であり、館跡の北側に町割が形成されていた。館跡の南・西側は日川の急崖となっている。出土地と勝沼氏館跡は距離的には近いものの、日川に侵食された断崖に隔てられている。			
8) 出土状況			
観光ブドウ園の畠地下約40cmより出土した。大量一括埋蔵錢貨2,639枚が発見され(4月1日)、その後、墓石金18個と蛭巻金2枚が発見された(5月5日)。銅錢と金貨は約2~3m離れた位置から出土したという。大量一括埋蔵錢貨の最古銭は開元通寶、最新銭は宣德通寶である。出土時の写真には甲州金の周囲に石列が見られる。この石列の性格や全体的な配置は不明だが、礎が平坦であることから礎石である可能性が強く、甲州金と同時期の遺構であると評価できる。大量一括埋蔵錢貨については写真等がないため詳細は不明であるが、約千枚ずつ一列に並べられていたといふ。			

- 1 加賀屋敷跡
- 2 長遠寺遺跡(散)
- 3 御藏屋敷跡
- 4 勝沼氏館跡
- 5 净泉寺跡
- 6 福寺遺跡(散)
- 7 大善寺遺跡
- 8 内藤遺跡
- 9 岩崎氏館跡
- 10 御所畠遺跡
- 11 畠屋敷遺跡(散)
- 12 上人塚



A 六地蔵石壇
B 六地蔵石壇

第5図 出土地周囲の包蔵地・石造物



第6図 出土地形図

第2表 勝沼町上岩崎出土銭種一覧表

No.	錢貨名	国名	初鑄年	枚数	模銅錢	No.	錢貨名	国名	初鑄年	枚数	模銅錢
1	開元通寶	唐	621	206	31	28	元符通寶	北宋	1098	47	6
2	乾元重寶	唐	758	7	2	29	聖宋元寶	北宋	1101	115	7
3	漢通元寶	後漢	948	1	-	30	大觀通寶	北宋	1107	30	-
4	宋通元寶	北宋	960	2	-	31	政和通寶	北宋	1111	59	8
5	太平通寶	北宋	976	18	3	32	宣和通寶	北宋	1119	10	1
6	天禧鎮寶	前蜀	984	1	-	33	紹興元寶	南宋	1131	1	-
7	淳化元寶	北宋	990	16	1	34	淳熙元寶	南宋	1174	10	-
8	至道元寶	北宋	995	41	8	35	紹熙元寶	南宋	1190	3	-
9	咸平元寶	北宋	998	40	6	36	慶元通寶	南宋	1195	2	-
10	景德元寶	北宋	1004	54	6	37	嘉泰通寶	南宋	1201	2	-
11	祥符元寶	北宋	1009	69	9	38	開禧通寶	南宋	1205	3	-
12	祥符通寶	北宋	1009	43	8	39	嘉定通寶	南宋	1208	14	2
13	天禧通寶	北宋	1017	51	10	40	大宋元寶	南宋	1225	1	-
14	天聖元寶	北宋	1023	102	15	41	紹定通寶	南宋	1228	3	-
15	明道元寶	北宋	1032	10	2	42	淳祐元寶	南宋	1241	4	-
16	景祐元寶	北宋	1034	31	3	43	皇宋元寶	南宋	1253	3	1
17	皇宋通寶	北宋	1038	316	44	44	景定元寶	南宋	1260	1	-
18	至和元寶	北宋	1054	31	5	45	咸淳元寶	南宋	1265	3	-
19	至和通寶	北宋	1054	6	-	46	大定通寶	金	1178	1	-
20	嘉祐元寶	北宋	1056	19	6	47	大中通寶	明	1361	1	-
21	嘉祐通寶	北宋	1056	58	11	48	洪武通寶	明	1368	100	7
22	治平元寶	北宋	1064	42	7	49	永樂通寶	明	1408	154	11
23	治平通寶	北宋	1064	7	1	50	朝鮮通寶	朝鮮	1423	2	-
24	熙寧元寶	北宋	1068	234	20	51	宣德通寶	明	1433	4	-
25	元豐通寶	北宋	1078	322	22	52	判讀不能			23	-
26	元祐通寶	北宋	1086	224	22						
27	紹聖元寶	北宋	1094	92	9		合計			2639	294



出土地遠景



出土地近景

図版1 出土地周辺

本事例掲載資料

財団法人武田信玄公宝物保存会 1972 『原色 武田遺宝集』
山梨日日新聞 1971年5月9日

一宮町竹原田

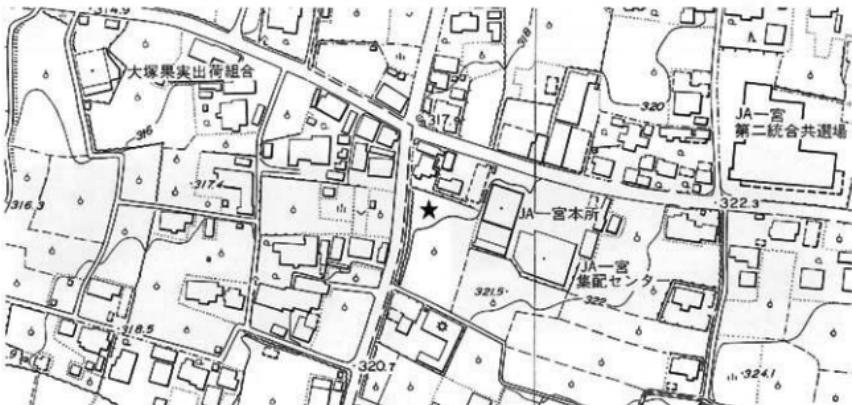
1) 発見年月日	1970年（昭和44）12月22日	2) 保管者(住所)	佐藤元道（東八代郡一宮町竹原田289）
3) 発見地	東八代郡一宮町金田1299	4) 郷名・村名等	中世）不明 近世）竹原田村
5) 年代	第4期	6) 備考	
7) 立地と歴史	御坂山地に源を発する金川の扇状地右岸に位置し、その立地条件のためか過去に数多くの水害にみまわれてきた。出土地周辺は若干の起伏が認められるものの、南西から北東方向へ傾斜する緩斜面地に位置している。出土地南側に御幸道が通る。また、金田地区の畠からは常滑三筋壺を収納した14世紀代の常滑大甕が出土している。		
8) 出土状況	桃烟の地下約50cmにおいて、縦錢が3本（下2本、その上1本）重ね合わされた状態で出土した。3本の縦には紐が通され、袋の中に容れられていたというが袋は現存していない。残存している銭貨数は2,367枚であり、出土後に散逸した資料があるとのことである。銭貨の最古銭は開元通寶、最新銭は永樂通寶である。		

- 1 満願寺遺跡
- 2 西田町遺跡
- 3 狐原遺跡
- 4 橋立遺跡（散）
- 5 筑前原星跡
- 6 筑前原遺跡
- 7 甲斐國分尼寺跡
北遺跡（散）
- 8 甲斐國分尼寺
- 9 矢倉遺跡
- 10 松原遺跡
- 11 甲斐國分寺跡
- 12 浪人屋敷
- 13 金山遺跡
- 14 北前田遺跡（散）



- A 六地蔵石幢2基
 B 六地蔵石幢
 C 六地蔵石幢
 D 六地蔵石幢
 D 阿弥陀三尊龕

第7図 出土地周囲の包蔵地・石造物



第8図 出土地形図

第3表 一宮町竹原田出土銭種一覧表

No.	銭貨名	国名	初鑄年	枚数	No.	銭貨名	国名	初鑄年	枚数
1	四銖半兩	前漢	B.C. 175		1 28	紹聖元寶	北宋	1094	83
2	開元通寶	唐	621	188	29	元符通寶	北宋	1098	38
3	乾元重寶	唐	758		9 30	聖宋元寶	北宋	1101	95
4	咸康元寶	前蜀	925		1 31	大觀通寶	北宋	1107	18
5	唐國通寶	南唐	959		2 32	政和通寶	北宋	1111	74
6	宋通元寶	北宋	960		10 33	宣和通寶	北宋	1119	12
7	太平通寶	北宋	976		14 34	建炎通寶	南宋	1127	1
8	淳化元寶	北宋	990		21 35	紹興元寶	南宋	1131	1
9	至道元寶	北宋	995		32 36	正隆元寶	金	1157	2
10	咸平元寶	北宋	998		35 37	淳熙元寶	南宋	1174	16
11	景德元寶	北宋	1004		37 38	紹熙元寶	南宋	1190	4
12	祥符元寶	北宋	1009		39 39	慶元通寶	南宋	1195	5
13	祥符通寶	北宋	1009		59 40	嘉泰通寶	南宋	1201	1
14	天禧通寶	北宋	1017		41 41	嘉定通寶	南宋	1208	8
15	天聖元寶	北宋	1023		93 42	紹定通寶	南宋	1228	6
16	明道元寶	北宋	1032		12 43	淳祐元寶	南宋	1241	5
17	景祐元寶	北宋	1034		23 44	皇宋元寶	南宋	1253	1
18	皇宋通寶	北宋	1038		294 45	開慶元寶	南宋	1259	1
19	至和元寶	北宋	1054		25 46	景德元寶	南宋	1260	6
20	至和通寶	北宋	1054		5 47	咸淳元寶	南宋	1265	4
21	嘉祐元寶	北宋	1056		22 48	至大通寶	元	1310	1
22	嘉祐通寶	北宋	1056		51 49	大中通寶	明	1361	4
23	治平元寶	北宋	1064		4 50	洪武通寶	明	1368	118
24	治平通寶	北宋	1064		51 51	永樂通寶	明	1408	129
25	熙寧元寶	北宋	1068		244 52	無文錢	日本		10
26	元豐通寶	北宋	1078	267					
27	元祐通寶	北宋	1086	177		合計			2400



出土地遠景



出土地近景

図版2 出土地周辺

本事例掲載資料

一宮町広報誌「いちのみや」 第39号 1971年1月20日

一宮町市之藏

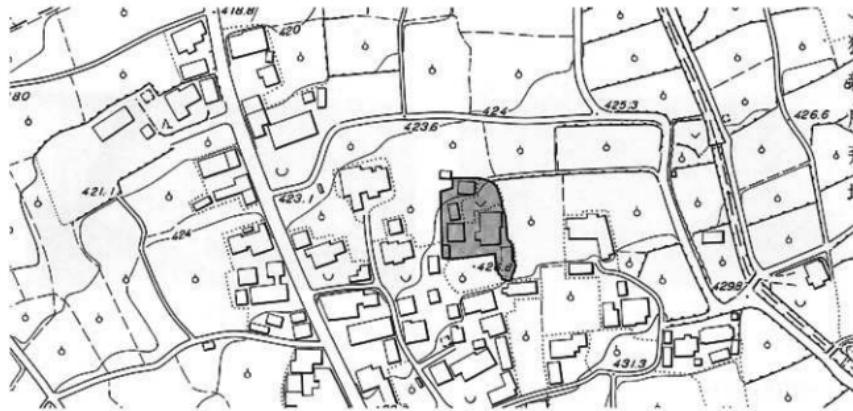
1) 発見年月日	1910年(明治42)9月24日	2) 保管者(住所)	古屋完司(東八代郡一宮町市之藏37)
3) 発見地	東八代郡一宮町市之藏37	4) 錫名・村名等	中世)市蔵 近世)市之蔵村
5) 年代	第7期	6) 備考	
7) 立地と歴史		金川の扇状地の扇頂付近に位置し、中世には中央を旧鎌倉往還が通っていた。『延喜式』兵部省に載る甲斐国水市駅を市之蔵周辺に比定し、東海道岐路の甲斐路が町域を通ったという説もある。出土地北東側に中世の胸磁器を多量に出土した新巻屋敷がある。天正三年(1575)八月一日には武田信綱(信玄の弟)が当地の内五貫文を正覚院に寄進しており(武田信綱印判状写)、同一〇年八月一日には有賀式部助に対して「一宮町内一之蔵」の内、有賀分八貫五〇〇文が本領として安堵されている(徳川家印判状写)。	
8) 出土状況		古屋甚作氏の自宅屋敷南西隅、地下約12~15cmより135貫文余りの銭貨が出土した。『御代咲村誌』によると「物置土台石の下にあった」といい、「市之蔵城の本丸跡で城壁際」から出土したとしているが、この「市之蔵城」に関しては『一宮町誌』が土豪屋敷か倉庫であると推定している以外詳らかではない。『御代咲村誌』の中に銭種が報告されており、その報告によると最古銭は開元通寶、最新銭は金圓世寶である。現状の枚数や銭種毎の枚数は不明である。	

- 1 笠木地蔵遺跡
- 2 木地蔵遺跡(散)
- 3 塩田遺跡
- 4 古屋氏屋敷
- 5 荒巻本村遺跡
- 6 新巻遺跡



- A 六地蔵龕
- B 六地蔵石幢
- B 地蔵菩薩坐像
- C 六地蔵石幢
- D 六地蔵石幢
- E 六地蔵石幢

第9図 出土地周囲の包蔵地・石造物



第10図 出土地形図

第4表 一宮町市之藏出土錢種一覽表

No.	錢貨名	国名	初鑄年	枚数	No.	錢貨名	国名	初鑄年	枚数
1	開元通寶	唐	621	—	27	正隆元寶	金	1157	—
2	乾元重寶	唐	758	—	28	淳熙元寶	南宋	1174	—
3	萬年通寶	奈良	760	—	29	大定通寶	金	1178	—
4	乾德元寶	前蜀	919	—	30	紹熙元寶	南宋	1190	—
5	漢通元寶	後漢	948	—	31	慶元通寶	南宋	1195	—
6	周通元寶	後周	955	—	32	嘉泰通寶	南宋	1201	—
7	唐國通寶	南唐	959	—	33	開禧通寶	南宋	1205	—
8	宋通元寶	北宋	960	—	34	嘉定通寶	南宋	1208	—
9	太平通寶	北宋	976	—	35	大宋元寶	南宋	1225	—
10	淳化元寶	北宋	990	—	41	端平元寶	南宋	1234	—
11	至道元寶	北宋	995	—	42	淳祐元寶	南宋	1241	—
12	咸平元寶	北宋	998	—	43	景定元寶	南宋	1260	—
13	祥符元寶	北宋	1009	—	44	咸淳元寶	南宋	1265	—
14	天禧通寶	北宋	1017	—	45	至元通寶	元	1285	—
15	天聖元寶	北宋	1023	—	46	至大通寶	元	1310	—
16	明道元寶	北宋	1032	—	47	至正通寶	元	1350	—
17	景祐元寶	北宋	1034	—	48	大中通寶	明	1361	—
18	至和元寶	北宋	1054	—	49	洪武通寶	明	1368	—
19	嘉祐通寶	北宋	1056	—	50	永樂通寶	明	1408	—
20	熙寧元寶	北宋	1068	—	51	朝鮮通寶	朝鮮	1423	—
21	元豐通寶	北宋	1078	—	52	宣德通寶	明	1433	—
22	紹聖元寶	北宋	1094	—	53	紹平通寶	琉球	1434	—
23	聖宋元寶	北宋	1101	—	54	大世通寶	琉球	1454	—
24	大觀通寶	北宋	1107	—	55	世高通寶	琉球	1461	—
25	宣和通寶	北宋	1119	—	56	金圓世寶	琉球	1470	—
26	建炎通寶	南宋	1127	—					



出土地遠景



出土地近景

図版3 出土地周辺

本事例掲載資料

一宮町 1968 『一宮町誌』

境川村石橋

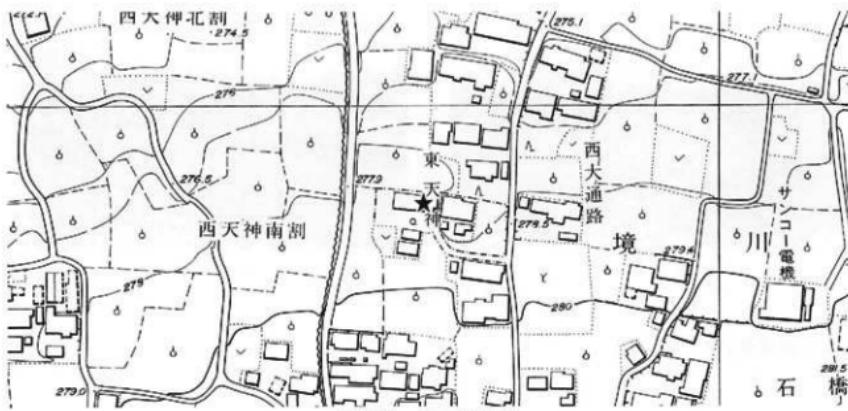
1) 発見年月日	1894年（明治26）頃	2) 保管者(住所)	三枝幸保（東八代郡境川村石橋1893）
3) 発見地	東八代郡境川村石橋1893	4) 郷名・村名等	中世）石橋郷 近世）石橋村
5) 年代	第7期	6) 備考	
7) 立地と歴史			
御坂山麓に展開する境川扇状地の扇央部に位置し、県道中道塩山線沿いに広がる住宅地に所在する。弥生～平安時代の遺跡である石橋遺跡の範囲内から出土している。南側には、鎌倉時代武田信光の子八郎信雅の館推定地である石橋氏館跡がある。周囲は北西方向に傾斜する緩斜面地である。中世には「石橋番匠」と呼ばれる職能集團が居住されていたとされる。出土地の南側には、永正5年（1508）武田信虎が叔父油川信重と争った坊ヶ峰がある。孤川と境川に挟まれているため、水害多発する地帯である。			
8) 出土状況			
出土した年代が古いため、詳細は不明であるが、「地点を隔てた二ヶ所から出土しており、一方は壺にくるまれて、一方は壺の中に錢貨が入った状況で出土した」という話が保管者の家族に伝えられている。現存している錢貨は1,988枚であり、最古錢は開元通寶、最新錢は世高通寶であり、部分的に散逸しているという。壺の年代が16世紀後半であるため、埋蔵された年代も同時期と捉えられる。資料の中には、近世の錢貨もみられ、出土後に混入したものと考えられる。			

1 石橋氏屋敷跡



- A 六地蔵石幢
- B 六地蔵石幢
- C 六地蔵石幢
- D 六地蔵石幢
- E 六地蔵石幢
- F 六地蔵石幢
- G 六地蔵石幢

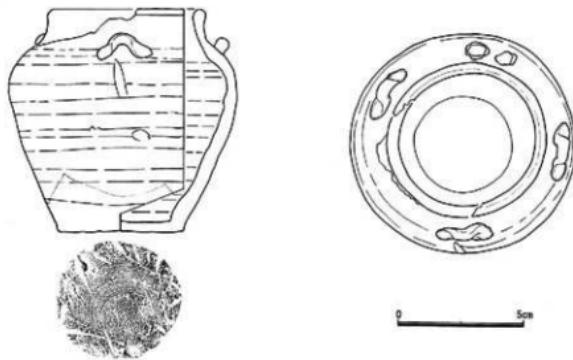
第11図 出土地周囲の包蔵地・石造物



第12図 出土地形図

第5表 境川村石橋出土錢種一覧表

No.	錢貨名	国名	初鑄年	枚数	模鑄錢	No.	錢貨名	国名	初鑄年	枚数	模鑄錢
1	開元通寶	唐	621	174	20	28	聖宋元寶	北宋	1101	59	4
2	乾元重寶	唐	758	9	4	29	大觀通寶	北宋	1107	18	1
3	唐國通寶	南唐	959	1	—	30	政和通寶	北宋	1111	66	8
4	宋通元寶	北宋	960	9	4	31	天慶元寶	遼	1111	1	—
5	太平通寶	北宋	976	13	1	32	宣和通寶	北宋	1119	8	2
6	淳化元寶	北宋	990	14	1	33	正隆元寶	金	1157	4	—
7	至道元寶	北宋	995	32	13	34	淳熙元寶	南宋	1174	13	—
8	咸平元寶	北宋	998	20	2	35	大定通寶	金	1178	1	—
9	景德元寶	北宋	1004	39	5	36	紹熙元寶	南宋	1190	3	—
10	祥符元寶	北宋	1009	41	2	37	慶元通寶	南宋	1195	2	—
11	祥符通寶	北宋	1009	25	3	38	嘉泰通寶	南宋	1201	2	—
12	天禧通寶	北宋	1017	39	3	39	開禧通寶	南宋	1205	1	—
13	天聖元寶	北宋	1023	75	3	40	嘉定通寶	南宋	1208	7	1
14	明道元寶	北宋	1032	10	—	41	大宋元寶	南宋	1225	1	—
15	景祐元寶	北宋	1034	21	—	42	紹定通寶	南宋	1228	1	—
16	皇宋通寶	北宋	1038	181	26	43	淳祐元寶	南宋	1241	1	—
17	至和通寶	北宋	1054	6	—	44	皇宋元寶	北宋	1253	1	—
18	至和元寶	北宋	1054	10	3	45	景定元寶	南宋	1260	2	—
19	嘉祐元寶	北宋	1056	27	1	46	咸淳元寶	南宋	1265	4	—
20	嘉祐通寶	北宋	1056	34	6	47	至大通寶	元	1310	5	—
21	治平元寶	北宋	1064	40	4	48	大中通寶	明	1361	2	—
22	治平通寶	北宋	1064	10	—	49	洪武通寶	明	1368	154	18
23	熙寧元寶	北宋	1068	172	14	50	永樂通寶	明	1408	166	16
24	元豐通寶	北宋	1078	187	25	51	朝鮮通寶	朝鮮	1423	9	—
25	元祐通寶	北宋	1086	132	17	52	宣德通寶	明	1433	15	—
26	紹聖元寶	北宋	1094	50	11	53	世高通寶	琉球	1461	1	—
27	元符通寶	北宋	1098	24	—	合計			1942	218	



本事例掲載資料

山梨県立考古博物館 1986 『山梨の中世陶磁』

第13図 出土遺物(錢貨の容器)

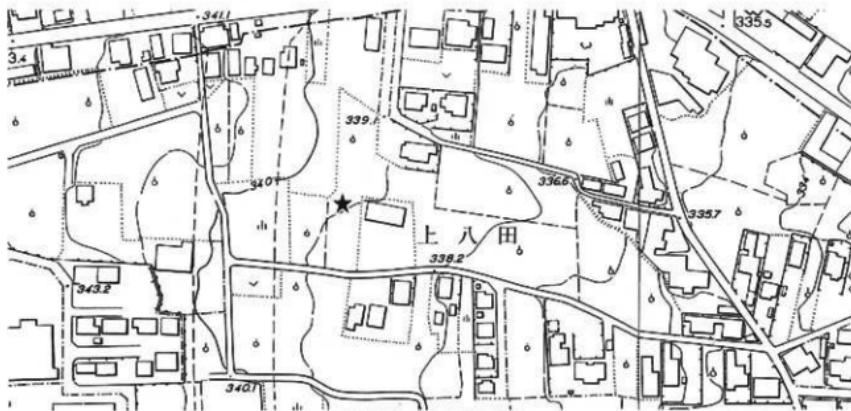
南アルプス市上八田

1) 発見年月日	1934年(昭和8)2月10日	2) 保管者(住所)	市川孝(南アルプス市上八田字小六科233-4)
3) 発見地	中巨摩郡南アルプス市上八田小字小六科233-4	4) 郷名・村名等	中世)上八田郷 近世)上八田村
5) 年代	第6期	6) 備考	
7) 立地と歴史			西山山中より流れ出る御動使川の扇状地扇尖部に位置し、西側を駿信往還が通る。北側に御動使川の旧流路があり、南側に日々遺跡が立地している。また、出土地北側の八田村内に集落跡である石橋北遺跡・立石下遺跡が、また水田跡である仲田遺跡が存在する。東南側に長盛院境内となっている金丸筑前守屋敷がある。出土地の南側に所在する日々遺跡では15世紀を境に造構・造物の分布が薄くなるが、これは大規模な水害に起因すると考えられている。明治43年改版の陸軍地図(第80図参照)によると、出土地点は前御動使川の川辺であり、『白根町誌』によると江戸時代に出土地周辺には集落があったが、文化年間までに移転したという。
8) 出土状況			保管者の旧宅であった耕地を開墾している際に発見された。深さ約1.2mの位置から15kg(5,000枚相当)の錢貨が布に包まれて出土した。布切れは朽ちて縞も判明しなかったという。現状で確認できる錢貨は1,685枚であり、最古銭は開元通寶、最新銭は宣德通寶である。寛永通寶が1枚あったが、これは出土後に一緒にされたものであろう。

- 1 六科・村北遺跡(散)
- 2 野牛島・立石上(1)遺跡(散)
- 3 野牛島・舞台遺跡(散)
- 4 野牛島・立石上(2)遺跡(散)
- 5 立石下遺跡
- 6 野牛島・立石下遺跡
- 7 石橋北屋敷遺跡
- 8 仲田遺跡
- 9 赤山仲田遺跡
- 10 野牛島・家西遺跡
- 11 百々・上八田遺跡
- 12 穂原・南原遺跡
- 13 穂原・石九(1)遺跡
- 14 長谷寺遺跡
- 御動使川堤防址群
- 前御動使川堤防址群



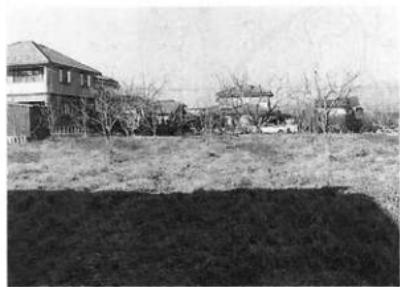
第14図 出土地周囲の包蔵地・石造物



第15図 出土地形図

第6表 南アルプス市上八田出土銭種類一覧表

No.	錢貨名	国名	初鑄年	枚数	No.	錢貨名	国名	初鑄年	枚数
1	開元通寶	唐	621	129	25	元祐通寶	北宋	1086	158
2	乾元重寶	唐	758	15	26	紹聖元寶	北宋	1094	80
3	宋通元寶	北宋	960	3	27	元符通寶	北宋	1098	33
4	太平通寶	北宋	976	11	28	聖宋元寶	北宋	1101	35
5	淳化元寶	北宋	990	20	29	大觀通寶	北宋	1107	9
6	至道元寶	北宋	995	13	30	政和通寶	北宋	1111	51
7	咸平元寶	北宋	998	24	31	宣和通寶	北宋	1119	3
8	景德元寶	北宋	1004	34	32	淳熙元寶	南宋	1174	13
9	祥符元寶	北宋	1009	39	33	大定通寶	金	1178	1
10	祥符通寶	北宋	1009	13	34	紹熙元寶	南宋	1190	1
11	天禧通寶	北宋	1017	38	35	嘉泰通寶	南宋	1201	2
12	天聖元寶	北宋	1023	100	36	開禧通寶	南宋	1205	1
13	明道元寶	北宋	1032	9	37	嘉定通寶	南宋	1208	3
14	景祐元寶	北宋	1034	25	38	紹定通寶	南宋	1228	1
15	皇宋通寶	北宋	1038	172	39	端平元寶	南宋	1234	1
16	至和元寶	北宋	1054	25	40	嘉熙通寶	南宋	1237	2
17	至和通寶	北宋	1054	2	41	淳祐元寶	南宋	1241	1
18	嘉祐元寶	北宋	1056	18	42	景定元寶	南宋	1260	1
19	嘉祐通寶	北宋	1056	28	43	洪武通寶	明	1368	11
20	治平元寶	北宋	1064	36	44	永樂通寶	明	1408	47
21	治平通寶	北宋	1064	1	45	宣德通寶	明	1433	3
22	熙寧元寶	北宋	1068	149	46	判読不能			150
23	元豐通寶	北宋	1078	173		合計			1526



出土地遠景



出土地近景

図版4 出土地周辺

本事例掲載資料

西郡史話刊行会 1968 『西郡史話』
白根町 1970 『白根町誌』

長坂町大八田（小和田遺跡）

1) 発見年月日	1985年(昭和59)	2) 保管者(住所)	長坂町郷土資料館
3) 発見地	北巨摩郡長坂町大八田5358	4) 郷名・村名等	中世) 大八幡庄 近世) 大八田村
5) 年代	第4期	6) 備考	
7) 立地と歴史	鳩川左岸に所在する小和田遺跡を1983年に発掘調査した際に発見された。遺跡は鳩川が山麓台地を浸食して形成された氾濫原に位置する。調査では、竪穴状遺構・掘立柱建物跡・地下式土坑・土坑・排列などが数多く検出された。銭貨はいずれもD地区南側で確認され、出土地点より北側は竪穴状遺構が展開し、南側には墓域が広がっている。また、鳩川の対岸には薬研堀の内側に掘立柱建物跡を伴う小和田館跡が確認されている。小和田遺跡の北側には棒道を挟んで県史跡深草館跡がある。小和田遺跡周辺における遺跡の発掘調査から、館や集落などが広がっている様子が分かる。		
8) 出土状況	D地区の3地点から出土している。第1地点の銭貨は遺構に伴うものではなく、一定の単位に束ねた綱銭を並行に置いている。綱銭には遭存状態は悪いものの、綱紐が確認できた。第2地点の銭貨は方形を呈する掘り込みの中にあり、銭貨の並べ方はやや乱れている。第3地点からは、銀貨2,802枚が古瀬戸四耳壺にぎっしりと詰まつた状態で出土した。銭貨には綱紐が通った綱銭が検出されている。中でも環状の綱錢(貫銭)は1解(約97枚)ずつ結び目を作った、1貫文に相当する状態で出土した。中世における銭貨の流通形態を示す資料として注目される。第1・2地点は検出時の状態で保管されている。		

- 1 内城遺跡(散)
 - 2 別当遺跡(散)
 - 3 金生遺跡
 - 4 深草館址
 - 5 南新居北遺跡
 - 6 南新居屋敷跡
 - 7 南新居西遺跡
 - 8 小和田館址
 - 9 下井出遺跡(散)
 - 10 下井出塚跡
 - 11 甲ツ遺跡(散)
 - 12 渋田遺跡(散)
 - 13 神明遺跡(散)



第16図 出土地周囲の包蔵地・石造物



第17図 出土地形図

第7表 長坂町大八田（小和田遺跡）第3地点出土銭種一覧表

No.	錢貨名	国名	初鑄年	枚数	No.	錢貨名	国名	初鑄年	枚数
1	開元通寶	唐	621	223	26	元祐通寶	北宋	1086	258
2	乾元重寶	唐	758	8	27	紹聖元寶	北宋	1094	93
3	開元通寶	唐	845	1	28	元符通寶	北宋	1098	37
4	乾德通寶	前蜀	919	1	29	聖宋元寶	北宋	1101	75
5	宋通元寶	北宋	960	8	30	大觀通寶	北宋	1107	52
6	太平通寶	北宋	976	20	31	政和通寶	北宋	1111	109
7	淳化元寶	北宋	990	22	32	宣和通寶	北宋	1119	11
8	至道元寶	北宋	995	51	33	正隆元寶	金	1157	5
9	咸平元寶	北宋	998	27	34	淳熙元寶	南宋	1174	18
10	景德元寶	北宋	1004	42	35	大定通寶	金	1178	3
11	祥符元寶	北宋	1009	64	36	慶元通寶	南宋	1195	8
12	祥符通寶	北宋	1009	31	37	嘉泰通寶	南宋	1201	5
13	天禧通寶	北宋	1017	52	38	開禧通寶	南宋	1205	2
14	天聖元寶	北宋	1023	116	39	嘉定通寶	南宋	1208	9
15	明道元寶	北宋	1032	13	40	紹定通寶	南宋	1228	4
16	景祐元寶	北宋	1034	71	41	嘉熙通寶	南宋	1237	1
17	皇宋通寶	北宋	1038	311	42	淳祐元寶	南宋	1241	8
18	至和元寶	北宋	1054	17	43	皇宋元寶	南宋	1253	27
19	至和通寶	北宋	1054	4	44	景定元寶	南宋	1260	16
20	嘉祐元寶	北宋	1056	37	45	咸淳元寶	南宋	1265	5
21	嘉祐通寶	北宋	1056	46	46	洪武通寶	明	1368	129
22	治平元寶	北宋	1064	50	47	永樂通寶	明	1408	147
23	治平通寶	北宋	1064	3	48	判読不能	—	—	16
24	熙寧元寶	北宋	1068	261					
25	元豐通寶	北宋	1078	285		合計			2802



出土地遠景



出土地近景

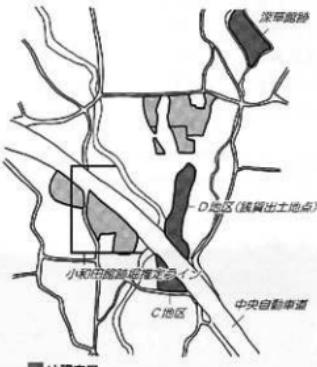
図版5 出土地周辺

本事例掲載資料

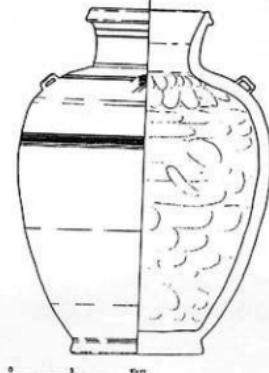
長坂町教育委員会 1985 『小和田館跡 発掘調査概報』
長坂町教育委員会 1986 『小和田館跡（小和田北遺跡）』

長坂町大八田（小和田遺跡）詳細

1) 遺跡周囲の環境	小和田遺跡周辺には多くの中世遺跡がある。遺跡の西側には小和田館跡が位置している。小和田館跡からは薬研堀が検出されたことにより、館の範囲が推定されている。館の南側及び西側の堀は確認されているものの、東側の堀は確認されていない。このことから、鳩川を堀として機能させたとする説もある。銭貨が出土した小和田遺跡D地区は館の外側に位置し、居住区と墓域が展開する地点と位置付けられる。縄錢が出土した地点より北側には居住区である堅穴状遺構が位置し、南側には墓域である可能性を有す土坑群がある。また、D地区の南側に位置するC地区には地下式土坑が検出されている。この様な遺構の分布状況を見ると、縄錢は性格の異なる遺構の境界に位置することが分かる。このことから、銭貨の性格を埋納錢とする指摘もある。
2) 大量一括埋蔵錢貨 第1地点の出土状況	F-3Gに位置している。錢貨は縄状を呈し、ほとんど原形を留めていないが、組も検出された。掘り込みはなかったが、錢貨の底面に刻文が敷かれていた。錢貨の総数は1,098枚である。付着錢を剥離していないため、錢種構成は不明であるが、確認される範囲での最新銭は永楽通寶、最古銭は開元通寶である。
3) 大量一括埋蔵錢貨 第2地点の出土状況	第1地点から東へ約5m離れた、F-4Gに位置している。錢貨は縄状を呈するものの、第1地点よりは乱れている。遺構の断ち割りにより、深さ約10cm・一辺が約20cmを呈する方形の掘り込みの中に錢貨が充填されている状態が確認された。錢貨の総数は2,400枚であり、確認される範囲での最新・最古銭は第1地点と同じである。
4) 大量一括埋蔵錢貨 第3地点の出土状況	第2地点から東へ約10m離れた、E-4GとF-4Gの境に位置している。第3地点からは、錢貨2,802枚が古瀬戸四耳壺にぎっしりと詰まった状態で出土した。縄錢は環状の貫繩と百文繩に分けられる。貫繩は971枚、百文繩は12編分あり、その総数は1,164枚である。貫繩のうち、一つが98枚である以外は、97枚という枚数を基準に束ねられている。縄錢の遺存状態は良好である。また、古瀬戸四耳壺の年代は15世紀前半に位置付けられる。全ての銭銘が確認されており、最新銭は永楽通寶、最古銭は開元通寶である。



第18図 小和田遺跡周辺の遺跡
(「山梨県の城」P79図を加筆修正)



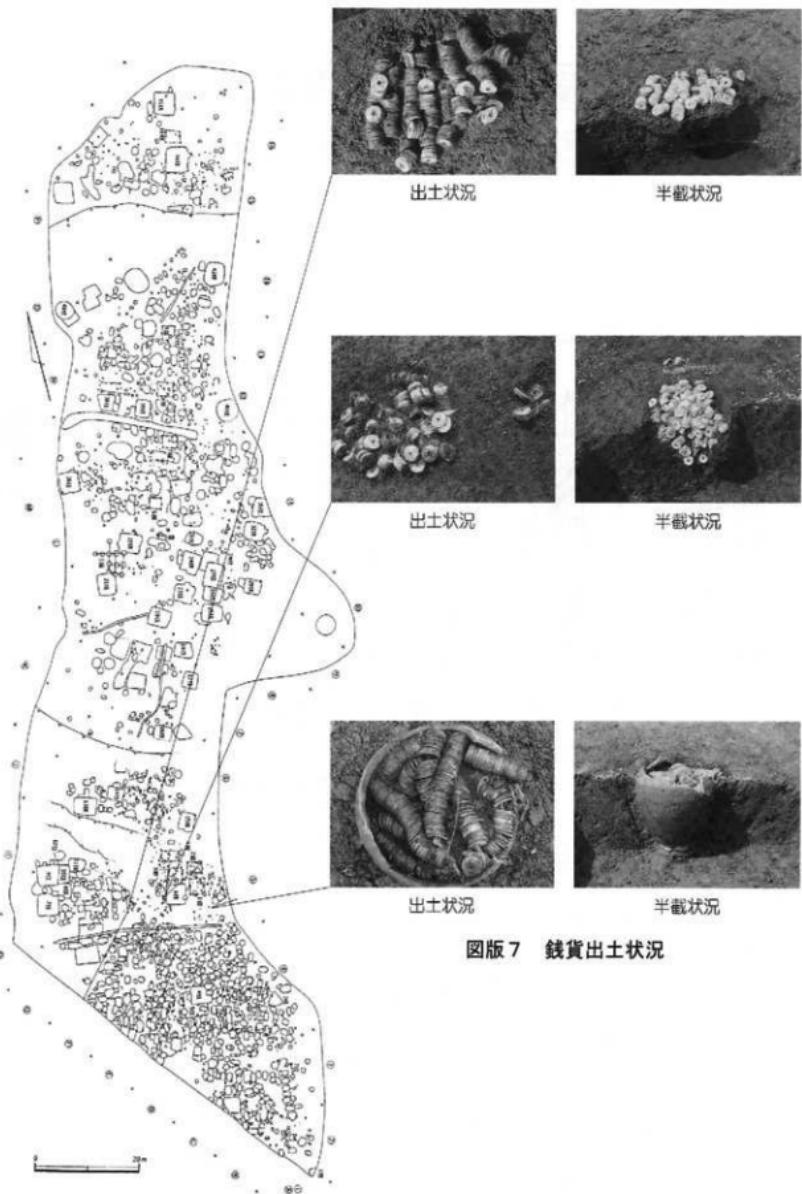
第19図 出土遺物
(錢貨の容器・第3地点出土)



第20図 出土遺物
(綱錢・第3地点出土)



図版6 出土遺物
(綱錢)



圖版7 錢貨出土狀況

第21図 D地区全体図

長坂町大八田（渋田遺跡）

1) 発見年月日	1992年（平成3）5月3日	2) 保管者(住所)	長坂町郷土資料館
3) 発見地	北巨摩郡長坂町大八田993-1	4) 郷名・村名等	中世）大八幡庄 近世）大八田村
5) 年代	第4期	6) 備考	
7) 立地と歴史			
弥生・平安・中世の渋田遺跡の範囲内に位置し、泉川・甲川に挟まれた山麓台地上に所在する。棒道が出土地の南側を南北に通る。出土地から北西方向約700mに小和田遺跡がある。西側に鳩川の沖積平地があり、これを囲むように集落が展開するが、小和田館跡・金生遺跡・深草館跡などはこの田畠内に点在するので、中世の景観と現状は大きく異なる。高野山成慶院所蔵『武田家日坏帳』の中に「大八田住人」として堀内下守總の名が見える。堀内下守總は『甲斐国志』では深草城主とされている。			
8) 出土状況			
畠地を耕作中、深さ約50cmの地中より出土した。出土した時は、約16kg（約3,000枚相当）あつたというが、現存するのは1,470枚である。裁縫の最古裁は開元通寶、最新裁は永樂通寶である。出土時には10~20枚が付着しており、縫紐が残存していたが、錢種分類のため剥離した。			

- 1 深草館址
- 2 南新居北遺跡（散）
- 3 南新居屋敷跡（散）
- 4 南新居西遺跡（散）
- 5 甲ツ遺跡（散）
- 6 小和田館址
- 7 西深山遺跡（散）
- 8 持井B遺跡（散）
- 9 渋田遺跡（散）
- 10 神明遺跡（散）
- 11 大正寺遺跡（散）
- 12 西ノ原B遺跡（散）
- 13 薩蒲原B遺跡（散）



第22図 出土地周囲の包蔵地・石造物



第23図 出土地形図

第8表 長坂町大八田（渋田遺跡）出土銭種一覧表

No.	錢貨名	国名	初鑄年	枚数	No.	錢貨名	国名	初鑄年	枚数
1	開元通寶	唐	621	236	21	治平通寶	北宋	1064	6
2	乾元重寶	唐	758	3	22	熙寧元寶	北宋	1068	250
3	宋通元寶	北宋	960	2	23	元豐通寶	北宋	1078	500
4	太平通寶	北宋	976	3	24	元祐通寶	北宋	1086	279
5	淳化元寶	北宋	990	21	25	紹聖元寶	北宋	1094	88
6	至道元寶	北宋	995	33	26	元符通寶	北宋	1098	5
7	咸平元寶	北宋	998	40	27	聖宋元寶	北宋	1101	78
8	景德元寶	北宋	1004	52	28	大觀通寶	北宋	1107	10
9	祥符元寶	北宋	1009	111	29	政和通寶	北宋	1111	88
10	祥符通寶	北宋	1009	29	30	宣和通寶	北宋	1119	1
11	天禧通寶	北宋	1017	61	31	正隆元寶	金	1157	1
12	天聖元寶	北宋	1023	237	32	淳熙元寶	南宋	1174	2
13	明道元寶	北宋	1032	6	33	紹熙元寶	南宋	1190	1
14	景祐元寶	北宋	1034	24	34	開禧通寶	南宋	1205	1
15	皇宋通寶	北宋	1038	269	35	嘉熙通寶	南宋	1237	1
16	至和元寶	北宋	1054	25	36	皇宋元寶	北宋	1253	1
17	至和通寶	北宋	1054	4	37	洪武通寶	明	1368	112
18	嘉祐元寶	北宋	1056	28	38	永樂通寶	明	1408	277
19	嘉祐通寶	北宋	1056	56	39	判読不能	—	—	—
20	治平元寶	北宋	1064	27		合計			2999



出土地遠景



出土地近景

図版8 出土地周辺

南部町万沢（御屋敷遺跡）

1) 発見年月日	1904年（明治36）年	2) 保管者(住所)	安藤節子（南部町万沢4249）
3) 発見地	南部町万沢字御屋敷4071外	4) 郷名・村名等	中世）万沢郷 近世）万沢村
5) 年代	第4期	6) 備考	
7) 立地と歴史	富士川右岸の段丘上に位置し、東側を駿州往還が通る。出土地は御屋敷遺跡の包蔵地内から出土した。鎌倉時代末期には、当地は波木井実長の勢力下にあったが、南北朝時代以降武田一族の穴山氏が河内に入り、戦国時代には河内一帯を支配した。この穴山氏の被官として万沢に屋敷を構え、万沢郷の領主となつたのが万沢遠江守君泰である。君泰は駿河に対する国境警固に当たり、元亀元（1570）年に没している。屋敷周囲には、烽火台である井出城山や、葛谷城・白鳥山城などの国境の城があつた。御屋敷は万沢氏の居館とされており、現状は開墾により現状を留めていないが、南を向き方約三十間、東北西の三面に高さ六尺から一丈二尺、幅一丈五尺から一丈八尺の土塁が存在していたといふ。		
8) 出土状況	出土地点は、万沢中学校の東側を通る旧国道62号に隣接した畠地であり、ここを開墾した際に出土した。出土した廻の総数は、昭和7年発行の『南巨摩郡誌』では「十貫目」としている。出土時の詳細な状況は不明である。なお、散逸が著しく、現存する資料は67枚である。		

- 1 御屋敷遺跡
2 古御所遺跡



A 宝篋印塔
康正3（1457）年銘

第24図 出土地周囲の包蔵地・石造物



第25図 出土地形図

第9表 南部町万沢（御屋敷遺跡）出土銭種一覧表

No.	銭貨名	国名	初鑄年	枚数	No.	銭貨名	国名	初鑄年	枚数
1	開元通寶	唐	621	1	25	淳熙元寶	南宋	1174	1
2	乾元重寶	唐	758	1	26	元祐通寶	北宋	1086	2
3	乾德元寶	前蜀	919	1	27	紹聖元寶	北宋	1094	2
4	宋通元寶	北宋	960	1	28	元符通寶	北宋	1098	2
5	太平通寶	北宋	976	1	29	聖宋元寶	北宋	1101	2
6	淳化元寶	北宋	990	2	30	大觀通寶	北宋	1107	1
7	至道元寶	北宋	995	2	31	政和通寶	北宋	1111	2
8	咸平元寶	北宋	998	1	32	宣和通寶	北宋	1119	2
9	景德元寶	北宋	1004	1	33	正隆元寶	金	1157	1
10	祥符元寶	北宋	1009	1	34	大定通寶	金	1178	1
11	祥符通寶	北宋	1009	1	35	紹熙元寶	南宋	1190	1
12	天禧通寶	北宋	1017	1	36	慶元通寶	南宋	1195	1
13	天聖元寶	北宋	1023	2	37	嘉泰通寶	南宋	1201	1
14	明道元寶	北宋	1032	3	38	開禧通寶	南宋	1205	1
15	景祐元寶	北宋	1034	2	39	嘉定通寶	南宋	1208	1
16	皇宋通寶	北宋	1038	2	40	嘉熙通寶	南宋	1237	1
17	至和元寶	北宋	1054	1	41	淳祐元寶	南宋	1241	1
18	至和通寶	北宋	1054	2	42	皇宋元寶	南宋	1253	1
19	嘉祐元寶	北宋	1056	2	43	咸淳元寶	南宋	1265	1
20	嘉祐通寶	北宋	1056	2	44	至大通寶	元	1310	1
21	治平元寶	北宋	1064	2	45	大中通寶	明	1361	1
22	治平通寶	北宋	1064	2	46	洪武通寶	明	1368	1
23	熙寧元寶	北宋	1068	2	47	永樂通寶	明	1408	1
24	元豐通寶	北宋	1078	2	合計				67



出土地近景



出土地近郊より富士川対岸を望む

図版9 出土地周辺

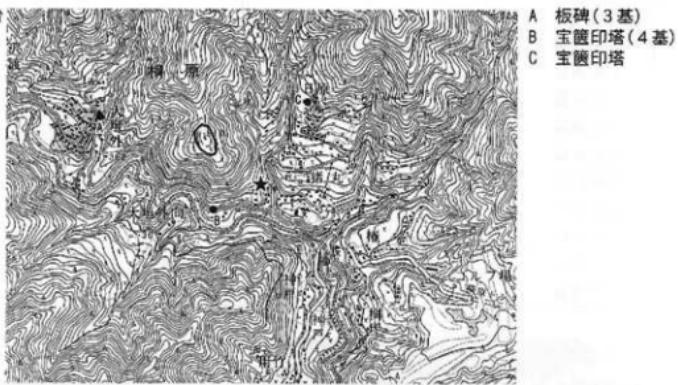
本事例掲載資料

佐野幸知 1933 『南巨摩郡誌』
富沢町 2002 『富沢町誌』

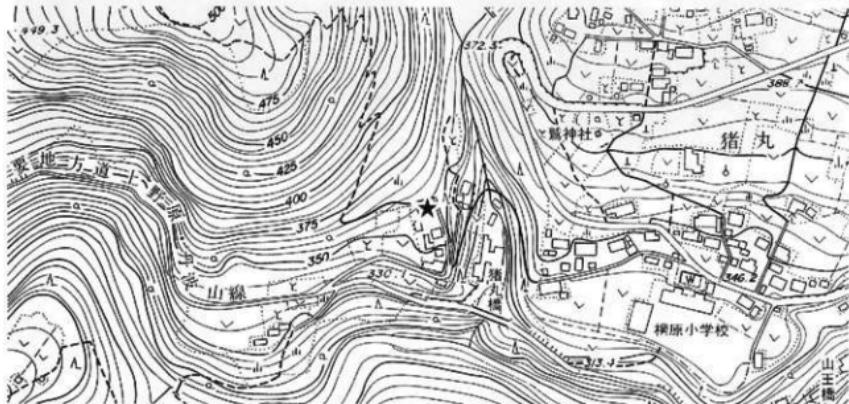
上野原町桐原

1) 発見年月日	1965年（昭和39）	2) 保管者(住所)	県立桐原青少年自然の里（堀・錢貨）・上野原町教育委員会（錢貨）
3) 発見地	北都留郡上野原町桐原9303	4) 郷名・村名等	中世) 桐原郷 近世) 桐原村
5) 年代	第6期	6) 備考	堀と錢貨は県立桐原青少年自然の里に展示
7) 立地と歴史	土佐岳の南麓の鶴川と北側から流れる小河川によって形成された段丘上に位置する。東側に東京都檜原村に抜ける古道があり、口留番所が設けられた。出土地北西側に猪丸城山の烽火台があり、武藏国へ通じる要衝の地であったことを窺わせる。国境に近いために他国からの侵略を幾度か受けており、年不詳であるが、「譲原之内井出小屋」が北条側の朱印状に見えることから北条勢が侵入したことをうかがわせる。		
8) 出土状況	高橋純一氏宅改築工事の際、地表下1m位の深さに埋まっていた板石の下から、堀に納められた状態で発見された。堀の内面には鎧戸の形状を呈する縁青が付着している。出土時は鎧組が残存しており、約5,000枚が出土したというが、現在1,718枚の錢貨が確認できる。最古錢は開元通寶、最新錢は政和通寶であるが、1) 最新錢が政和通寶である場合第1期より前になること、2) 常滑焼が14世紀第4四半紀であることから、散逸した錢貨の中により新しい錢種があると推察される。		

1 猪丸城山の烽火台



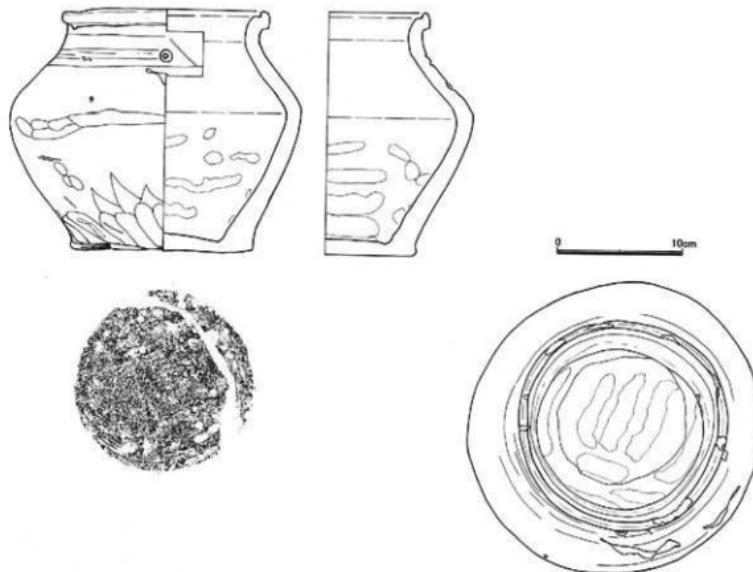
第26図 出土地周囲の包蔵地・石造物



第27図 出土地形図

第10表 上野原町桐原出土銭種一覧表

No.	錢貨名	国名	初鑄年	枚数	No.	錢貨名	国名	初鑄年	枚数
1	開元通寶	唐	621	57	16	嘉祐元寶	北宋	1056	28
2	太平通寶	北宋	976	3	17	嘉祐通寶	北宋	1056	56
3	淳化元寶	北宋	990	20	18	治平元寶	北宋	1064	28
4	至道元寶	北宋	995	29	19	治平通寶	北宋	1064	5
5	咸平元寶	北宋	998	35	20	熙寧元寶	北宋	1068	229
6	景德元寶	北宋	1004	50	21	元豐通寶	北宋	1078	208
7	祥符元寶	北宋	1009	57	22	元祐通寶	北宋	1086	167
8	祥符通寶	北宋	1009	42	23	紹聖元寶	北宋	1094	72
9	天禧通寶	北宋	1017	55	24	元符通寶	北宋	1098	5
10	天聖元寶	北宋	1023	138	25	聖宋元寶	北宋	1101	62
11	明道元寶	北宋	1032	7	26	大觀通寶	北宋	1107	9
12	景祐元寶	北宋	1034	10	27	政和通寶	北宋	1111	73
13	皇宋通寶	北宋	1038	228	28	判読不能	—	—	14
14	至和元寶	北宋	1054	29					
15	至和通寶	北宋	1054	2		合計			1718



第28図 出土遺物
(錢貨の容器)

富士吉田市上暮地（殿ノ入遺跡）

1) 発見年月日	1972年(昭和47)	2) 保管者(住所)	富士吉田市歴史民俗博物館
3) 発見地	富士吉田市上暮地字殿ノ入	4) 郷名・村名等	中世) 舌地 近世) 上暮地村
5) 年代	第8期	6) 備考	
7) 立地と歴史	金峰山と御殿山の間を流れる殿入川の左岸、標高675mの小規模な扇状地の側部緩斜面に立地する。遺跡周囲には平安時代の遺物が散布している。殿入川の水源近くには山岳信仰の対象である白糸ノ滝が存在しており、出土地は峠道の入口にあたり、東南側には富士道が通る。また周囲には日影遺跡や寺院跡である寺ノ入遺跡が位置している。『日蓮聖人註画譜』に「舌地」を宿として、翌日竹下（現静岡県小山町）に向かったとの記述がある。		
8) 出土状況	工事用地造成の際に発見された。銅鏡の総数は5,217枚であり、最古鏡は開元通寶、最新鏡は弘治通寶である。殿入川右岸には石碑があり、塚の周囲からも錢貨が出土したという。		

- 1 殿ノ入遺跡(散)
- 2 寺ノ入遺跡(散)
- 3 日影遺跡(散)



第29図 出土地周囲の包蔵地・石造物



第30図 出土地形図

第11表 富士吉田市上暮地（殿ノ入遺跡）出土銭種一覧表

No.	銭貨名	国名	初鑄年	枚数	No.	銭貨名	国名	初鑄年	枚数
1	開元通寶	唐	621	371	31	聖宋元寶	北宋	1101	137
2	乾元重寶	唐	758	14	32	大觀通寶	北宋	1107	51
3	通正元寶	前蜀	916	1	33	政和通寶	北宋	1111	173
4	光天元寶	前蜀	918	1	34	宣和通寶	北宋	1119	14
5	乾德元寶	前蜀	919	1	35	紹興元寶	南宋	1131	2
6	漢通元寶	後漢	948	1	36	正隆元寶	金	1157	9
7	宋通元寶	北宋	960	14	37	淳熙元寶	南宋	1174	21
8	太平通寶	北宋	976	28	38	大定通寶	金	1178	5
9	淳化元寶	北宋	990	34	39	紹熙元寶	南宋	1190	3
10	至道元寶	北宋	995	65	40	慶元通寶	南宋	1195	4
11	咸平元寶	北宋	998	61	41	嘉泰通寶	南宋	1201	4
12	景德元寶	北宋	1004	92	42	開禧通寶	南宋	1205	3
13	祥符元寶	北宋	1009	90	43	嘉定通寶	南宋	1208	12
14	祥符通寶	北宋	1009	59	44	大宋元寶	南宋	1225	1
15	天禧通寶	北宋	1017	92	45	紹定通寶	南宋	1228	3
16	天聖元寶	北宋	1023	188	46	嘉熙通寶	南宋	1237	1
17	明道元寶	北宋	1032	30	47	淳祐元寶	南宋	1241	4
18	景祐元寶	北宋	1034	59	48	皇宋元寶	北宋	1253	1
19	皇宋通寶	北宋	1038	498	49	景定元寶	南宋	1260	3
20	至和通寶	北宋	1054	44	50	咸淳元寶	南宋	1265	2
21	至和元寶	北宋	1054	20	51	大中通寶	明	1361	1
22	嘉祐元寶	北宋	1056	39	52	洪武通寶	明	1368	247
23	嘉祐通寶	北宋	1056	88	53	永樂通寶	明	1408	652
24	治平元寶	北宋	1064	76	54	朝鮮通寶	朝鮮	1423	13
25	治平通寶	北宋	1064	17	55	宣德通寶	明	1433	32
26	熙寧元寶	北宋	1068	478	56	弘治通寶	明	1503	1
27	元豐通寶	北宋	1078	529	57	無文錢	—	—	5
28	元祐通寶	北宋	1086	388	58	判読不能	—	—	190
29	紹聖元寶	北宋	1094	179					
30	元符通寶	北宋	1098	58		合計			5209



出土地遠景



出土地近景

図版10 出土地周辺

本事例掲載資料

橋口定志 2002「中世大量出土銭貨の性格」『季刊 考古学』第78号
富士吉田市 1998 『富士吉田市史』 史料編第1巻－自然・考古

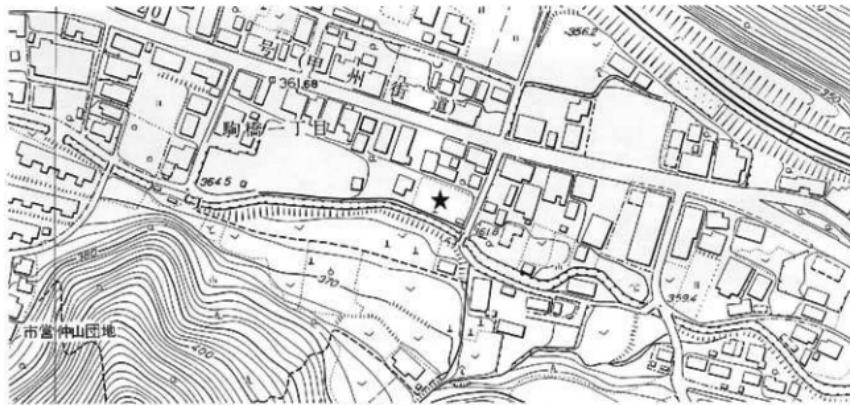
大月市駒橋

1) 発見年月日	1975年（昭和49）5月15日	2) 保管者(住所)	山梨県立博物館（予定）
3) 発見地	北都留郡大月市駒橋506	4) 郷名・村名等	中世) 駒橋 近世) 駒橋村
5) 年代	第6期	6) 備考	
7) 立地と歴史	桂川右岸の河岸段丘上に位置し、北側には甲州道中と、桂川を挟んで県史跡岩殿山城がある。立地を、より微視的に見ると南側の菊花山へ続く緩斜面地にあたる。また、出土地南には寛永年間頃に開削された五ヶ堰用水が通る。1807年の駒橋図（長田一幸家文書）によると、出土地周辺は空閑地であり、その南側に延命寺が描かれている。延命寺の創建時期は不明である。また、同絵図に小山田出羽守妾婦宅跡も描かれている。1998年山梨県埋蔵文化財センターが行った小山田出羽守妾婦宅跡推定地である御所遺跡の発掘調査では、中世の遺構は検出されなかった。出土地西南側には近世の墓標が立つ。		
8) 出土状況	発見者（小宮伊佐雄氏）宅裏の畠地を耕作中、地下約30cmより出土した。銭貨は約30cm四方の場所に網羅的状態で2重に積み重ねられていたという。平成14年度の山梨県埋蔵文化財センターが行った調査により、銭貨埋蔵構造が確認された。遺構は一边が30cmの方形を呈し、擂鉢状を呈する。周囲において中世の遺構・遺物は確認されなかった。		

- 1 岩殿城跡
2 丹後(鍛冶)屋敷
3 妾婦屋敷



第31図 出土地周囲の包蔵地・石造物



第32図 出土地形図

第12表 大月市駒橋出土錢種一覽表

No.	錢貨名	国名	初鑄年	枚数	No.	錢貨名	国名	初鑄年	枚数
1	開元通寶	唐	621	470	31	聖宋元寶	北宋	1101	248
2	乾元重寶	唐	758	17	32	大觀通寶	北宋	1107	73
3	乾德元寶	前蜀	919	2	33	政和通寶	北宋	1111	234
4	漢通元寶	後漢	948	1	34	宣和通寶	北宋	1119	23
5	周通元寶	後周	955	1	35	正隆元寶	金	1157	9
6	唐國通寶	北宋	959	3	36	天盛元寶	西夏	1158	1
7	宋通元寶	北宋	960	22	37	淳熙元寶	南宋	1174	27
8	太平通寶	北宋	976	50	38	大定通寶	金	1178	5
9	淳化元寶	北宋	990	52	39	紹熙元寶	南宋	1190	10
10	至道元寶	北宋	995	110	40	慶元通寶	南宋	1195	8
11	咸平元寶	北宋	998	97	41	嘉泰通寶	南宋	1201	6
12	景德元寶	北宋	1004	139	42	開禧通寶	南宋	1205	7
13	祥符元寶	北宋	1009	126	43	嘉定通寶	南宋	1208	32
14	祥符通寶	北宋	1009	81	44	大宋元寶	南宋	1225	3
15	天禧通寶	北宋	1017	130	45	紹定通寶	南宋	1228	4
16	天聖元寶	北宋	1023	301	46	端平元寶	南宋	1234	1
17	明道元寶	北宋	1032	37	47	嘉熙通寶	南宋	1237	1
18	景祐元寶	北宋	1034	96	48	淳祐元寶	南宋	1241	9
19	皇宋通寶	北宋	1038	795	49	皇宋元寶	南宋	1253	6
20	至和元寶	北宋	1054	56	50	景定元寶	南宋	1260	4
21	至和通寶	北宋	1054	29	51	咸淳元寶	南宋	1265	8
22	嘉祐元寶	北宋	1056	79	52	至大通寶	元	1310	6
23	嘉祐通寶	北宋	1056	152	53	大中通寶	明	1361	4
24	治平元寶	北宋	1064	123	54	洪武通寶	明	1368	307
25	治平通寶	北宋	1064	20	55	永樂通寶	明	1408	759
26	熙寧元寶	北宋	1068	603	56	宣德通寶	明	1433	11
27	元豐通寶	北宋	1078	760	57	朝鮮通寶	明	1423	11
28	元祐通寶	北宋	1086	537	58	島錢(元平口寶)	日本	不詳	1
29	紹聖元寶	北宋	1094	255	59	判読不能	—	—	121
30	元符通寶	北宋	1098	95	合計				7178



第33図 出土遺物（元平口寶）拓影



出土地近景

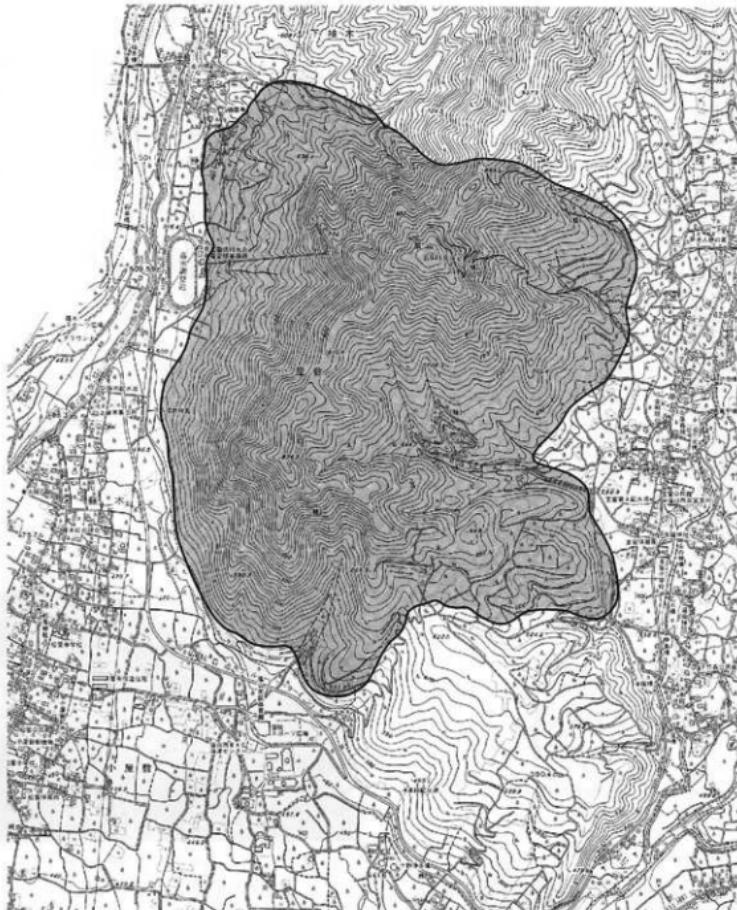
圖版11 出土地周辺

(2) 新聞掲載事例

*項目「5) 新聞報道の引用」のカッコ中の語句は、編集者による注である。

塙山市小屋敷

1) 発見地	塙山市(松里村) 小屋敷字扇山	2) 郷名・村名等	中世) 松尾郷 近世) 小屋敷村
3) 報道された日付	大正5年4月11日山梨日日新聞	4) 備考	
5) 新聞報道の引用	多数の古銭発掘 合計千四百二十個 東山梨郡松里村恵林寺の所有に係る御屋敷字扇山 小字汁垂山林内元山の神の境内にて去る一日同村下藤村組一同義務人夫として地均工事に従事中 同村奥山龍作の長男夷山直敏の娘先に掘りて地下約三四寸の所より支那青銅一匁錢のみ合計一四 廿個の埋蔵物発見されたるに付き恵林寺住職横井永明師より現品を添日下部署へ届出しが発掘 の個所の其附近一帯には古墳又は別段口碑の伝はりたる者なれば多分何者か他より窃取し来り て藏匿したるものならん而して其種類は天元聖寶(天元聖寶の誤り)、開元通寶、治元平寶(治 平元寶の誤り)、咸淳元寶、寛永通寶其他にして中には古銭愛玩者の垂涎を禁じ得ざるものもあ りと		



第34図 出土地形図

八代町奈良原

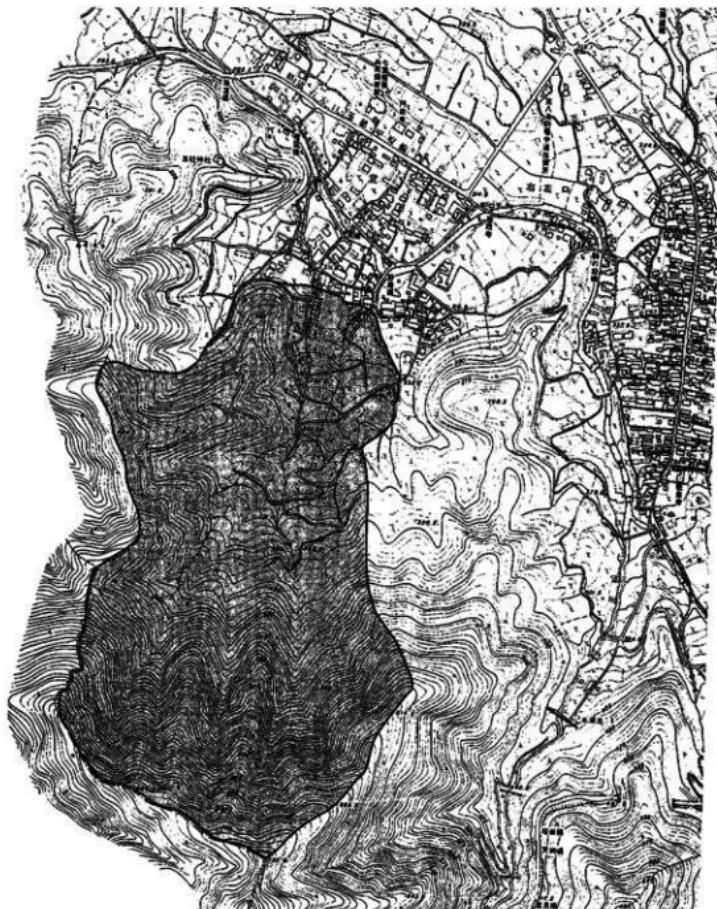
1) 発見地	八代町(竹野原村)奈良原	2) 網名・村名等	中世) 不明	近世) 不明
3) 報道された日付	昭和3年6月18日山梨日日新聞	4) 備考		
5) 新聞報道の引用	永楽通寶其他の古銭九千枚発掘 竹野原廣濟寺境内から きのふ石和署へ届け出づ 東八代郡竹野原村字原廣濟寺住職岩田宗保師は此程境内排水路を作るべく人夫二名を雇ひ入れて工事中、地下二尺位の所より一個の古壺を発掘し、開いて見て見たところ中には永楽通寶其他古銭九千個重量約九貫匁を発見したとて昨日石和署へ届け出たが、数代前の住職が埋蔵しておいたものらしいと			



第35図 出土地形図

中道町七覚

1) 発見地	中道町（右左口村）七覚	2) 郷名・村名等	中世) 不明	近世) 右左口村
3) 報道された日付	昭和5年4月14日山梨日日新聞	4) 備考		
5) 新聞報道の引用	七覚山から 古銭発掘 山洞山は往古、弘法大師が巡錆の際、七谷七洞一洞欠けて居た為め本山は紀州と定められたといふ伝説が残ってゐる所であるが今回同所の楠崎時造氏所有の山林を開墾せんとしたるに、地中より日本及び支那の古銭六十餘種、千六百個（一貫六百七十匁）がざくざくと発掘されたので、珍しくて見物人多数集まつて居る、同地は大寶元年役の小角が金剛智院を草創し富士登山の道を茲より開き聖武天皇の御宇、僧行基が堂宇を移転再興し七覚山圓楽寺と號し桓武天皇勅願の道場とし武門の佛依深く北条時頼が三十三坊を建て爾來僧兵多數駐屯したが天正年間織田信長の兵火に焼失したといふ伝説があるといふ			



第36図 出土地形図

甲府市大里町古市場

1) 発見地	甲府市大里町（大鎌田村）古市場	2) 郷名・村名等	中世) 不明	近世) 古市場村
3) 報道された日付	大正6年3月6日山梨日日新聞	4) 備考		
5) 新聞報道の引用	中巨摩郡大鎌田村古市場組内藤凌吉は此程村内元清光寺跡の竹籠を開墾せんとして地下一尺許りの所より古茶釜様の器物を発見し統いて古銭約三貫匁四千枚許りざくざくと発掘したるより直に所轄署へ届け出でた由なるが右古茶釜様のものは古色蒼然たるものなれば発掘の際鋸尖にて数個に打ち砕きたる由古銭は何れも腐食し居り年号の如きもさだかならぬど支那銭らしと尚三年許り以前にも同所附近より古銭を発掘したる事ありと云ふ			



第37図 出土地形図

高根町五町田

1) 発見地	高根町（甲村）五町田1314	2) 郷名・村名等	中世）村山郷 近世）甲村
3) 報道された日付	大正3年1月17日山梨日日新聞	4) 備考	
5) 新聞報道の引用	駿北に古銭発掘 総重量19貫餘 北巨摩郡甲村一九一（番戸）、清水磨作方に於て去る八日飲料水井戸掘替への為自宅裏にて三尺計り掘下げる所直徑一尺四寸高さ三尺位の土製の甕を発見したるより之はと計り、驚いて中を改めたるに中より緑青色の古銭ザクザクと現はれ出でたり総重量19貫三百匁あり文字の如きも明らかならざるもの併せて七十三種あり宋元通寶（宋元寶の誤り）、明元通寶、洪武通寶、聖元通寶、太平通寶、聖味通寶（聖和通寶の誤り）、皇宋通寶、嘉福通寶、熙元通寶（熙寧元寶の誤りか）、天通符寶（天符通寶の誤り）、建炎通寶等あり或は其裏面に一錢と記したるもあり十六、二十等の単に数字を記したるものあり直に墓崎署へ届け出で目下同署にて取調中なるが大部分は支那唐宋時代の古銭なるべしといふ		



第38図 出土地形図

第3節 一括埋蔵錢貨出土事例報告



第39図 一括埋蔵錢貨出土位置図

第13表 一括埋蔵錢貨報告書記載事例一覧表

時代	都道府県	市町村	地名	出土時の状況	発掘機関	参考文献
中世	北巨摩	大泉村	金生遺跡	土坑（1号土坑）より33枚の錢貨が出土した。	不明	山梨県教育委員会 1988 『金生遺跡 I（中世編）』
中世	北巨摩	大泉村	谷戸氏館跡	石の上から無文錢179枚が出土した。	無文錢	未刊行
中世	北巨摩	白州町	古御所東遺跡	据立柱建物跡東側のピットより、12枚の錢貨が出土した。	第20表参照	白州町教育委員会 1999 『古御所東遺跡』
中世	北巨摩	明野村	神取遺跡	グリッドにより、96枚の錢貨が出土した。	未判明	明野村教育委員会 1994 『神取遺跡』
中世	東山梨	勝沼町	勝沼氏館跡	自然石で方形に囲んだ炉状の石組の隅石の上から錢貨247枚が出土した。石の上には少し大きめの石が載せてあったといふ。	第21表参照	山梨県教育委員会 1976 『勝沼氏館跡調査概報』
近世	市	南アルプス市	宮沢中村遺跡	3号建物周辺より該錢が蓋に入れられた状態で出土した。錢貨は縦食して、塊となっている。壺跡・遺構の内容から寛永通寶鐵錢だと判断される。	塊となつてゐるため不明	山梨県教育委員会 2000 『宮沢中村遺跡』

(1) 出土事例

一宮町石

1) 発見年月日	不詳	2) 保管者(住所)	里見広(一宮町石14)
3) 発見地	東八代郡一宮町石14	4) 塾名・村名等	中世) 不明 近世) 岩村
5) 年代	第5期	6) 備考	
7) 立地と歴史	京戸川扇状地上に立地し、雑文時代～中世の遺跡である田村遺跡の範囲内に位置する。出土地の西側には武田氏から崇敬を受けた浅間神社があり、その西側に御幸路が走る。北東側に早川半兵衛とその子七兵衛の屋敷跡とされる早川氏屋敷が存在する。		
8) 出土状況	葡萄園の地下約1mより織銭の状態で出土した。出土時の枚数は約500枚であったという。現存数は236枚であり、最古銭は開元通寶、最新銭は朝鮮通寶である。		

- 1 宮田遺跡(散)
- 2 三枝氏屋敷
- 3 馬込遺跡
- 4 地前田遺跡(散)
- 5 今宮遺跡
- 6 車居遺跡
- 7 田村遺跡
- 8 早川氏屋敷
- 9 中尾地蔵久保遺跡(散)
- 10 西田北遺跡(散)
- 11 地蔵塗遺跡(散)
- 12 三本木遺跡(散)
- 13 南屋敷遺跡(散)
- 14 若宮遺跡(散)
- 15 塚越遺跡
- 16 薬師堂遺跡(散)
- 17 雨宮氏屋敷
- 18 石動遺跡
- 19 北中原遺跡
- 20 車新居遺跡



第40図 出土地周囲の包蔵地・石造物

第14表 一宮町石出土銭種一覧表

No.	銭貨名	国名	初鑄年	枚数	No.	銭貨名	国名	初鑄年	枚数
1	開元通寶	唐	621	14	21	熙寧元寶	北宋	1068	13
2	乾元重寶	唐	758	1	22	元豐通寶	北宋	1078	28
3	唐國通寶	南唐	959	1	23	元祐通寶	北宋	1086	22
4	宋通元寶	北宋	960	1	24	紹聖元寶	北宋	1094	11
5	太平通寶	北宋	976	2	25	元符通寶	北宋	1098	1
6	淳化元寶	北宋	990	1	26	聖宋元寶	北宋	1101	8
7	至道元寶	北宋	995	9	27	政和通寶	北宋	1111	5
8	咸平元寶	北宋	998	1	28	宣和通寶	北宋	1119	1
9	景德元寶	北宋	1004	1	29	正隆元寶	金	1157	1
10	祥符元寶	北宋	1009	6	30	淳熙元寶	南宋	1174	2
11	祥符通寶	北宋	1009	1	31	大定通寶	金	1178	1
12	天禧通寶	北宋	1017	3	32	紹熙元寶	南宋	1190	1
13	天聖元寶	北宋	1023	10	33	嘉定通寶	南宋	1208	1
14	明道元寶	北宋	1032	1	34	淳祐元寶	南宋	1241	1
15	景祐元寶	北宋	1034	2	35	洪武通寶	明	1368	14
16	皇宋通寶	北宋	1038	36	36	永樂通寶	明	1408	21
17	至和元寶	北宋	1054	1	37	朝鮮通寶	朝鮮	1423	1
18	嘉祐元寶	北宋	1056	5	38	破片(判読不能)	—	—	1
19	嘉祐通寶	北宋	1056	3					
20	治平元寶	北宋	1064	4	合計				236

大泉村谷戸

1) 発見年月日	1985(昭和59)年8月30日	2) 保管者(住所)	加藤訓弘
3) 発見地	北巨摩郡大泉村谷戸字町屋2128	4) 墓名・村名等	中世) 矢戸 近世) 谷戸村
5) 年代	第4期	6) 備考	
7) 立地と歴史	八ヶ岳南麓の緩斜面上に立地する。出土地東側に平安時代末の逸見冠者清光の居城跡とされる谷戸城跡が位置し、西側には『甲斐国志』で谷戸淡路守の屋敷跡とされる谷戸氏館跡、東南側には巡方・丸柄や掘立柱建物跡が検出されている城下遺跡がある。出土地は「町屋」という地名の通り中世の城館跡周囲に展開する集落であったことが推察される。谷戸城内では谷戸城の北東側から大量一括埋蔵金貨が出たとされており、谷戸氏館跡からは無文銭の一括埋蔵が確認されている(第13表参照)。また、谷戸の東側にある西井出字東原からも金貨の出土が確認されている。		
8) 出土状況	畑を耕作中、地中の石を取り除いていた所、ひとつの石の下から金貨がまとまって出土した。その石を含めてたくさんの石が掘り出されたが、石は並んでいたということである。これらの石は自然礫であり、金貨の他に遺物の伴出はなく、畑においても遺物は表探されなかった。金貨の枚数は93枚であり、最古銭は開元通寶、最新銭は永楽通寶である。		

- 1 八雲神社烽火台跡
 2 下新居遺跡(散)
 3 豊武遺跡(散)
 4 方城第3遺跡
 5 東姥神遺跡
 6 東原第1遺跡
 7 東原第2遺跡(散)
 8 西田第2遺跡(散)
 9 町屋第2遺跡(散)
 10 町屋第1遺跡(散)
 11 西田遺跡(散)
 12 谷戸氏館跡
 13 御所第2遺跡(散)
 14 御所第3遺跡
 15 御所遺跡
 16 谷戸城跡
 17 城上第1遺跡(散)
 18 中村遺跡
 19 中村第2遺跡
 20 宮地第1遺跡(散)



- 21 内城遺跡
 22 十郎林遺跡
 23 屋敷附跡
 24 前林山十三塚遺跡
 25 豆生田第三遺跡
 26 豆生田第一遺跡(散)
 27 城下塹跡
 28 城下第2遺跡(散)
 29 城下遺跡
 30 寺所塹跡
 31 宮地第4遺跡(散)
 32 宮地第2遺跡
 33 宮地第3遺跡
 34 清水遺跡(散)
 35 下井出遺跡(散)
 A 日月板碑
 B 日月板碑
 C 名号塔
 D 日月板碑

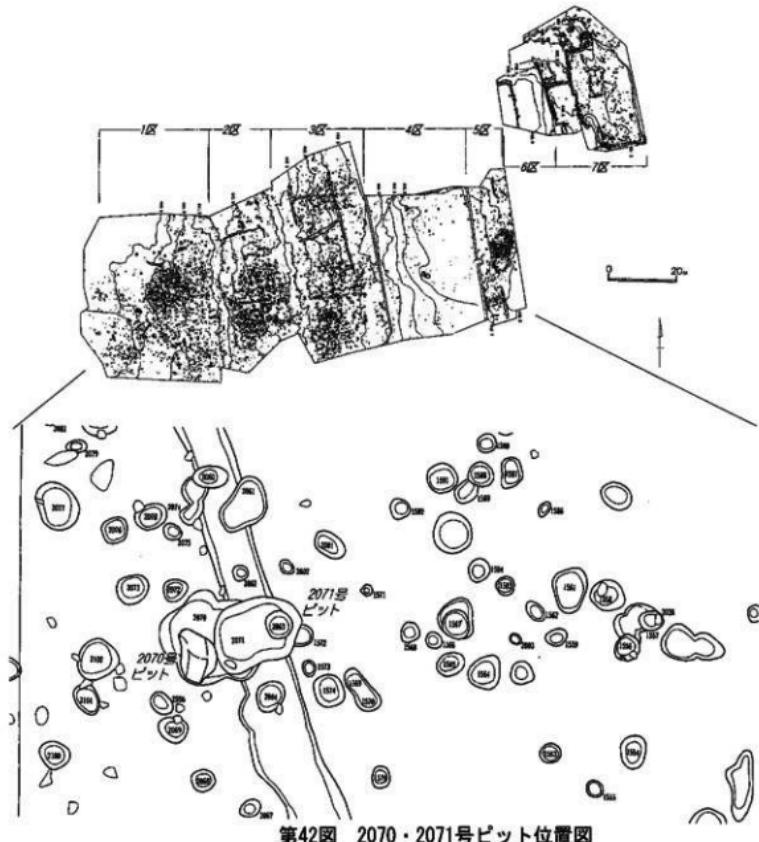
第41図 出土地周囲の包蔵地・石造物

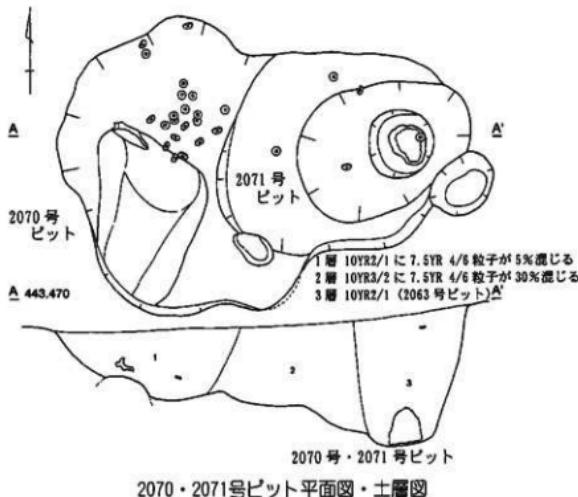
第15表 大泉村谷戸出土銭種一覧表

No.	銭貨名	國名	初鑄年	枚數	No.	銭貨名	國名	初鑄年	枚數
1	開元通寶	唐	621	10	15	元豐通寶	北宋	1078	14
2	至道元寶	北宋	995	1	16	元祐通寶	北宋	1086	5
3	景德元寶	北宋	1004	2	17	紹聖元寶	北宋	1094	7
4	祥符元寶	北宋	1009	1	18	元符通寶	北宋	1098	1
5	祥符通寶	北宋	1009	2	19	聖宋元寶	北宋	1101	4
6	天禧通寶	北宋	1017	1	20	大觀通寶	北宋	1107	1
7	天聖元寶	北宋	1023	4	21	政和通寶	北宋	1111	1
8	景祐元寶	北宋	1034	1	22	正隆元寶	金	1157	1
9	皇宋通寶	北宋	1038	8	23	大定通寶	金	1178	1
10	至和元寶	北宋	1054	2	24	紹熙元寶	南宋	1190	1
11	至和通寶	北宋	1054	1	25	洪武通寶	明	1368	3
12	嘉祐元寶	北宋	1056	2	26	永樂通寶	明	1408	8
13	治平元寶	北宋	1064	3	27	判読不能	—	—	7
14	熙寧元寶	北宋	1068	1	合計				93

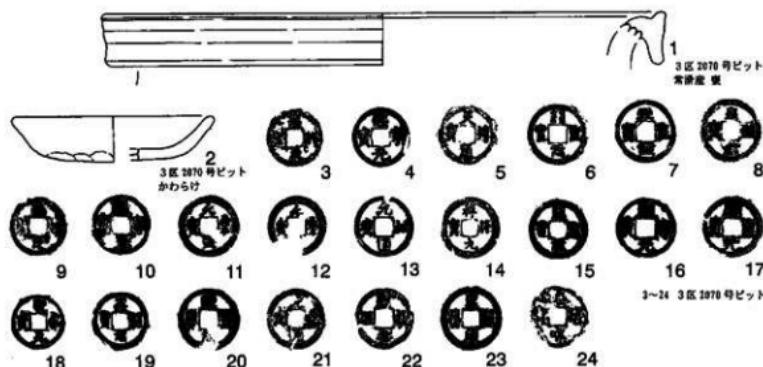
明野村小笠原（深山田遺跡）

1) 発見年月日	1998（平成10）年7月6日～12月17日	2) 保管者(住所)	明野村埋蔵文化財センター
3) 発見地	北巨摩郡明野村小笠原字深山田	4) 郷名・村名等	中世 山小笠原庄 近世 小笠原村
5) 年代	14世紀後半(常滑窯)以降	6) 備考	明野村埋蔵文化財センター
7) 立地と歴史			
遺跡は茅ヶ岳を発した小河川が塙川河岸段丘を浸食して形成した扇状地内の小谷部に位置する。この谷一帯はかつて宗教施設の立ち並ぶ土地柄であった。遺跡の東側には穗坂路があり、金峰山に至る御嶽道と繋がる。遺跡からは奈良時代から江戸時代にかけての遺構が確認された。この内、中世～近世の遺構として、柱穴3,340基・竪穴状遺構1基・火葬施設3基・配石墓2基・土坑墓6基のほか溝状遺構・石垣などが検出された。遺跡は中世の金峰山修験に係る宗教的拠点跡と推察される。石垣は古文書等から天正年間から慶長年間に創建された寺院関連の施設である。			
8) 出土状況			
銭貨を伴う遺構は東3区で検出された不定形の土坑（2070・2071号ピット）である。調査区の南北方向にある溝状遺構を切っているが、土坑東側を柱穴（2063号ピット）によって切られている。土坑からは、常滑窯口縁破片・錢貨37枚が出土した。壺は14世紀後半に位置付けられる。出土した錢貨には付着錢が含まれることから、壺に納められた備蓄錢が振り出され、壺の一部と錢貨が遺棄されたと考えられている。			





2070・2071号ピット平面図・土層図



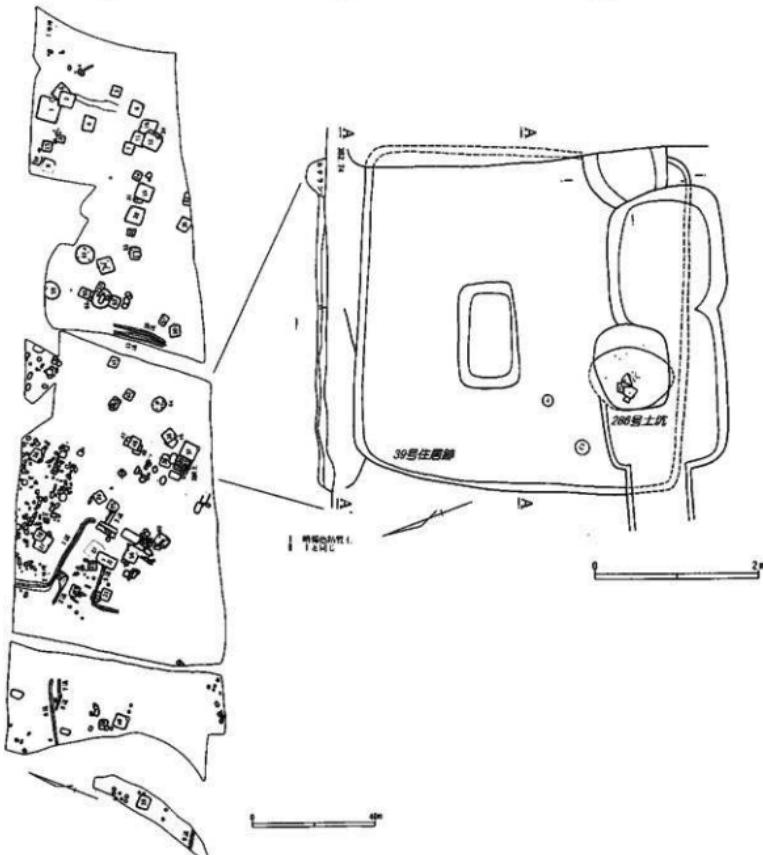
第43図 2070号・2071号ピット及び出土遺物

第16表 明野村小笠原（深山田遺跡）出土銭貨一覧表

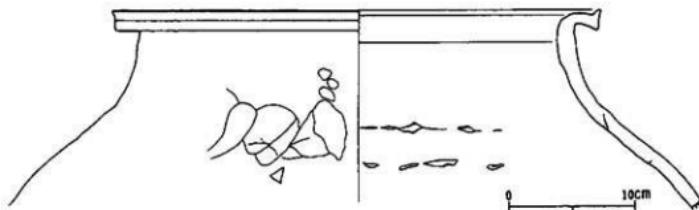
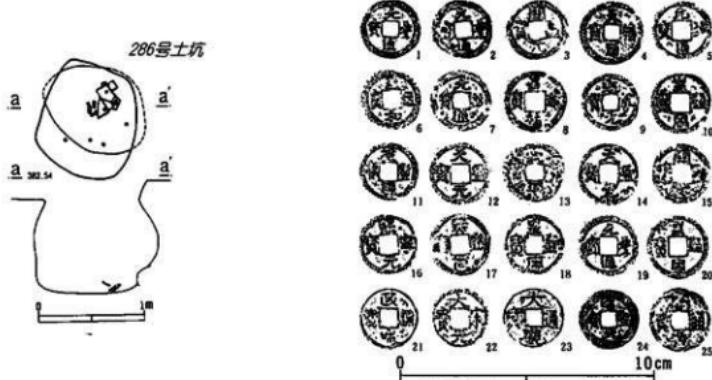
No.	銭貨名	國名	初鑄年	枚数	No.	銭貨名	國名	初鑄年	枚数
1	開元通寶	唐	621	1	8	元豐通寶	北宋	1078	4
2	祥符元寶	北宋	1009	1	9	元祐通寶	北宋	1086	1
3	天禧通寶	北宋	1017	1	10	紹聖元寶	北宋	1094	2
4	天聖元寶	北宋	1023	1	11	聖宋元寶	北宋	1101	1
5	皇宋通寶	北宋	1038	3	12	付着錢	—	—	4
6	嘉祐元寶	北宋	1056	1	13	判読不能	—	—	14
7	熙寧元寶	北宋	1068	3		合計			37

一宮町塩田（北堀遺跡）

1) 発見年月日	1981(昭和55)年8月15日～1982(昭和56)年7月28日	2) 保管者(住所)	山梨県埋蔵文化財センター
3) 発見地	東八代郡一宮町塩田字北堀	4) 郷名・村名等	中世) 塩田郷 近世) 塩田村
5) 年代	第3期(272号土坑)、不明(286号土坑)	6) 参考	山梨県埋蔵文化財センター
7) 立地と歴史			
遺跡は金川脇谷地の東縁に位置し、標高は381～383mを測る。遺跡からは織文時代～江戸時代の遺構・遺物が確認された。中世～近世の遺構としては土坑5基・方形石組遺構2基・溝状遺構11条・土坑墓4基が検出された。この内北宋錢を中心とする錢貨を伴う土坑と六道錢を伴う土坑墓は中世に比定される。遺跡の北西側には竹原田、南側には市之藏の錢貨出土地があり、北側にある慈眼寺は武田氏の祈願所として信玄・勝頼の庇護下に隆盛を極めた。			
8) 出土状況			
調査区中央南側で検出された楕円形を呈する袋状土坑(286号土坑)である。土坑の形状は長軸12.5m、短軸0.9mで深さ0.9m～1.1mを測る。土坑からは底面に接する状態で錢貨26枚が検出され、これを覆うかたちで常滑窯破片が出土した。この破片は13世紀中葉に位置付けられる。その出土状況から一括錢か、大量一括埋蔵錢貨が掘り出された後の二次的な埋蔵と考えることができる。また、272号土坑の底面近くから錢貨18枚が検出された。			



第44図 286号土坑位置図



第45図 286号土坑及び出土遺物

第17表 一宮町塩田（北堀遺跡）出土銭貨一覧

286号土坑出土銭貨

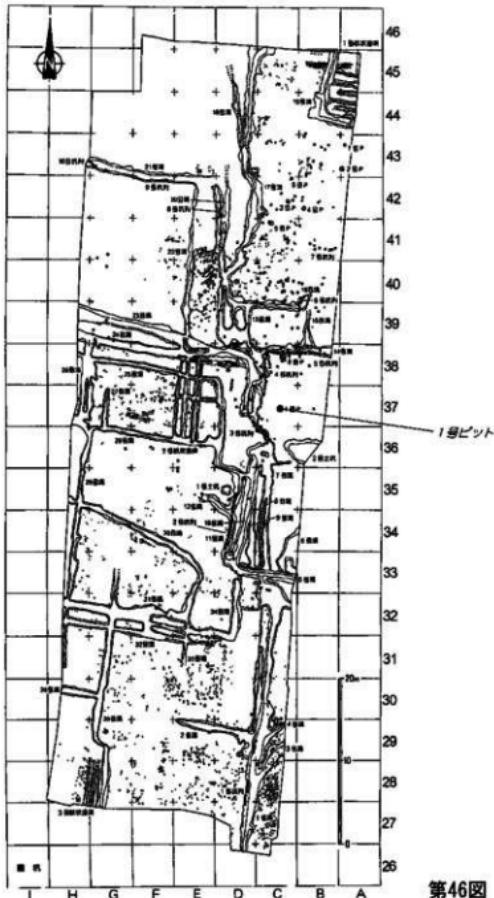
No.	銭貨名	國名	初鑄年	枚数	No.	銭貨名	國名	初鑄年	枚数
1	開元通寶	唐	621	3	9	元豐通寶	北宋	1078	4
2	太平通寶	北宋	976	1	10	元祐通寶	北宋	1086	2
3	天禧通寶	北宋	1017	1	11	紹聖元寶	北宋	1094	1
4	天聖元寶	北宋	1023	2	12	大觀通寶	北宋	1107	1
5	皇宋通寶	北宋	1038	3	13	政和通寶	北宋	1111	1
6	至和通寶	北宋	1054	1	14	大宋元寶	南宋	1225	1
7	嘉祐通寶	北宋	1056	1	15	判読不能	—	—	1
8	熙寧元寶	北宋	1068	3	合計				26

272号土坑出土銭貨

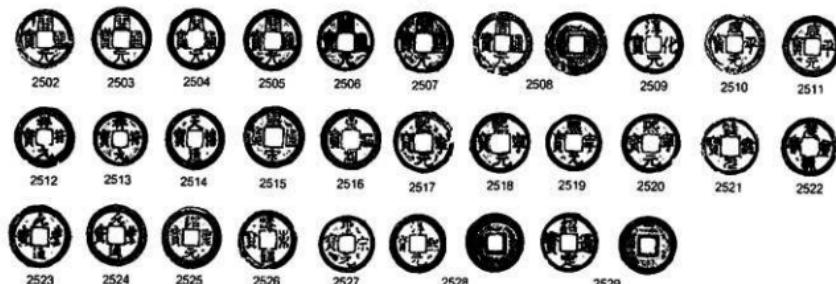
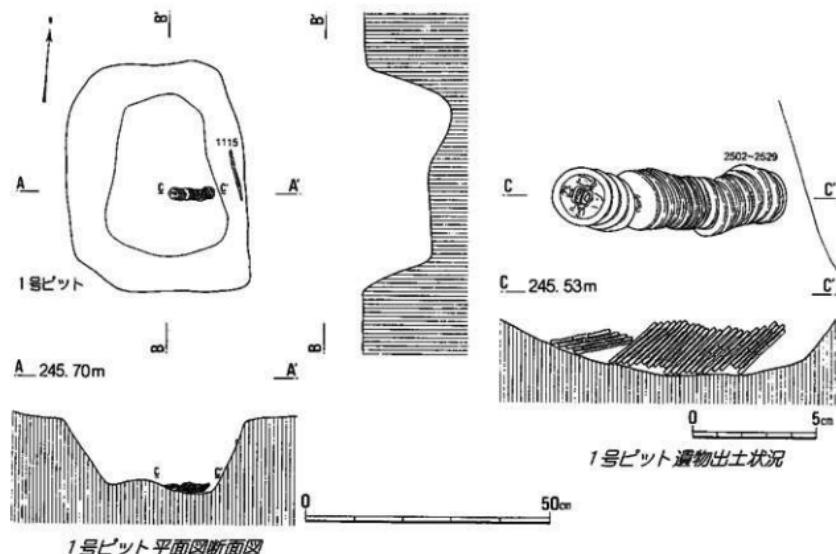
No.	銭貨名	國名	初鑄年	枚数	No.	銭貨名	國名	初鑄年	枚数
1	開元通寶	唐	621	3	7	紹聖元寶	北宋	1094	1
2	天聖元寶	北宋	1023	1	8	政和通寶	北宋	1111	1
3	明道元寶	北宋	1032	1	9	紹興元寶	南宋	1131	1
4	皇宋通寶	北宋	1038	2	10	洪武通寶	明	1361	2
5	熙寧元寶	北宋	1068	1	11	判読不能	—	—	3
6	元豐通寶	北宋	1078	2	合計				18

南アルプス市大師（大師東丹保遺跡）

1) 発見年月日	昭和40年1月15日~2月15日・昭和40年4月15日~5月15日	2) 保管者(住所)	山梨県埋蔵文化財センター
3) 発見地	南アルプス市大師字東丹保175外	4) 郷名・村名等	中世) 大師 近世) 大師村
5) 年代	不明	6) 備考	山梨県埋蔵文化財センター
7) 立地と歴史	遺跡は富士川右岸の標高245m~250mを測り、巨摩山地の南東側にある複合扇状地の扇端部に位置する。中世～近世の遺構としては、II区から構36条・杭列10条・土坑2基・ピット8基・歯状遺構3基・掘立柱建物跡4棟・井戸跡1基、III区から掘立柱建物跡1棟・溝10条・杭列8条・井戸跡1基・水田跡8枚が検出された。特殊な遺構として、II区から祭祀場を伴う建物跡が確認された。水辺の祭祀場を伴う居住空間としてII区があり、その周辺に広がる水田がI・III・IV区である。II区の建物群は一帯を支配した階層の存在を示唆している。		
8) 出土状況	II区中央部で検出されたピット（1号ピット）の底面から銭貨が確認された。ピットの規模は長軸46.5cm・短軸37.0cm・深さ14~18cmで、平面が不整長方形、断面は不整形な鉤状を呈する。確認された銭貨の枚数は28枚であり、重なって出土した。また、銭貨の東側からは斎車が出土している。この遺構は鎌倉時代を中心とした面であり、13世紀中葉～14世紀初めに位置付けられる。		



第46図 1号ピット位置図



第47図 1号ピット及び出土遺物

0 5 cm

第18表 南アルプス市大師（大師東丹保遺跡）出土銭貨一覧表

No.	銭貨名	國名	初鑄年	枚数	No.	銭貨名	國名	初鑄年	枚数
1	開元通寶	唐	621	6	9	熙寧元寶	北宋	1068	5
2	周通元寶	後周	955	1	10	元豐通寶	北宋	1078	3
3	淳化元寶	北宋	990	1	11	紹聖元寶	北宋	1094	1
4	咸平元寶	北宋	998	2	12	海東通寶	高麗	1097	1
5	祥符元寶	北宋	1009	2	13	聖宋元寶	北宋	1101	1
6	天禧通寶	北宋	1017	1	14	淳熙元寶	南宋	1174	1
7	皇宋通寶	北宋	1038	1	15	紹定通寶	南宋	1228	1
8	至和通寶	北宋	1054	1	合計				28

(2) 新聞掲載事例

白州町白須

1) 発見地	白州町（菅原村）白須	2) 郷名・村名等	中世) 白須之郷 近世) 白須村
3) 報道された日付	明治29年4月11日山梨日日新聞	4) 備考	
5) 新聞報道の引用	古銭を堀出す 北巨摩郡菅原村白須組坂本忠五郎は 全組内なる字大庭と称する處の堀を田に変換せんと起工中なりしが本月八日も鉛を以て地盤を掘穿ちたるに鉛の先にカチリと音を発したるゆえ土塊を改め見るに青銭の一厘銭なるゆえ心にとどめず尚も掘穿つうちに端なくも壺様の土器を掘出し蓋を明けて改め見るに永楽洪武開元などいふ一厘の古銭九十七枚を発見したり此邊は往古武田家の家臣馬場信房の邸址なるよし土俗に伝ふる処なるが正可信房の遺物もあるまじ		



第48図 出土地形図

第4節 その他の銭貨出土事例

(1) 詳細不明事例

(第19表 詳細不明事例一覧表)

都市	市町村名	出土地点名	内容
東山梨	山梨市	下神之川305	1983年4月29日、耕作中に甲州金一分判が出土した。出土遺物は鉢木氏が保管している。近世金貨の出土事例である。
東八代	御坂町	上黒駒	1957年頃、神社の境内を移転した際に、本殿の地下から錢貨が50枚程度出土したという。
西八代	下部町(旧久那 土村)	切房木	明治年間、久那土村切房木で糞瓶刷削中、まず古錢2貫文、翌日さらに15貫文以上出土した。錢種は、永楽通寶・皇宋通寶等であり、疑っていなかったという。
中巨摩	敷島町	天沢寺	詳細不明
中巨摩	昭和町	義清神社	詳細不明
北巨摩	明野村	下神取627	昭和48年2月7日、北巨摩郡明野村下神取627番地より耕作中に地表下約90cm程度の深さから、錢貨が出土した。錢貨の総数は790枚、確認された範囲内で最古銭は開元通寶、最新銭は永楽通寶である。
北巨摩	大泉村	谷戸字城上小字鎌冶田	詳細は不明であるが、モック2分の錢貨が出土したといふ。
北巨摩	大泉村	東原西井出	明治末～大正初年頃、五合桶八分目ほどの錢貨が出土したといふ。
北巨摩	白州町	鳥原字上小用495	昭和20年代、耕作中に容器と錢貨が出土した。出土地は教来石民部館跡に位置し、西側と南側に礎跡が残る。出土遺物は散逸したといふ。
北巨摩	白州町	柳原	1990年代、殿林と呼ばれる畠地から錢貨約2,000枚が出土した。
北部留	上野原町	上野原	畠を耕している際に出土したといふ。

第20表 白州町横手(古御所東遺跡)I-6区ピット出土銭種一覧表

No.	銭貨名	国名	初鑄年	枚数	No.	銭貨名	国名	初鑄年	枚数
1	開元通寶	唐	621	2	6	紹聖元寶	北宋	1094	1
2	元豐通寶	北宋	1078	1	7	嘉祐通寶	北宋	1056	2
3	元祐通寶	北宋	1086	2	8	政和通寶	北宋	1111	1
4	元符通寶	北宋	1098	1					
5	熙寧元寶	北宋	1068	2	合計				12

第21表 勝沼町勝沼(勝沼氏館跡)B区出土銭種一覧表

No.	銭貨名	国名	初鑄年	枚数	No.	銭貨名	国名	初鑄年	枚数
1	開元通寶	唐	621	4	23	聖宋元寶	北宋	1101	5
2	乾元重寶	唐	758	2	24	大觀通寶	北宋	1107	5
3	太平通寶	北宋	976	4	25	政和通寶	北宋	1111	11
4	淳化元寶	北宋	990	3	26	宣和通寶	北宋	1119	2
5	至道元寶	北宋	995	10	27	淳熙元寶	南宋	1174	3
6	咸平元寶	北宋	998	3	28	紹熙元寶	南宋	1190	1
7	景德元寶	北宋	1004	4	29	慶元通寶	南宋	1195	2
8	祥符元寶	北宋	1009	6	30	嘉泰通寶	南宋	1201	1
9	祥符通寶	北宋	1009	2	31	嘉定通寶	南宋	1208	2
10	天禧通寶	北宋	1017	3	32	大宋元寶	南宋	1225	1
11	天聖元寶	北宋	1023	8	33	紹定通寶	南宋	1228	1
12	景祐元寶	北宋	1034	3	34	淳祐元寶	南宋	1241	1
13	皇宋通寶	北宋	1038	19	35	皇宋元寶	南宋	1253	4
14	至和元寶	北宋	1054	5	36	景定元寶	南宋	1260	2
15	嘉祐元寶	北宋	1056	4	37	正隆元寶	金	1157	1
16	嘉祐通寶	北宋	1056	10	38	大定通寶	金	1178	1
17	治平元寶	北宋	1064	9	39	至大通寶	元	1310	1
18	治平通寶	北宋	1064	12	40	大中通寶	明	1361	1
19	熙寧元寶	北宋	1068	11	41	洪武通寶	明	1368	5
20	元豐通寶	北宋	1078	17	42	永樂通寶	明	1408	3
21	元祐通寶	北宋	1086	12	43	宣德通寶	明	1433	3
22	元符通寶	北宋	1098	1	合計				106

(2) 六道銭出土遺跡一覧

*項目「土坑墓敷」は六道銭を伴う土坑墓の数である。

*項目「総数」は銭貨の総数である。

(第22表 六道銭出土遺跡一覧表)

都道府県	市町村	遺跡名	出土場所	地図	新規登録	登録の年	出典	
北巨摩	高根町	追東久保遺跡	土坑墓1基	6昭和元賀 洪武通寶	高根町・墓地	高根町教育委員会 1998	『追東久保遺跡』	
北巨摩	高根町	西原遺跡	土坑墓2基	11寛永通寶 寛永通寶	高根町・墓地	高根町教育委員会 1989	『西原遺跡・当町遺跡』	
北巨摩	高根町	当町遺跡	土坑墓4基	22寛永通寶 寛永通寶	高根町・墓地	高根町教育委員会 1989	『西原遺跡・当町遺跡』	
北巨摩	高根町	持井遺跡	土坑墓1基	6嘉慶元賀 宝徳通寶	高根町・墓地	高根町教育委員会 1993	『持井遺跡』	
北巨摩	高根町	白影田遺跡	土坑墓1基	6乾隆元賀 寛永通寶	墓地	山梨県教育委員会 1999	『白影田遺跡』	
北巨摩	高根町	米田北遺跡	土坑墓3基	16寛永通寶 洪武通寶	高地	高根町教育委員会 1997	『藤林寺跡遺跡・八ツ牛遺跡・持井北遺跡』	
北巨摩	高根町	社口遺跡	土坑墓1基	5太平通寶 永樂通寶	墓地	高根町教育委員会 1997	『社口遺跡第3次発掘報告書』	
北巨摩	高根町	藤林寺遺跡	土坑墓1基	6至崇通寶 洪武通寶	寺院跡・墓地	高根町教育委員会 1997	『藤林寺跡遺跡・八ツ牛遺跡・持井北遺跡』	
北巨摩	高根町	東の神遺跡	土坑墓30基	103嘉慶元賀 嘉慶元賀	墓地	高根町教育委員会 1997	『東の神遺跡・西原北遺跡・大明神遺跡・藤原道遺跡・御り牛遺跡・藤原堂東遺跡・高内遺跡・原尻の前遺跡・一本松遺跡・前原遺跡・豊島は場遺跡事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』	
北巨摩	高根町	横西前	土坑墓1基・地下式坑2基	6開元通寶 江戸通寶	墓地	山梨県教育委員会 1999	『横森・横森前遺跡』	
北巨摩	高根町	須佐合(京下)遺跡	土坑墓19基	46開元通寶 元康通寶	墓地	山梨県教育委員会 2000	『横舟寺台(京下)遺跡』	
北巨摩	須玉町	西川遺跡	土坑墓1基	—	墓地	須玉町教育委員会 1989	『西川遺跡』	
北巨摩	須玉町	西川遺跡	土坑墓11基	—	墓地	須玉町教育委員会 1989	『西川遺跡』	
北巨摩	須玉町	坂谷遺跡	土坑墓104基	259天祐通寶 文久永寶	墓地	山梨県教育委員会 1999	『坂谷遺跡』	
北巨摩	大泉村	東野神河遺跡	土坑墓1基	15開元通寶 永承通寶	墓地	山梨県教育委員会 1986	『東野神河遺跡』	
北巨摩	大泉村	金生遺跡	土坑墓2基	—	集落跡・墓地	山梨県教育委員会 1988	『金生遺跡(中世城)』	
北巨摩	大泉村	下北遺跡	土坑墓12基	7寛永通寶 寛永通寶	墓地	山梨県教育委員会 1990	『城下・原北遺跡』	
北巨摩	坂坂町	横針中山遺跡	土坑墓1基	34五輪	地政と通寶	山梨県教育委員会 2000	『横針前久保遺跡・米山遺跡・横針中山遺跡』	
北巨摩	坂坂町	石原田北遺跡	土坑墓1基	6開元通寶 江戸通寶	墓地	石原田北遺跡調査報告書 2001	『石原田北遺跡・Jマート地点発掘調査報告書』	
北巨摩	坂坂町	綿庭遺跡	土坑墓12基	32開元通寶 永承通寶	墓地	長坂町教育委員会 2001	『綿庭遺跡 第1次発掘調査報告書』	
北巨摩	白州町	古御所東遺跡	地下式坑1基	1元祐通寶	—	集落・墓地	白州町教育委員会 1999	『古御所東遺跡』
北巨摩	明野村	中村道遺跡	土坑墓14基	40開元通寶 永承通寶	墓地	明野村教育委員会 1990	『千野木I・II遺跡・池の下遺跡・鷹石II遺跡・中村道遺跡』	
北巨摩	明野村	鷹石II遺跡	土坑墓2基	8寛永通寶 永承通寶	墓地	明野村教育委員会 1990	『千野木I・II遺跡・池の下遺跡・鷹石II遺跡・中村道遺跡』	
北巨摩	明野村	官後遺跡	土坑墓5基	14淳化元賀 永承通寶	墓地	明野村教育委員会 1991	『官後遺跡・浦田遺跡』	
北巨摩	明野村	下大内遺跡	土坑墓1基	3嘉慶元賀 紹熙元賀	墓地	明野村教育委員会 1997	『下大内遺跡・應永第五2遺跡・中原遺跡』	
北巨摩	明野村	源山田遺跡	土坑墓5基	15嘉慶元賀 永承通寶	地盤・墓地	明野村教育委員会 2000	『源山田遺跡』	
市	塙山市	伊保水遺跡	土坑墓19基	34元豐通寶 永承通寶	墓地	山梨県教育委員会 1998	『伊保水遺跡』	
市	甲府市	桜井畑遺跡	土坑墓13基	9開元通寶 永承通寶	墓地	山梨県教育委員会 1991	『千野木I・II遺跡・池の下遺跡・鷹石II遺跡・中村道遺跡』	
市	甲府市	白向街遺跡	土坑墓1基	9寛永通寶 永承通寶	城下町・墓地	山梨県教育委員会 1999	『白向街遺跡発掘調査報告書』	
市	甲府市	武氏跡跡	土坑墓1基	6開元通寶 永承通寶	破壁跡・墓地	甲府市教育委員会 2001	『史跡武氏故跡V』	
市	甲府市	牧山氏跡跡	土坑墓1基	15開元通寶 永承通寶	墓地	甲府市教育委員会 2001	『牧山氏故跡』	
市	甲府市	平野下町遺跡	土坑墓1基	3祥符元賀	城下町・墓地	甲府市教育委員会 2001	『甲府下町遺跡I』	
市	大月市	安楽寺東遺跡	土坑墓2基	2寛永通寶 祥符通寶	墓地	山梨県教育委員会 2000	『安楽寺東遺跡』	
市	都留市	九鬼三遺跡	土坑墓1基	6寛永通寶 永承通寶	墓地	山梨県教育委員会 1996	『九鬼三遺跡』	
市	都留市	金山遺跡	土坑墓1基	1嘉慶元賀	墓地	都留市教育委員会 1987	『金山遺跡・下木戸遺跡・中道遺跡』	
市	都留市	大船寺京東遺跡	土坑墓2基	8寛永通寶 沢永通寶	城跡・墓地	山梨県教育委員会 1990	『大船寺京東遺跡』	
市	都留市	宮ノ前第2遺跡	土坑墓2基	7大觀通寶 沢永通寶	墓地	都留市教育委員会 1991	『宮ノ前第2遺跡・北堂遺跡』	
市	都留市	北堂地遺跡	土坑墓1基	1元豎通寶	—	墓地	都留市教育委員会 1991	『宮ノ前第2遺跡・北堂地遺跡』
市	都留市	石之坪遺跡	土坑墓1基	8寛永通寶 永承通寶	墓地	都留市教育委員会 2000	『石之坪遺跡(東地区)』	
市	笛吹市	古屋敷遺跡	土坑墓1基	7元豐通寶 永承通寶	墓地	笛吹市田市教育委員会 1990	『古屋敷遺跡』	
東八	中條町	米倉山遺跡	土坑墓24基	999嘉慶元賀 永承通寶	墓地	山梨県教育委員会 1999	『米倉山遺跡』	
東八	一宮町	逆木地遺跡	土坑墓5基	24開元通寶 永承通寶	墓地	山梨県教育委員会 1986	『逆木地遺跡』	
東八	一宮町	北軽遺跡	土坑墓4基	28開元通寶 永承通寶	集落跡・墓地	山梨県教育委員会 1986	『北軽遺跡』	
東八	境川村	天神遺跡	土坑墓1基	—	墓地	境川村教育委員会 1993	『天神遺跡』	
市	甲斐市	長田口遺跡	地下式坑13基	8嘉慶元賀 元祐通寶	墓地	山梨県教育委員会 1993	『長田口遺跡』	
市	甲斐市	横道遺跡	土坑墓1基	1寛永通寶 永承通寶	墓地	都留市教育委員会 2001	『横道遺跡』	
市	甲斐市	宮沢村中遺跡	木棺7基	13寛永通寶 永承通寶	社寺跡・墓地	山梨県教育委員会 2000	『宮沢村中遺跡』	
市	市	市75号	二本郷遺跡	木棺2基	8新羅通寶 永承通寶	墓地	山梨県教育委員会 2000	『二本郷遺跡』
市	市	市75号2	石橋北遺跡	土坑墓5基	25唐國通寶 永承通寶	集落跡・墓地	山梨県教育委員会 2000	『石橋北遺跡』
中巨摩	足柄町	北河原遺跡	土坑墓1基	1元豎通寶	—	地盤・墓地	山梨県教育委員会 2003	『北河原遺跡』
西八	三殊町	上野遺跡	土坑墓6基	37元祐通寶 永承通寶	墓地	三殊町教育委員会 1989	『上野遺跡』	
南巨摩	南部町	南部氏越跡	土坑墓4基	12+元祐通寶 永承通寶	城跡・墓地	身延町教育委員会 1984	『南部氏越跡』	
南巨摩	實况町	下柳遺跡	土坑墓24基	16寛永通寶 永承通寶	墓地	实况町教育委員会 1997	『白鳥山城と万沢・内房城』	

(3) 遺跡出土銭貨枚数一覧

- *項目「古代中国」は隋以前に中国で鋳造した錢貨を対象としている。
- *項目「古代日本」は平安時代以前に日本で鋳造した錢貨を対象としている。
- *項目「中世」は中世日本で流通した、隋から明までの中國銭・琉球銭・朝鮮銭や中国ないし日本で鋳造された模鋳銭などを対象にしている。
- *項目「近世」は江戸時代に日本で鋳造した錢貨を対象としている。
- *項目「近代」は明治から昭和にかけて日本で鋳造した錢貨を対象にしている。
- *表中の「+」記号は具体的な数字が不明であるものの、より多くあると記されている事例である。
- *項目「最新銭」は近世までの最新銭を記載した。
- *項目「遺跡の種類」は中世以外の時代における遺跡の種類をも含んでいる。
- *項目「特殊な錢貨」には、皇朝十二銭・無文銭・雁首銭の枚数を記載した。(なお、皇朝十二銭について、項目「最古銭」・「最新銭」と重複するものは記していない)

(第23表 遺跡出土銭貨枚数一覧表)

都道府県	市町村	件名	発見年	古代 中国	古代 日本	中世	近世	近代	不明	通年	銭貨種類	遺跡の種類	中世後遺跡		出典	参考文献		
													地平水深	一 奥尾那 敷石地				
北陸圏	高岡市	湯沢追跡	1								銀元通貨	墓地	國立社団博物館・土坑	高岡市教育委員会 1986『城下久保追跡』				
北陸圏	高岡市	猪俣久保追跡	14				8				銀元通貨	墓地	國立社団博物館・土坑	高岡市教育委員会 1986『猪俣久保追跡』				
北陸圏	高岡市	西原追跡	11				11				寛永通貨 寛永通寶	墓地	土坑墓	高岡市教育委員会 1988『西原追跡・當町追跡』				
北陸圏	高岡市	山田追跡	22				22				寛永通貨 寛永通寶	墓地	土坑墓	高岡市教育委員会 1988『西原追跡・當町追跡』				
北陸圏	高岡市	神井追跡	8				8				寛永通貨 寛永通寶	墓地	土坑墓	高岡市教育委員会 1993『神井追跡』				
北陸圏	高岡市	日田追跡	6				1	5			丸元通貨 寛永通貨	墓地	土坑墓	山形県教育委員会 1995『日田追跡』				
北陸圏	高岡市	米田北追跡	16								寛永通貨	墓地	土坑墓・溝・戸戸	高岡市教育委員会 1997『藤原寺跡追跡・八ツ木北追跡・井手北追跡・米田北追跡』(山形県教育委員会編『第1回追跡第3次調査報告書』)				
北陸圏	高岡市	社口追跡	5				5				太平通貨 太平通寶	墓地	土坑墓・土被・ピット・近世壁	高岡市教育委員会 1997『社口追跡・高麗通貨』(山形県教育委員会編『第1回追跡・八ツ木北追跡』)				
北陸圏	高岡市	藤原寺跡追跡	6								寛永通貨	寺跡	土坑墓・焦石・配石	高岡市教育委員会 1997『藤原寺跡追跡・寺跡』(山形県教育委員会編『第1回追跡・八ツ木北追跡・西原北追跡・大野川追跡・萬葉盛追跡・当リ町追跡・高麗通貨追跡・高麗通貨・京家の軒前跡・本松追跡・麻若追跡・麻若は豊臣豊平に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』)				
北陸圏	高岡市	雲の神追跡	106				4	102			銀元通貨	文久永寶	墓地	土坑墓	高岡市教育委員会 1997『雲の神の追跡・西原北追跡・大野川追跡・萬葉盛追跡・当リ町追跡・高麗通貨・京家の軒前跡・本松追跡・麻若追跡・麻若は豊臣豊平に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』			
北陸圏	高岡市	病院追跡	22				8	12			銀元通貨 寛永通貨	墓地	地下式土坑・土坑・戸戸	地平水深	高岡市教育委員会 1998『病院・横石付追跡』			
北陸圏	高岡市	横森追跡	7				6		1		元豊通貨	永樂通寶	墓地	地下式土坑・土坑・戸戸・六穴状堆積物・竪立柱状物・溝	地平水深	高岡市教育委員会 2000『横森追跡(下)』(山形県教育委員会編『横森追跡(下)』)		
北陸圏	高岡市	横森森吉	49				49				開元通貨	寛永通寶	墓	土坑墓・溝状追跡・軌状遺構	山形県教育委員会 2000『横森森吉(下)』(山形県教育委員会編『横森森吉(下)』)			
北陸圏	北秋田市	上原洞経塚	12				11		1		開元通貨	寛永元寶	經塚	經塚	山形県教育委員会 2001『元の上の追跡・西原北追跡・大野川追跡・萬葉盛追跡・当リ町追跡・高麗通貨追跡・京家の軒前跡・本松追跡・麻若追跡・麻若は豊臣豊平に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』			
北陸圏	北秋田市	前田追跡	3					3			寛永通貨	天保通寶	墓地	敷石地	小出沢町教育委員会 1986『前田追跡』			
北陸圏	瑛南町	大至追跡	2				2				元祐通貨	寛永通貨	墓地	敷石地	山形県教育委員会 1977『山形県中央史跡文化財附記地先調査報告書第一北臣須須三町内地』(山形県教育委員会編『山形・横石付追跡』)			
北陸圏	瑛南町	塙田追跡	5				4	1			寛永元寶	寛永通貨	墓地	土坑墓・五輪塔敷在地底	瑛南町教育委員会 1985『塙田追跡・塙田追跡』			
北陸圏	瑛南町	西川追跡	146				109		37		開元通貨	寛永通貨	墓地	立柱状物・土坑・瓦石・五輪塔・土坑・石棺	庄王町教育委員会 1988『西川追跡』			
北陸圏	瑛南町	西川追跡	35				33	2			開元通貨	寛永通貨	墓地	土坑墓・土坑	山形県教育委員会 1989『西川追跡』			
北陸圏	瑛南町	塙田追跡	353+				49	302	2+		開元通貨	文久永寶	墓地	土坑墓	山形県教育委員会 1992『西川追跡』			
北陸圏	瑛南町	上ノ原追跡	1				1				慶平水深	一 奥尾那 敷石地	墓地	土坑墓・墓地	庄王町教育委員会 1999『上ノ原追跡』			
北陸圏	大泉町	東洋神社追跡	24								開元通貨	永承通貨	墓地	地下式坑・土坑	大泉町教育委員会 1985『東洋神社追跡』			
北陸圏	大泉町	豆生田三辻追跡	11				10		1		天祐通貨	政和通貨	墓地	立柱状物・土坑・瓦石・五輪塔・清淨	大泉町教育委員会 1987『豆生田三辻追跡』			
北陸圏	大泉町	金之進追跡	155				120	2	33		開元通貨	永承元寶	墓地	立柱状物・土坑	山形県教育委員会 1988『金之進追跡』(山形県教育委員会編『金之進追跡(中世)』)			
北陸圏	大泉町	城下追跡	26				15	11			開元通貨	寛永通貨	墓地	土坑墓	山形県教育委員会 1990『城下・原田追跡』			
北陸圏	大泉町	寺所追跡	11				3	4	1	3	洪武通貨	寛永通貨	敷石地	大泉町教育委員会 2000『寺所追跡(第2回発掘調査報告)』				
北陸圏	長坂町	小和田追跡	6,421				6,421				開元通貨	永承通貨	墓地	立柱状物・圓六瓣追跡・地下	長坂町教育委員会 1985『小和田追跡発掘調査報告』			
北陸圏	長坂町	小和南追跡	14				11	1	2		延慶元寶	寛永通貨	墓地	立柱状物・地下	長坂町教育委員会 1987『小和田追跡(小和南追跡)』			
北陸圏	長坂町	横張中山追跡	43	1			41		1		至誠	政和通貨	墓地	地下式坑・瓦穴・瓦石・土坑墓・ピット(二通りに分物別置)	山形県教育委員会 2000『横張中山追跡』			
北陸圏	長坂町	横張追跡	8					7		1	成平元寶	寛永元寶	墓地	植物物・荒野	長坂町教育委員会 2000『横張追跡(第2回発掘調査報告)』			

市町村名	町名	地番	面積	開拓年	所有者	地主	地番	地主	不動産登記		
北杜市	各務原市	石原田木之塚	10	7	2	1	開元通賈	寛永通賈	穴水跡 聚穴跡物、ピット・道(近代)		
北杜市	各務原市	越屋通跡	33	20	13	13	開元通賈	永楽通賈	墓地		
北杜市	各務原市	鬼舟西通跡	16	15	1	開元通賈	鬼舟通賈	土坂跡・火葬場・五輪塔	長坂原村教育委員会 2001 「長坂原通跡 第1次歴史調査報告書」		
北杜市	各務原市	白州町	5	5		開元通賈	火武通賈	城壁跡・墓地	長坂原村教育委員会 2001 「長坂原通跡 第1次歴史調査報告書」		
北杜市	各務原市	白州町	19	19		開元通賈	永楽通賈	城跡・溝・築立柱跡物跡・土基	白州町教育委員会 1999 「白州瓦石通跡解説」		
北杜市	各務原市	所守口通跡	3	3		寛道元賈	永楽通賈	土坂・土坑	白州町教育委員会 1999 「所守口通跡 所守口通跡」		
北杜市	白州町	御壁千曲跡	4	1	1	2	治平口賈	寛永通賈	政府跡	白州町教育委員会 1992 「御壁千曲跡」	
北杜市	白州町	春之久保通跡	2	2			成平元賈	寛永通賈	墓地	白州町教育委員会 1998 「春之久保通跡」	
北杜市	古御所東通跡	21	21				開元通賈	政和通賈	柴落跡・墓地	白州町教育委員会 1999 「古御所東通跡」	
北杜市	武川村	宮前田追跡	4	2	2		光慶通賈	寛永通賈	黒尾跡 聚穴跡	武川村教育委員会 1998 「宮前田追跡歴史調査報告書」	
北杜市	朝霧村	北原通跡	1		1		文久元賈	-	散布地	朝霧村教育委員会 1998 「北原通跡」	
北杜市	朝霧村	日門寺通跡	1		1		-	-	散布地	朝霧村教育委員会 1998 「日門寺通跡」	
北杜市	朝霧村	中村追跡通跡	84	86	1	17	開元通賈	永楽通賈	墓地	朝霧村教育委員会 1990 「千野木・三道筋・池の下追跡・鍋石川追跡・中村追跡通跡」	
北杜市	朝霧村	鍋石川追跡	6		3	3	寛永通賈	寛永通賈	墓地	朝霧村教育委員会 1990 「千野木・三道筋・池の下追跡・鍋石川追跡・中村追跡通跡」	
北杜市	朝霧村	宮後通跡	14	4		10	淳化元賈	永楽通賈	地下式坑・土軋墓	朝霧村教育委員会 1991 「宮後通跡・浦田通跡」	
北杜市	朝霧村	神取通跡	96			96	-	-	黑尾跡	朝霧村教育委員会 1994 「神取通跡」	
北杜市	朝霧村	下大内通跡	6	1	5		延喜通賈	經聖元賈	土坑	朝霧村教育委員会 1997 「下大内通跡 須賀沢第2通跡 中原通跡」	
北杜市	朝霧村	渾山田通跡	104	67	2	35	開元通賈	景統通賈	黒尾跡・寺跡	朝霧村教育委員会 2000 「渾山田追跡」	
北杜市	朝霧村	蛭之木通跡	1		1		寛永通賈	-	黒尾跡	朝霧村教育委員会 2003 「蛭之木通跡Ⅱ」	
北杜市	朝霧村	塙の通跡	135	129		6	開元通賈	洪武通賈	壁塙	朝霧村教育委員会 2004 「塙の通跡信玄印」	
北杜市	上野村	長崎宿	35	1	30	3	1	政和通賈	寛永通賈	城跡・堀跡・築跡・土塁	山梨郡教育委員会 2005 「長崎宿跡」
市	北杜市	大野原通跡	9	6	3		開元通賈	寛永通賈	散布地	上野村教育委員会 1992 「大野原通跡」	
市	鳴山市	宿場今枝村	6	6		1	祥符元賈	元符通賈	土坑	鳴山市 1964 「MUSEUM 154」	
市	鳴山市	鳴山金山山頂	90	79	1	10	開元通賈	寛永通賈	風山跡	鳴山市教育委員会 1997 「甲斐鳴山會山」	
市	鳴山市	伊豫水通跡	31	1	30		開元通賈	寛永通賈	墓地・土坑	鳴山市教育委員会 1999 「伊豫水通跡」	
市	鳴山市	下西坂通跡	2		2		治平元賈	大觀通賈	散布地	山梨郡教育委員会 2005 「下西坂通跡 西畠追跡 彦井通跡 保坂屋敷跡」	
市	鳴山市	井戸追跡	4	1	3		嘉祐元賈	熙祐通賈	散布地	山梨郡教育委員会 2005 「下西坂通跡 西畠追跡 彦井通跡 保坂屋敷跡」	
市	甲府市	武田氏通跡	7		7		開元通賈	永楽通賈	城跡	平野町教育委員会 1988 「史跡武田氏通跡Ⅰ」	
市	甲府市	湯村山城跡	1			1	-	-	土星・石柱・石碑	平野町教育委員会 1989 「甲府市史 史料編 第一巻」	
市	甲府市	一の森通跡	19		19		寛永通賈	寛永通賈	城跡	平野町教育委員会 1989 「甲府市史 史料編 第一巻」	
市	甲府市	秋津坂通跡	16	17		1	開元通賈	永楽通賈	散布地	山梨郡教育委員会 1991 「秋津坂通跡A・C地区」	
市	甲府市	東河原通跡	1		1		寛永通賈	-	水田跡	山梨郡教育委員会 1994 「東河原通跡」	
市	甲府市	武田氏通跡	4+	4+			開元通賈	永楽通賈	城跡	市原市教育委員会 1998 「史跡武田氏通跡Ⅲ」	
市	甲府市	武田氏通跡	1			1	-	-	城跡跡	市原市教育委員会 1999 「史跡武田氏通跡IV」	
市	甲府市	日向町通跡	16	6	5	5	開元通賈	寛永通賈	城下町・墓地	甲府市教育委員会 1999 「日向町通跡歴史調査報告書」	
市	甲府市	武田氏通跡	8	5	1	2	開元通賈	寛永通賈	土坑	甲府市教育委員会 2000 「史跡武田氏通跡V」	
市	甲府市	武田氏通跡	3	1	2		祥符元賈	寛永通賈	城跡跡	甲府市教育委員会 2000 「史跡武田氏通跡VI」	
市	甲府市	武田氏通跡	5	3	1	1	政和通賈	寛永通賈	馬鹿跡・井戸・水槽・土坑・柱・石垣	甲府市教育委員会 2004 「史跡武田氏通跡VII」	
市	甲府市	富士見一丁目通跡	1		1		寛永通賈	-	水田跡	甲府市教育委員会 2006 「富士見一丁目通跡」	
市	甲府市	武田城下町通跡	7	3		4	開元通賈	永楽通賈	水路	山梨郡教育委員会 2001 「武田城下町通跡」	
市	甲府市	秋山氏通跡	27	23	2	2	開元通賈	寛永通賈	城越跡・墓地	甲府市教育委員会 2001 「秋山氏通跡」	
市	甲府市	甲府城下町通跡	27	20	5	1	祥符元賈	寛永通賈	城下町	甲府市教育委員会 2001 「甲府城下町通跡Ⅰ」	
市	甲府市	甲府城下町通跡	4	2	2		天祐元賈	寛永通賈	城下町	甲府市教育委員会 2002 「甲府城下町通跡Ⅱ」	
市	甲府市	武田氏通跡	13		9	1	祥符元賈	寛永通賈	井戸・柱・石碑・城跡物跡・塔	甲府市教育委員会 2002 「史跡武田氏通跡VII」	

都道府県市町村	登録地名	判明 古代 時代 中世 近世 現代	古代 日本 中世 近世 現代	不規 則合説	急用説	沿革の推移	中世遺跡	出典	資料など
東京都	武田北遺跡	1	1		寛永通賈	城跡	石垣・土塁・堀・溝・礎石・柱	石垣跡	西小山遺跡
東京都	平石遺跡	3	2	1	寛永通賈	土塁跡	土塁・石列	土塁跡	甲府北遺跡会員会 2002『史跡武田北遺跡』
東京都	武田北遺跡	4	1	3	寛永通賈	不規	城跡	堀・土塁・堆積・石槽	甲府北中地区地図掲示場 2002『平石遺跡』
東京都	山梨市	日下母通跡	1		大継通賈	敷石地	石地	石地	甲府北遺跡会員会 2003『史跡武田北遺跡』
東京都	山梨市	三ヶ瀬跡	2	2	大継通賈	地下式土坑	地下式土坑	地下式土坑	山梨県教育委員会 1998『日下母』
東京都	大月市	原平通跡	4	4	原平通賈	墓地	石塚跡	山梨県教育委員会 1975『山梨県中央交通文化財地図版地図調査報告書一大月市地内2-1』	
東京都	大月市	御所通跡	4	4	原平通賈	城跡	平地掘成面・土坑・ピット	石塚跡	山梨県教育委員会 1998『大月御所通跡』
東京都	大月市	岩越城	5	6	1	伏見元賈	豊穴式通構	豊穴式通構	大月御所通跡
東京都	大月市	安樂寺東追跡	5	2	1	寛永通賈	墓地	土塁跡・土坎	山梨県教育委員会 2000『安樂寺東追跡』
東京都	大月市	猪瀬下追跡	2	2	安樂寺東追跡	敷石地	敷石地	山梨県教育委員会 2001『山梨県下追跡(第4次調査)』	
東京都	鎌倉市	三ノ劍跡	9	2	和同開跡	土塁跡	土塁跡	土塁跡	鎌倉市 1997『御所跡』
東京都	鎌倉市	九鬼三跡	7	7	寛永通賈	土塁跡	土塁跡	土塁跡	山梨県教育委員会 1996『九鬼三跡』
東京都	鎌倉市	金山道跡	7		元徳通賈	墓地	石塚跡	筑立山遺跡	
東京都	鎌倉市	大船寺東追跡	8	7	皇宋通賈	城跡	城跡・土坑・建物跡・石列・通構・溝	木戸屋遺跡・下木戸遺跡 中道跡	
東京都	鎌倉市	宮ノ前第2土塁	16	15	元徳通賈	洪武通賈	洪武通賈	山梨県教育委員会 1996『大船寺東追跡』	
東京都	鎌倉市	北室地遺跡	2	2	元徳通賈	城跡	土坑跡	山梨県教育委員会 1991『宮ノ前第2土塁 北室地追跡』	
東京都	鎌倉市	宮ノ前跡	3	3	開元通賈	敷石地	敷石地	山梨県教育委員会 1992『宮ノ前跡』	
東京都	鎌倉市	板井下追跡	1	1	永承通賈	敷石地	敷石地	山梨県教育委員会 1995『板井ノ前追跡』	
東京都	鎌倉市	羽根鶴跡	1	1	前章元賈	敷石地	敷石地	山梨県教育委員会 1999『羽根前追跡』	
東京都	鎌倉市	新町城跡	1		城跡	土壘・礎石・柱穴	土壘	山梨県教育委員会 2000『史跡 新町城跡』	
東京都	鎌倉市	石之坪追跡	23	2	20	1	皇宋通賈	寛永通賈	方形周溝構造・方形区画溝・方彌氣石・砲兵駐屯地・地下式下水・土塁跡
東京都	富士吉田市	古星野追跡	1	1	元徳通賈	城跡	土塁跡	山梨県教育委員会 2000『石之坪追跡(東地区)』	
東京都	富士吉田市	古星野追跡	7		元徳通賈	土塁跡	土塁跡	山梨県教育委員会 1994『古星野追跡』	
東京都	富士吉田市	富士吉田口登山道跡	86	5	67	14	開元通賈	文久元賈	土塁跡・清状通構・記石通構
東京都	富士吉田市	山間通跡	61	31	17	12	太平通賈	文久元賈	富士吉田市教育委員会 2001『富士山吉田口登山道跡追跡』
東京都	八代市	上野原通跡	1	1	正統元賈	その他の追跡	山畠山遺跡	山畠山遺跡	富士吉田市教育委員会 2003『富士山吉田口登山道跡追跡』
東京都	八代市	中通跡	1,000	1	29	964	6	景祐元賈	寛永通賈
東京都	八代市	横延坂通跡	31	21	8	2	景祐元賈	寛永通賈	山梨県教育委員会 1999『米山山通跡』
東京都	八代市	横延坂通跡	15		16	文久元賈	通構	通構	八代市教育委員会 1994『横延坂一帯の発掘』
東京都	八代市	経ノ下追跡	4	3	1	景祐元賈	寛永通賈	通構	山梨県教育委員会 1985『横延坂通跡 横延坂跡 前ノ下追跡』
東京都	八代市	御宿跡	1		1	御宿跡	通構	通構	山梨県教育委員会 1985『横延坂通跡 横延坂跡 後ノ下追跡』
東京都	八代市	木本通跡	1	1	太平通賈	通構	通構	山梨県教育委員会 1995『山城御古代官街・今御跡跡分布調査』	
東京都	八代市	宮の殿通跡	1		1	寛永通賈	敷石地	敷石地	八代町教育委員会 1996『木本通跡』
東京都	八代市	宮の殿通跡	1		1	寛永通賈	敷石地	敷石地	豊富町教育委員会 1997『豊富御跡跡分布調査報告書』
東京都	八代市	横富村	横富通跡	2	2	治平元賈	通構	土塁跡	山梨県教育委員会 1998『横富通跡』
東京都	八代市	横富村	横富通跡	1	1	宋通元賈	通構	土塁跡	豊富町教育委員会 1998『横富通跡』
東京都	八代市	宝木地通跡	34	15	19	開元通賈	寛永通賈	通構	豊富町教育委員会 1998『宝木地通跡』
東京都	八代市	北森跡	84	73	6	5	景祐元賈	寛永通賈	通構
東京都	八代市	宮町	1	1	1	景祐元賈	通構	土塁跡	山梨県教育委員会 1998『北森通跡』
東京都	八代市	宮町	1	1	1	景祐元賈	通構	敷石地	山梨県教育委員会 1998『景祐元賈』
東京都	八代市	宮町	1	1	1	景祐元賈	通構	土塁跡	山梨県教育委員会 1997『景祐元賈』
東京都	八代市	大原通跡	4	4	萬年通賈	苦翁神寶	土塁跡	土塁跡	豊富町教育委員会 1998『萬年通跡』
東京都	八代市	失金通跡	1	1	1	神功通賈	土塁跡	土塁跡	一宮町教育委員会 1998『大原通跡発掘調査報告』
東京都	八代市	松原通跡	4	3	1	豊祐元賈	寛永通賈	敷石地	一宮町教育委員会 1991『北内通跡 失金通跡』
東京都	八代市	西田通跡	2	2	2	景祐元賈	改通賈	豊穴式通構	一宮町教育委員会 1993『松原通跡』
東京都	八代市	西田通跡	2	2	1	景祐元賈	改通賈	豊穴式通構・前立柱建物跡・土塁・柱・ピット・礎石・石列・豊穴・溝	一宮町教育委員会 1997『西田町沿線調査報告』
東京都	八代市	西田通跡	2	2	1	天聖元賈	通構	土塁跡	一宮町教育委員会 1998『天聖元賈』
東京都	八代市	西田通跡	2	2	1	景祐元賈	改通賈	土塁跡	山梨県教育委員会 1985『石塚御朝駿跡 改通賈 関ノ下追跡』
東京都	八代市	天神通跡	6	6	—	通構	土塁跡	土塁跡	川根本町教育委員会 1993『天神通跡』
東京都	八代市	立石南通跡	1	1	津祐元賈	通構	敷石地	道川町教育委員会 1994『立石南通跡』	
東京都	八代市	立石南通跡	1	1	皇宋通賈	通構	敷石地	山梨県教育委員会 1995『山崩御古代官街・今御跡跡分布調査』	

地名	位置	地図番号	開拓年	耕者	耕地面積(ha)	不耕	盛況	最新状況	過去の種別		中近世遺跡		参考文献		
									元	元	元	元			
鹿児島市	城山町	一	1	1	1		良好	良好	散布地	散布地	鹿児島市教育委員会 2003 『石垣造跡(次)・石積造跡』				
鹿児島市	城山町	石崎条里制御部	1		1		良好	良好	散布地	散布地	鹿児島市教育委員会 2003 『石垣造跡(次)・石積造跡』				
鹿児島市	城山町	鹿嶋免道跡	2		2		良好	良好	散布地	散布地	鹿児島市教育委員会 1992 『地盤造跡』				
鹿児島市	城山町	鹿嶋免道跡	2		2		良好	良好	散布地	散布地	鹿児島市教育委員会 2000 『地盤(第1-2次)・西馬鹿造跡』				
鹿児島市	城山町	鹿嶋免道跡	1		1		良好	良好	散布地	散布地	鹿児島市教育委員会 2000 『地盤(第1-2次)・西馬鹿造跡』				
鹿児島市	城山町	上の豆下野道跡	3		2	1	良好	良好	散布地	散布地	鹿児島市教育委員会 2001 『上の豆下野道跡』				
鹿児島市	城山町	上の豆下野道跡	1		1		良好	良好	散布地	土坑	鹿児島市教育委員会 1997 『石垣造跡(第2回)』				
鹿児島市	城山町	五井町	1		1		良好	良好	散布地	土坑	鹿児島市教育委員会 1997 『石垣造跡(第2回)』				
鹿児島市	城山町	寺本施寺	5		2	1	2	盛況	良永通賃	寺院跡	春日居町教育委員会 1988 『寺本施寺 第1-2-3次発掘調査報告書』				
鹿児島市	勝浦町	鹿嶋氏施跡	239		239		良元重寶	宜永通賃	城壁跡	城壁跡	山都町教育委員会 1976 『勝浦氏施跡調査報告書』				
鹿児島市	勝浦町	勝浦氏施跡	6		6		天聖元寶	水田	水田	水田	山都町教育委員会 1992 『二木勝浦跡』				
鹿児島市	勝浦町	長田口通跡	50		45	2	3	開元通賃	文久永寶	墓塚跡・墓地	土坑墓	山都町教育委員会 1993 『長田口通跡』			
鹿児島市	勝浦町	勝浦御屋敷跡	5		1		2	貞觀元寶	寛永通賃	氣尾跡	散布地	柳町教育委員会 1994 『勝浦御屋敷跡』			
鹿児島市	勝浦町	大野東丹保造跡	114	4	105		5	四輪半蔵	祐輪元寶	馬頭跡	一括埋蔵基・溝・杭跡・土坑・ピット・散状追跡・獨立柱痕跡・井戸	山都町教育委員会 1997 『大野東丹保造跡Ⅱ・田原』			
鹿児島市	勝浦町	大野東丹保造跡	13		17	1	開元通賃	寛永通賃	水田	水田	山都町教育委員会 1997 『大野東丹保造跡IV区』				
鹿児島市	勝浦町	大坂造跡	3		3		寛永通賃	寛永通賃	集落跡	散布地	山都町教育委員会 1997 『大坂造跡』				
鹿児島市	勝浦町	南吾木通上第6重	2		2		相原元寶	相原元寶	寺院跡	土坑・溝	若草町教育委員会 1999 『南吾木通上第6重跡』				
鹿児島市	勝浦町	宮武中村通跡	64		2	62	開元通賃	寛永通賃	奈波院跡・集落・井戸	水田・溝・道路跡・水田・木被基	山都町教育委員会 2000 『宮武中村通跡』				
鹿児島市	勝浦町	二本柳通跡	18		15		3	泰極元寶	永承通賃	益地・水田	水田・木被基	山都町教育委員会 2000 『二本柳通跡』			
鹿児島市	勝浦町	石橋北星造跡	45		30		15	開元通賃	永承通賃	馬頭跡	柱基跡・廻穴状追跡・直路跡・ピット・土坑・溝	山都町教育委員会 2000 『石橋北星造跡』			
鹿児島市	勝浦町	後道通跡	5		4	1	開元通賃	寛永通賃	散布地	土坑墓・土坑	柳町教育委員会 2001 『後道通跡』				
鹿児島市	勝浦町	仲田通跡	7		4	2	1	天祐通賃	文久永寶	水田	水田・道路	山都町教育委員会 2001 『仲田通跡』			
鹿児島市	勝浦町	百々通跡	2		1		1	祥符元寶	一	氣尾跡	散布地	山都町教育委員会 2003 『百々通跡』			
伊佐市	卯谷町	鹿苗神社内通跡	9		5	4	1	光明通賃	寛永通賃	土星狀追跡・散石状追跡	土星狀追跡・散石状追跡	昭和町教育委員会 1987 『鹿苗神社内通跡』			
伊佐市	卯谷町	中山丘通跡	5		5		1	永元重寶	永承通賃	土坑	土坑	電王町教育委員会 1997 『永元ノフリードーム内通跡跡四ツ石造跡・中津羅古跡』			
伊佐市	卯谷町	松ノ尾通跡	8		8		1	開元通賃	元祐通賃	散布地	散布地	鶴見町教育委員会 1998 『松ノ尾通跡』			
伊佐市	卯谷町	北川原通跡	6		3	3	元祐通賃	寛永通賃	寺院跡	土坑墓・土坑・邊状追跡・溝・ピット	山都町教育委員会 2003 『北川原通跡』				
鹿児島市	下野町	中山金山通跡	8		3	5	開元通賃	寛永通賃	麻山跡	鹿天井石・チラス・土坑・石积跡	湯之島町山田山古墳群調査委員会 1992 『湯之島町山田山古墳群の研究』				
鹿児島市	下野町	鹿沢河岸跡	48		11	23	14	太平通賃	文久永寶	河岸跡	御殿台	山都町教育委員会 1998 『鹿沢河岸跡』			
鹿児島市	下野町	御殿堂古跡	2		1		1	治平元寶	一	寺院跡	石列・整理街並み跡	山都町教育委員会 1998 『御殿堂古跡』			
鹿児島市	下野町	御殿堂古跡	2		1		1	寺院跡	寺院跡	増殖地跡	増殖地跡	山都町教育委員会 1999 『御殿堂古跡』			
鹿児島市	下野町	大野神通跡	4		1	1	1	寛永通賃	寛永通賃	風景	風景	山都町教育委員会 1996 『大野神通跡』			
鹿児島市	下野町	曾根町	町堀口通跡	20		1	16	3	寛永通賃	寛永通賃	水田	水田・水槽・雨落物跡	山都町教育委員会 2000 『町堀口通跡』		
鹿児島市	曾根町	町堀口通跡	5		5		1	寛永通賃	寛永通賃	田畠跡	水田・水槽・雨落物跡・その他の(水池)・水路跡・斜井など	山都町教育委員会 2000 『町堀口通跡』			
鹿児島市	三郷町	上野通跡	43		43		1	開元通賃	宜永通賃	墓地	土坑墓・土坑・溝	三郷町教育委員会 1989 『上野通跡』	無文前4枚		
鹿児島市	三郷町	一舟氏庭跡	1		1		1	寛永通賃	一	城壁跡	散布地	三郷町教育委員会 1991 『一舟氏庭跡』			
鹿児島市	三郷町	南勝底通跡	12+		12		1	寛永通賃	寛永通賃	墓地	孤立した墳物跡・土堤墓・土坑・溝	身延町教育委員会 1984 『南勝底通跡』			
鹿児島市	三郷町	吉井宿	22		3	18	1	寛永元寶	文久永寶	城壁跡	曲輪・櫓門・柱穴・土坑	笠置の堀尾文化史発掘調査委員会 1996 『笠置の堀尾と山野地方の城跡』			
鹿児島市	三郷町	吉井宿	1		1		1	寛永通賃	寛永通賃	城壁跡	基壇・石垣	山都町教育委員会 2001 『吉井宿の油田分屯砲兵移軒合戦』			
鹿児島市	吉井宿	下野火通跡	15		14	1	1	寛永通賃	寛永通賃	高地	土坑墓	山都町教育委員会 1997 『白鳥山城と方丈・内削跡』			
鹿児島市	吉井宿	金山山通跡	12		9	1	2	寛永通賃	寛永通賃	笠置山跡	土坑墓	山都町教育委員会 2002 『金山山通跡』			

第Ⅲ章 金貨の事例報告

第1節 調査対象

今回の調査では中世で一般的に用いられた貨幣である銅錢だけではなく、金貨も対象としている。その要因とは、1) 山梨県には地域に密接に結びついている甲州金がある（武田領国支配下で成立した貨幣であると定義付けられている）こと、2) 徳川幕藩体制における貨幣制度のもとになったのが、甲州金の貨幣制度であり、その成立など歴史的位置付けを探ることが非常に重要なことなどによる。また、金貨という資料の性格上、出土銭貨と同一の章で取り扱うのは分類上適当ではないだろうという判断から、両者を分けて報告した。

金貨の出土事例については、次節で出土地点・出土資料が把握可能な出土事例を報告したい。なお、本調査で対象とする資料は中世における銭貨・金貨であるが、近世における甲州金出土事例も確認されている（甲府市御馬小路・山梨市下神之川）。近世の金貨出土事例や断片的な情報だけであり、詳細についての把握が困難である事例は、第4節のその他の事例報告で扱うこととする。なお、勝沼町上岩崎の項は、大量一括埋蔵銭貨の事例報告と重複することから、事例報告については第Ⅱ章第2節を参照されたい。

第2節 金貨出土事例報告



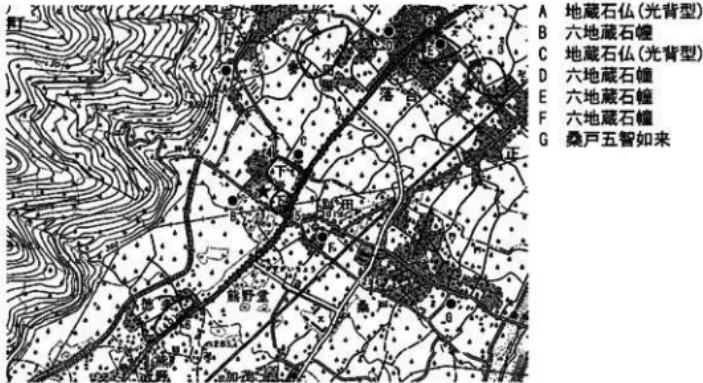
第49図 金貨出土位置図

(1) 出土事例

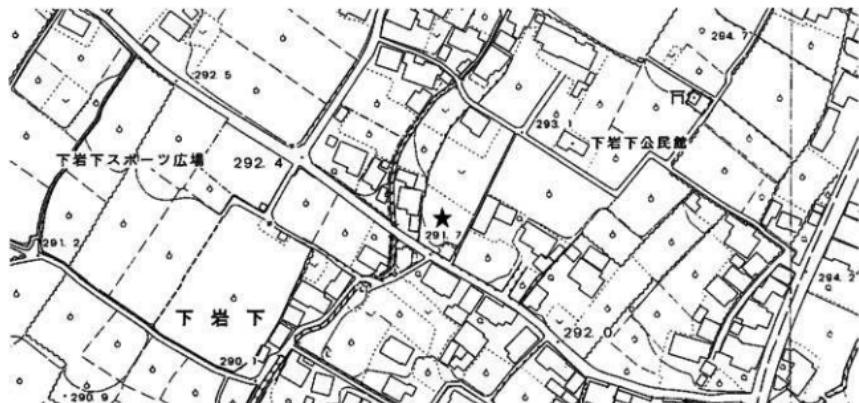
春日居町下岩下

1) 発見年月日	1918年(大正6)	2) 保管者(住所)	東京国立博物館
3) 発見地	東山梨郡春日居町下岩下539	4) 報名・村名等	中世) 不明 近世) 下岩下村
5) 年代	不明	6) 備考	
7) 立地と歴史	北西側は兜山など山間の地で、南東側に笛吹川が南流している。出土地は笛吹川右岸の河岸段丘上に位置している。南側を秩父往還が走り、周囲には信虎誕生屋敷・原田仁兵衛屋敷跡・原三右衛門屋敷跡伝承地など中世の屋敷跡が点在する。甲州金は原田仁兵衛屋敷跡の北側から出土している。平成13年に山梨県埋蔵文化財センターが信虎誕生屋敷内で発掘調査を行ったところ、溝状遺構・柱穴・基と共に15~16世紀のかわらけを確認した。位置が離れているため、甲州金埋蔵年代の比定の参考とすることはできない。		
8) 出土状況	上字大判金(1)・無銘大判金(2)・角判金(3)の3点の甲州金が出土した。詳細な出土状況は不明である。出土後に周囲を掘削したが、何も検出されなかったという。出土資料の重量は概ね160gであり、諏訪大社下社秋宮出土墓石金・蛭巻金と同様に「上」と刻まれたものがある。		

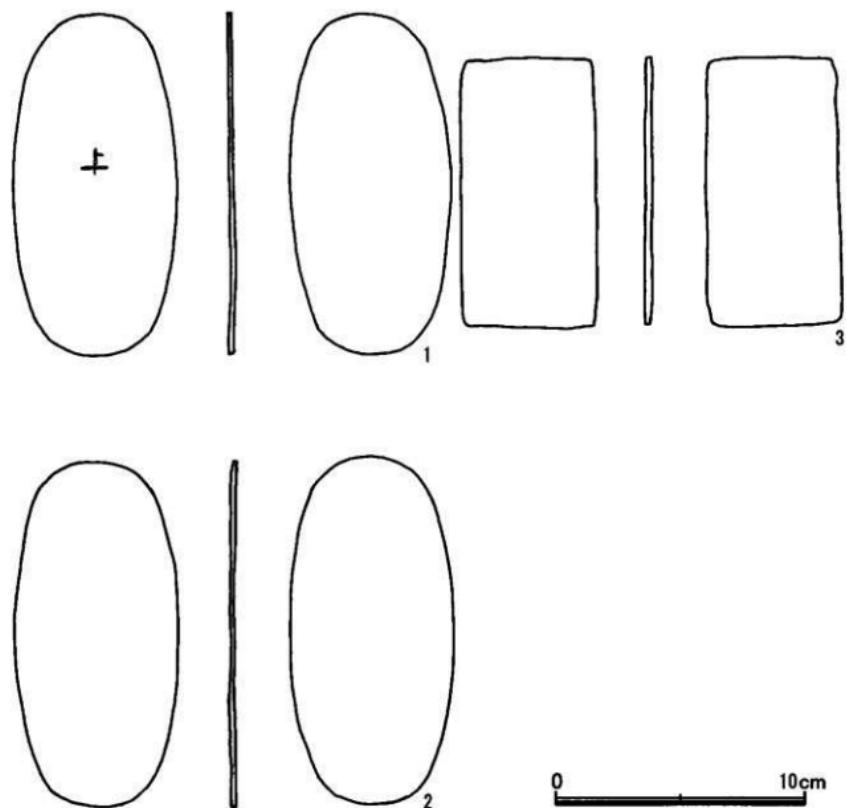
- 1 小武家遺跡(散)
- 2 屋敷跡(散)
- 3 天神前遺跡(散)
- 4 信虎誕生屋敷
- 5 原田氏屋敷
- 6 小川奥右門屋敷



第50図 出土地周囲の包蔵地・石造物



第51図 出土地形図



第52図 出土遺物

第24表 春日居町下岩下出土金貨計測表

No.	名稱	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
1	大判金	13.5	6.5	0.2	159.2	「上」字の陰刻
2	大判金	13.7	6.5	0.2	161.4	
3	角判金	10.6	5.3	0.25	156.5	

諏訪大社下社秋宮出土金貨と本出土事例の「上」字を比較すると、諏訪大社の上字金貨には壓で打ち込まれたものと浅い線刻状があるが、1の陰刻は浅く線刻状を呈する。「上」字にたてまつる、さしあげるの意味があるため、刻まれたのではないかとする説などがある。また、1と2の差異は陰刻の有無であり、形態的には同一である。

高根町村山西割

1) 発見年月日	1931年(昭和5) 11月8日	2) 保管者(住所)	東京国立博物館
3) 発見地	北巨摩郡高根町村山西割974	4) 堀名・村名等	中世) 村山郷 近世) 村山西割村
5) 年代	不明	6) 備考	
7) 立地と歴史	八ヶ岳南麓の台地上に位置する。東側の谷部には水田が展開している。甲州金は県道沿いの大柴氏旧宅地から出土した。出土地南東にある曹洞宗龍寺があり、『甲斐国志』には開基として大柴道林の名を記している。大柴家の本家は代々彦兵衛を名乗ったという記載がある。出土地は大柴氏本家の屋敷地であり、江戸時代には代々彦兵衛を名乗った。大柴家屋敷は南側に入り口、東側には屋敷墓があったという。西側に土塁らしき高まりがある。平成14年に山梨県埋蔵文化財センターが敷地内を発掘調査し、近世の屋敷跡の一部を確認したが、調査可能地点が出土地より北側であるため、両者の関係は定かではない。		
8) 出土状況	昭和5年に板金4枚が小壺に入れられた状態で出土したという。壺は楕円播磨柳斗文小壺であり、中国江西の南部にあった贛州窯産であり、13~14世紀代に生産されたことが分かっている。出土した甲州金の内2枚については、小壺の口径より大きいが、端部に屈曲した部位を有する。小壺に納める際に折り曲げた可能性がある。		

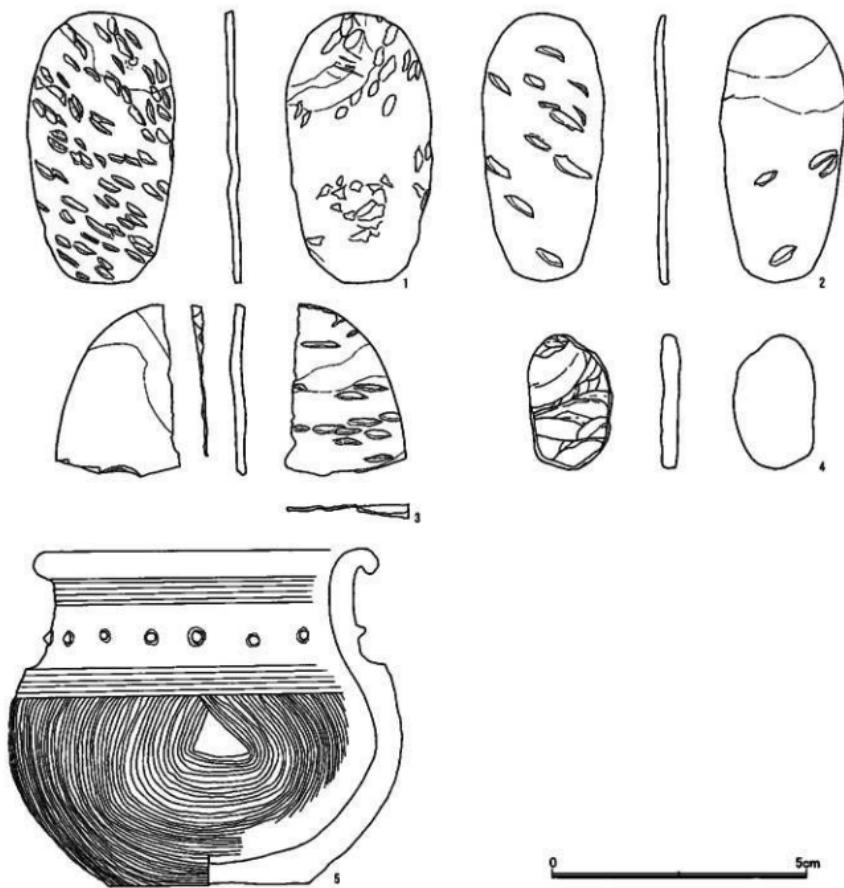
- 1 上の原C遺跡(散)
- 2 西深山遺跡(散)
- 3 持井B遺跡(散)
- 4 持井A遺跡(散)
- 5 権現の木遺跡(散)
- 6 於小路遺跡(散)
- 7 当町B遺跡(散)
- 8 新井B遺跡(散)
- 9 大正寺遺跡(散)
- 10 西ノ原B遺跡(散)
- 11 菖蒲原B遺跡(散)
- 12 石田前遺跡(散)
- 13 上ノ反遺跡(散)
- 14 東田・原慶舎遺跡(散)
- 15 雲雀沢辺成遺跡(散)



第53図 出土地周囲の包蔵地・石造物



第54図 出土地形図



第55図 出土遺物

第25表 高根町村山西割出土金貨計測表

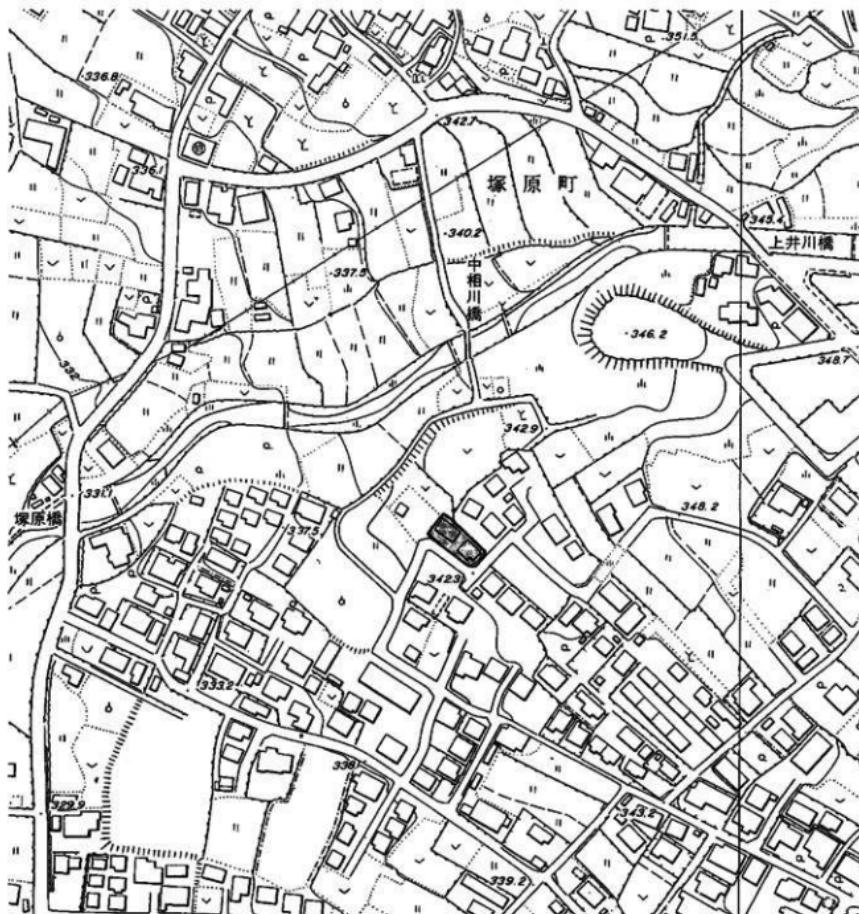
No.	名稱	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
1	蛭藻金	5.4	2.9	0.2	14.8	凸部を有す
2	蛭藻金	5.3	2.4	0.2	14.1	折り曲げた痕跡を有す
3	蛭藻金	(3.4)	(2.4)	(0.2)	10.8	完形品を分割したもの
4	蛭藻金未成品?	2.7	1.6	0.35	14.1	上下端より加擊

1・2は蛭藻金、3が蛭藻金を分割したものである。4は蛭藻金の未成品である可能性を有す。最大長が5cmを越えているもの（1・2・3）には、いずれも折り曲げ痕がある。これは容器の口縁部に比して金貨が大きいため、金貨を折り曲げたことによると考えられる。1～3はいずれも器体中央に比して、縁部が盛り上がる形状を呈している。資料を重量の点で比較すると、3の値のみ近似しないが、これは分割したためであろう。3の分割面は部分的にめぐれており、分割した状況を残置している。また、完形品の中でも、4は蛭藻金と基石金の中間的な形態を有しているが、これは基石金から蛭藻金をつくる過程の未成品と捉えられる。4の裏面は平坦な形状を呈し、表面は上下から加撃された跡目を残す。

(2) 新聞掲載事例

甲府市古府中町御馬小路

1) 発見地	甲府市古府中町御馬小路	2) 郷名・村名等	中世) 古府中 近世) 古府中村
3) 報道された日付	明治30年7月6日山梨日日新聞	4) 備考	
5) 新聞報道の引用	古金の発掘 西山梨郡相川村二百五番地草川疊七は古府中字御馬小路地内の所有地を均さむとして去月上旬より着手し二十五日に小石の堆き所を発掘したるに一両小判廿八個一步甲金廿個八一分角金廿三個二朱金三個と砾果てたるに古刀一振を発見したければ直に届出でたる由聞く所によれば同所は武田の臣下某の居跡なりしといふ		
6) 出土資料の内容	銭貨の名称から近世の金貨である可能性が強い。		



第56図 出土地形図

第IV章 埋蔵銭貨・金貨出土地点発掘調査

第1節 調査目的

大量一括埋蔵銭貨や金貨の出土事例の内、出土状況などが把握されているものは少ない。これは、資料の性格上、不時発見されたものがほとんどであるため、必ずしも発掘調査や学術的な検討を経ていないことによる。

今回の調査では、埋蔵銭貨・金貨の出土事例について、出土銭貨・金貨の整理作業だけではなく、出土地点周囲の土地を所有している地権者と交渉し、発掘調査を行った。発掘調査の目的は、1) 出土事例に比定される遺構面の確認と遺構面に伴出する遺物の年代によって、出土銭貨・金貨の年代的評価を下すことや、2) 出土地点を再調査し、遺構の評価から出土事例の性格に係る検討を行うこととした。

地権者との交渉や発掘調査を行ったのは、平成13・14年度である。金貨出土事例については権現遺跡（高根町村山西割）・信虎誕生屋敷（春日居町下岩下）の2地点、大量一括埋蔵銭貨については延命寺遺跡（大月市駒橋）・小六科遺跡（白根町小六科）の2地点で調査の許可を頂き、発掘調査を実施した。なお、調査に先立ち発掘調査承諾書を作成し、出土遺物の取扱いについて定めた。発掘調査の内容については、以下の通りである。

第2節 発掘調査の内容

（1）権現遺跡

1 調査に至る経緯

金貨の出土地点は現状では宅地になっており、出土地点の再調査を行うことはできなかった。しかし、出土地点南側の大柴和人氏所有の土地は、屋敷が移転した状態であり、大規模な現状変更は行われていない。この土地を発掘調査することによって、金貨が出土した遺構面に比定される面の再調査と年代の把握を行うことができると考え、調査計画を立案した。調査に先立ち、平成14年11月1日に地権者大柴和人氏・高根町教育委員会雨宮正樹氏と現地にて調査の概要説明と許可を頂くための協議を行い、発掘調査の許可を得た。この後、平成14年12月5日に大柴和人氏と調査の事前打ち合わせを行った。また、出土埋蔵物の取扱いについては、遺跡の調査研究が終了した時点での協議の上対処するとした上で、平成14年12月5日付けで発掘調査承諾書を作成してもらった。これらの事務手続きを行い、平成14年12月11日から平成15年1月22日までの16日間調査を行った。

なお、文化財保護法に基づく手続きは以下の通りである。

平成14年（2002）年12月 権現遺跡の発掘調査報告書を山梨県教育委員会教育長に提出

平成15年（2003）年1月 権現遺跡の埋蔵文化財発見通知を甲府警察所長に提出

2 調査地点の地理・歴史的環境

金貨出土地及び今回の調査地点は大柴氏屋敷に比定される。大柴氏とは、19世紀に編纂された『甲斐国志』の「巻之百十二 士庶部第十一」中の巨摩郡逸見筋に「大柴道林 同村 泉竜寺ノ開基心翁浄庵主庚午七月十五日寛永七年ナルベシ大柴彦兵衛ト牌子過去帳等ニ見エタリ」と記載されている。金貨出土地の地権者であった大柴和人氏の本家の長子も代々「彦兵衛」を名乗っており、この大柴道林が大柴家の先祖と考えられる。

大柴氏所有的土地は、現状では調査を実施した982番地であるが、旧屋敷は西側の田も敷地の一角であった。旧屋敷は南側に面しており、南北方向に走る小道が旧屋敷の道であったという。旧屋敷は北・東・西側が高く、1～3トレングを設定した地点と比高差がある。1～3トレングを設けた地点は低平な地形を呈しており、中央に木が植えられている。近隣の住民の話によると1) 旧屋敷の南側に倉が建ち、一段高い地形であった、2) 倉と屋敷があった場所の地盤高の差は2m程度であったとのことである。金貨出土地点は倉が建っていた場所に当たり、1～3トレングを設定した地点は旧屋敷の前庭部であったと考えられる。この比高差は、中世屋敷に伴う土壘ではないかとの推測もなされている。また、西側における土壘状の高まりからは、寛永通賀が出土したが資料は現存していないという。

3 調査方法・内容

トレンチ設定

グリッドは調査区の長軸に沿って3mグリッドを設定した。西から東にAから始まるアルファベットを大文字で付し、北から南に向かって1から始まる算用数字を付した。なお、調査の進捗に伴い、トレンチを南側に拡張したが、この際に1より南側の杭には00・01と命名した。また、大柴和人氏所有の高根町村山西割982番地の地割を含めた全体測量を行うことによって、トレンチ設定位置を記録した。

トレンチは宅地南側の石垣に面した地点が最も平らな地形を呈しており、旧屋敷の前庭部だと推測されることから、1トレンチを設定し、より東側の土壘状高まりに近い地点に2トレンチを設定した。この後1・2トレンチの遺構の状況が把握されたため、木を避ける形で1・2トレンチの中間地点に3トレンチを設定した。また、1～3トレンチより高い地形にある金貨出土地点の東側にトレンチを設け(4トレンチ)、2トレンチ東側に土壘状高まりを東西方向に断ち割る形でトレンチを設定し、地形の高まりが人為的なものかどうかの確認を行った。また、金貨出土地の西側ぶトレンチを設定した(5トレンチ)。

・1トレンチ

第I面調査

・土層堆積状況

表土を10～20cm掘り下げたところ、プランが確認されるとともに遺物が出土したため、これを第I面と認識した。しかし、継続して掘り下げたところ、第I面より下位に近世の遺構面が確認されたため、近世以降の掘り込みであると想定され、屋敷の施設に伴う遺構ではないことから、これらを遺構認定から外した。第I面は比較的新しい段階で使用された面だと解釈できる。1トレンチ北西隅において、西側に落ち込む地形が看取され、全体的に西側に向かって下がる地形を呈している。この面において、井戸上面の礫が露出する。

・検出された遺物(第61図・第67図)

出土した遺物としては、近世の碗・鉢類・焰烙、平安の坏などの器種が散漫に出土している。第67図3(以下の記述は全て第67図中の遺物)は二重網目文、4は雪輪梅樹文が描かれている。共に18世紀中頃から末頃に比定される。5の見込み部には三足付ハマの跡がある。6は鉄軸碗である。9・10は焰烙で、外面が黒色に変化している。1・2は平安末の土師器である。2の見込み部には磨き痕がランダムにあり、外面には線刻がある。また、一括遺物としては第67図以外にも網文から現代のものまで幅広く出土している。

第II面調査

第1面の調査段階で井戸上面の石が露出していたため、井戸の構築面を検出するため周囲の掘り下げを行なったところ、東側において礫が同一レベルで敷き詰められた遺構(1号敷石状遺構)を確認した。北東コーナーを掘り下げたところ、平坦な礫を直線状に並べた遺構(1号石列)が確認され、D-2グリッドからは大鉢が検出された。また、B-2・3グリッドに深堀りトレンチを設け、1m50の位置まで掘り下げを行った。

土層堆積状況

遺構面を構成する土壤である暗褐色粘土層(1トレンチ5層に比定)の上を褐色土層・明褐色土層・暗褐色土層・灰白色土層などが連続的に堆積している。堆積状況としては、1トレンチ深堀り地点の様に斜位に連続的に堆積する形状を呈す。

検出された遺構

1号石列(第62図)

(位置) C-D-2グリッド

(規模) 平坦な礫は1トレンチの東側に延びており、今回の調査では全て検出することはできなかった。配されている礫の長軸は、2m72である。1号石列の西側において、東に向かって面を持つ礫がある。

(土層) 暗褐色粘土層(1トレンチ5層に比定)が1号石列の構築される面である。暗褐色粘土層は西から東に向かって、層が厚くなっていく形状を呈しており、遺物のレベルと石列のレベ

ルはやや異なる。

(遺物) 近世の遺物としては、第68図1の天目茶碗、第68図4の大鉢などが確認された。特に第68図4は出土状態から遺構面に伴なうプライマリーな遺物であると評価できる。この他の遺物として、繊維含有の縄文土器・甲斐型甕などが出土している。

遺構の性格

礫は平坦な部位を上に置いているものが多いが、東側が高くなつており均一なレベルではない。建物の礫石である可能性を指摘できる。

井戸(第62図)

(位置) B-1 グリッド

(規模) 南北方向が長軸で1m72を測り、東西方向が短軸で1m15である。井戸の上面から60cmである。

(土層) 暗褐色粘土層(1トレンチ5層に比定)上に構築される。

(遺物) 近世鉢類が井戸を構成する石に伴なつて出土している。

遺構の性格

平坦な巨礫で被覆している。全て礫で構築しているのではなく、一部で地山が露出している。大柴氏によると旧屋敷において井戸は3基あったとのことであり、確認された遺構はこの内の一つに該当する。他の井戸は現状で石垣際に1基確認されるが、もう1基の井戸は不明である。井戸の平面形は正円形を呈する。

1号敷石状遺構(第62図)

(位置) C-1 グリッド

(規模) 井戸の東側、南北3m×東西1m50の間に小礫を中心に分布する。

(土層) 暗褐色粘土層(1トレンチ5層に比定)に構築される。

(遺物) 遺構に伴なう遺物としては、焙烙片が出土した。この焙烙片の底部と側壁には穿孔の跡が見受けられる。また、若干離れた位置から磁器蓋や寛永通寶(四文銭)や鐵錢などが出土している。他にも、縄文土器・S字甕・平安時代の坏なども分布する。

遺構の性格

礫の配置はランダムであり、C-1グリッド南側に分布のピークを持つ。この集中部から北側に向かって礫の分布はやや粗くなる。井戸に伴う通路状の施設と捉えられ、南北方向に走行すると推察される。

深堀りトレンチ(第62図)

(位置) B-2・3 グリッド

(土層) 1~6層に分層される。6層が地山であるが、2トレンチの地山と構成する土壤が大きくなる。また、2~4層はいずれも東側から西側に向かって落ち込んでいく地形を示している。近世の遺構面であるII面が漸移的に東側から堆積したことが分かる。

(遺物) なし

・2トレンチ

土層堆積状況

表土下、暗褐色土層(層厚約20cm)―明赤褐色土層の順に堆積する。地山が明赤褐色土層であるが、1トレンチとは異なり、硬く緻密な土壤である。

検出された遺構

2号石列(第63図)

(位置) F・G-1 グリッド

(規模) 東西方向に4m連続する。礫の大きさは様々であり、石列の中に磨臼など近世の石造物を含む。また、G-0グリッド杭の北側には巨礫が存在する。この巨礫は地面に対し斜めになつておらず、南側を礫の隙間を充填する形で平坦な礫が配されている。また、2号石列の北側には小礫の集中地点がある。

(土層) 明赤褐色土(3トレンチ5層に比定)に構築されている。

(遺物) 第68図15は二重網目文を有する磁器である。石列中に磨臼(第70図1・3)がある。いづ

れも破損品であり、柄穴・軸などが部分的に残存している。第70図4は錐状の工具痕を持つ凹石である。また、縄文土器の他にも弥生土器（栗林式）が2点確認されており、この内の1点（第68図6）には内面に赤彩を有している。

遺構の性格

その立地的特徴（赤褐色土層上に構築されており、屋敷の外側に位置している）ことから、屋敷前庭部に伴なう施設である可能性を有する。

1号礫集中（第63図）

（位置）F-00グリッド
（土層）暗褐色土（3トレンチ4層に比定）
（規模）約60cm×60cmの範囲に礫が集中する。
中にある。（遺物）凹石が1点出土している。

2号礫集中（第63図）

（位置）E-00グリッド
（土層）暗褐色土（3トレンチ4層に比定）
（規模）約90cm×70cmの範囲に礫が集中する。
中にある。（遺物）磨白が1点出土している。

・3トレンチ

土層堆積状況

場所によって土層堆積が異なる。2号敷石状遺構の周辺においては、表土層より暗褐色土層—黄褐色土層—明赤褐色土層の順に堆積する。これに対し、2号敷石状遺構の南側においては、表土層—暗褐色土層—明赤褐色土層の順となる。また、2号敷石状遺構付近は平坦であるものの、南側及び東側に向けて地形が下がる。このことからも、2号敷石状遺構周辺に屋敷の関連施設があり、南側に向かって前庭部が形成されていたと想定しうる。

トレンチの南側からは、18世紀中頃～末の陶磁器が出土した。第67図3は二重網目文であり、1トレンチ1面出土の破片と接合する。第68図13には、ハマの痕跡が見られる。また、トレンチ西側からは陶器蓋が出土している。

検出された遺構

2号敷石状遺構（第65図）

（位置）D・E-1グリッド
（規模）東西に3m、南北に1m50の間に分布する。
（土層）黄褐色土上に構築され、覆土は暗褐色土である。
（遺物）近世の陶磁器片（第68図11）が石の間に挟まれる形状で出土した。この外面には雪輪梅樹文が描かれていることから、18世紀中頃～末に比定される。

遺構の性格

礫の平坦な部位を上にしたと考えられる礫集中の単位が認められる。B-B'エレベーションの2単位の礫集中は花弁状に配されており、礫石となる可能性を有している。また、焼土付近においても平坦な礫が集中していることから、焼土遺構に伴なう施設を想定することも可能である。

焼土遺構

（位置）D-1グリッド
（規模）長軸70cm、短軸60cm、深さ50cmを測る。
（土層）1～5層に分層される。5層は炭化物を含む土層であり、層中に粗密がある。下位において、炭化物の純層が水平堆積している。2層は焼土の純層であり、南北に25cm、東西に20cmの範囲に広がっている。また、焼土の純層は1層と3層の間に縱方向に存在する。

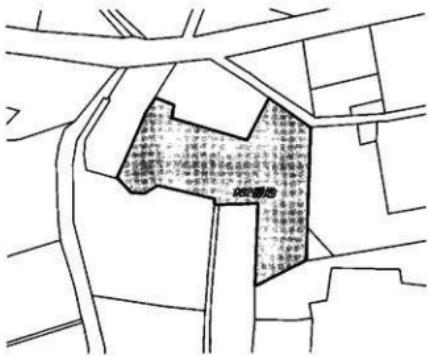
（遺物）金属製品（第70図6）が焼土層直上から出土した。この金属製品は、一部が破損している。

遺構の性格

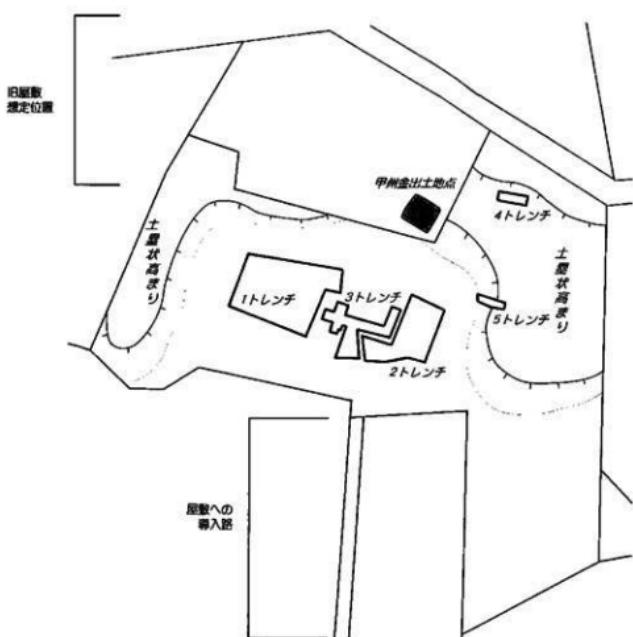
焼土層の集中が西側に偏っており、遺構全体を用いるのではなく、遺構を部分的に堀りくぼめて作業を行っていることが分かる。炭化物の堆積層から、複数回の作業を同一遺構内で行っていると推察される。遺構内から出土した金属製品の表裏が変色しており、作業に伴なった遺物であるといえる。



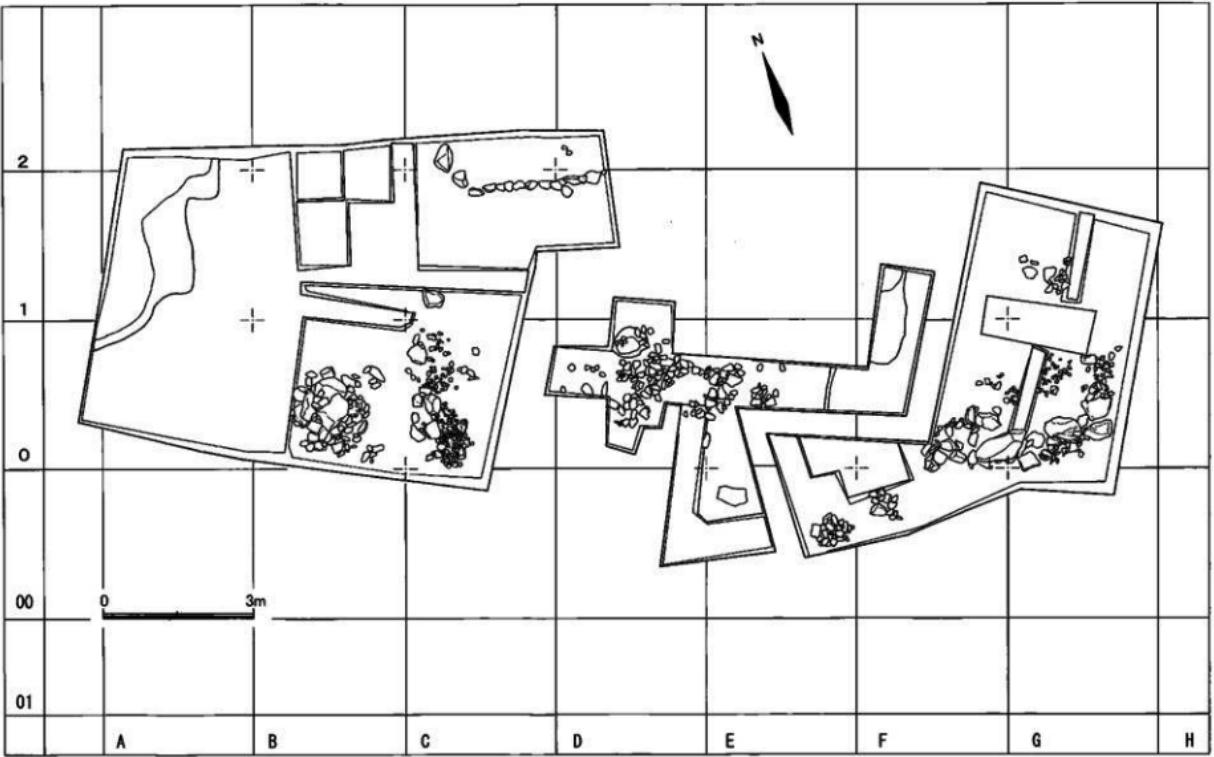
第57図 権現遺跡位置図



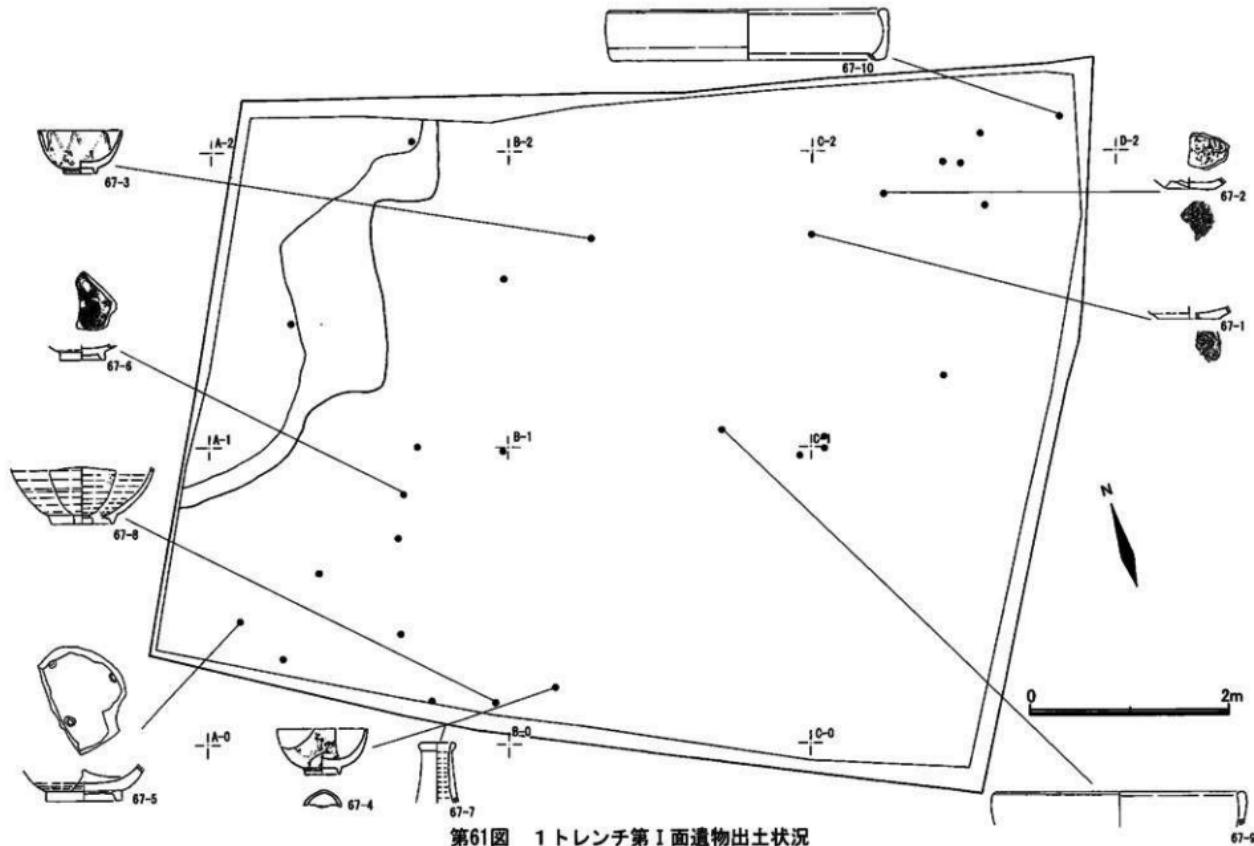
第58図 調査対象図 (1/2,000)



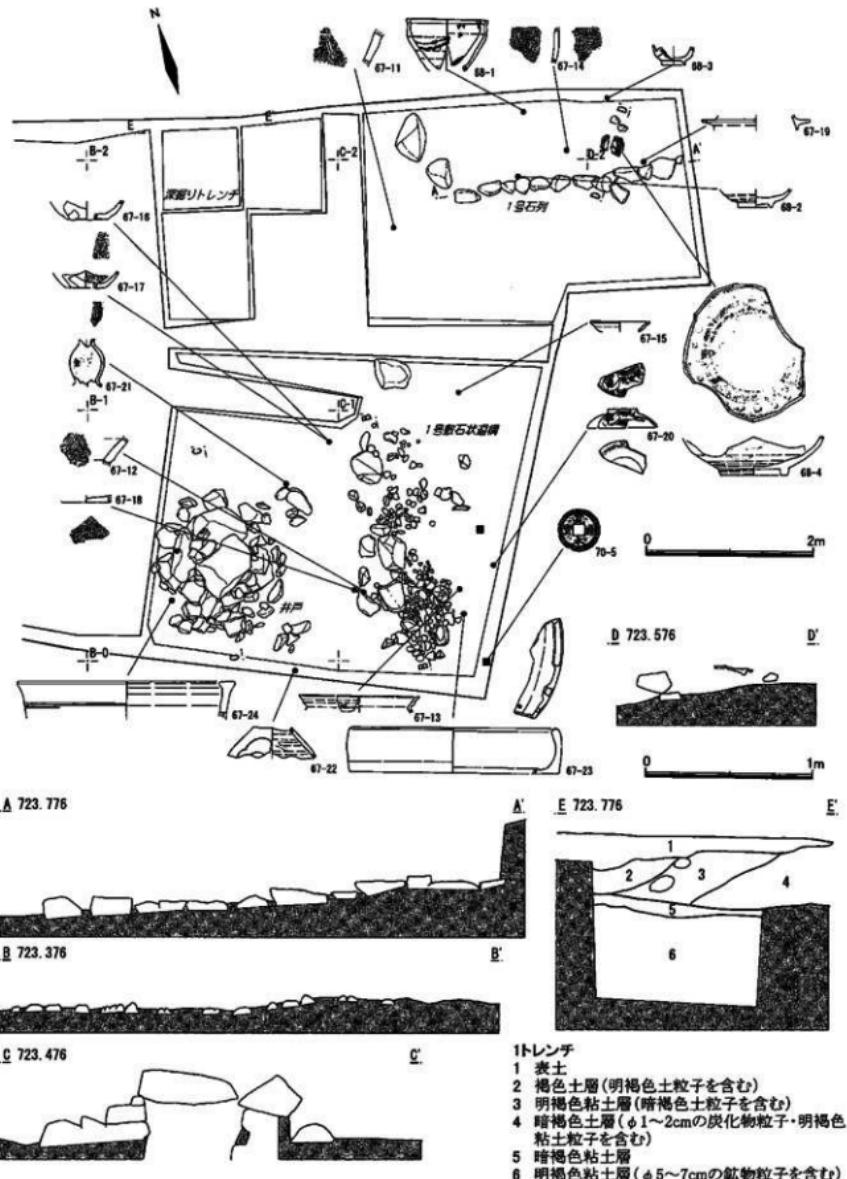
第59図 トレンチ設定図 (1/500)



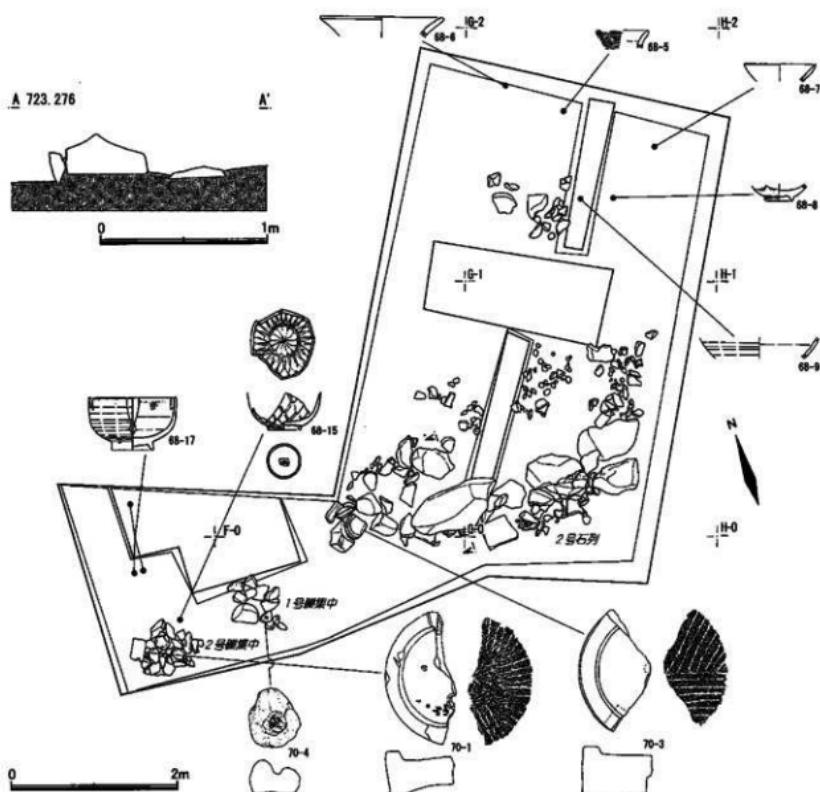
第60図 グリッド設定図



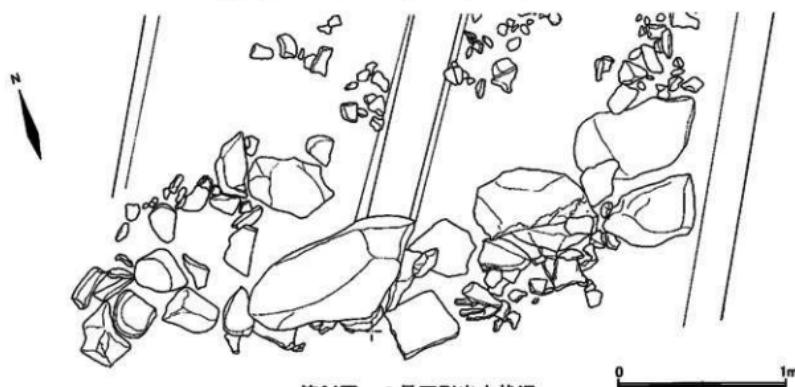
第61図 1トレンチ第I面遺物出土状況



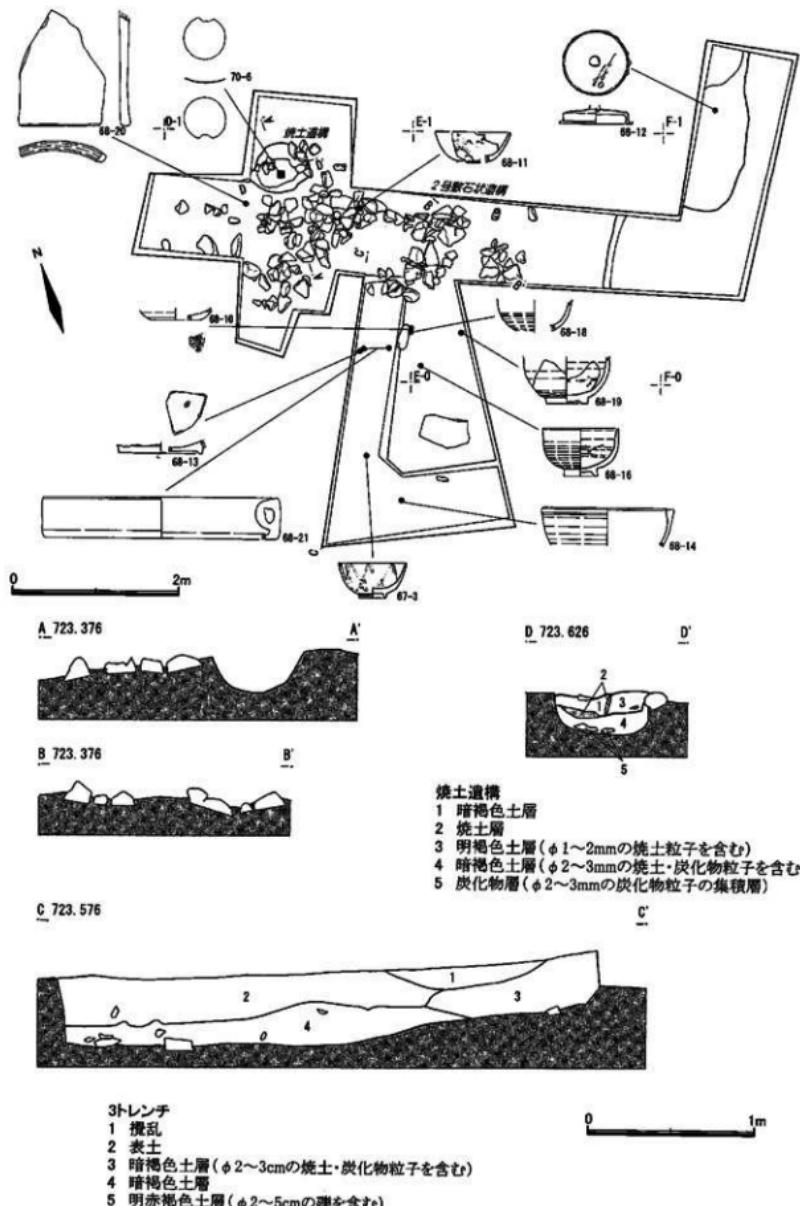
第62図 1トレンチ第II面検出遺構・遺物



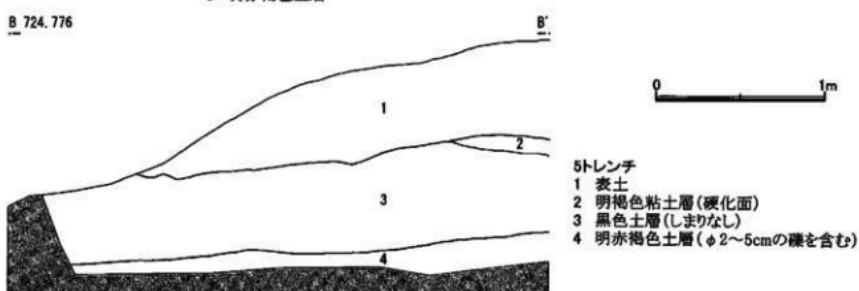
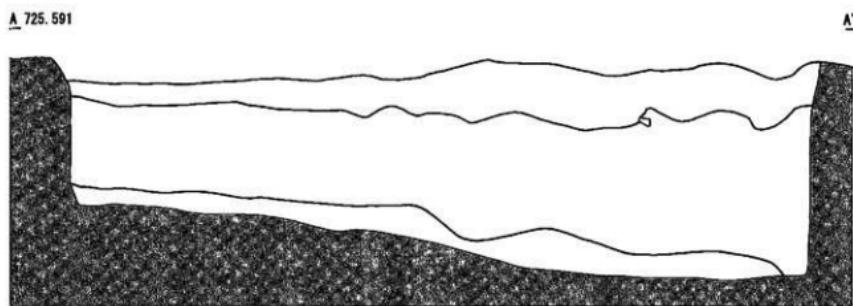
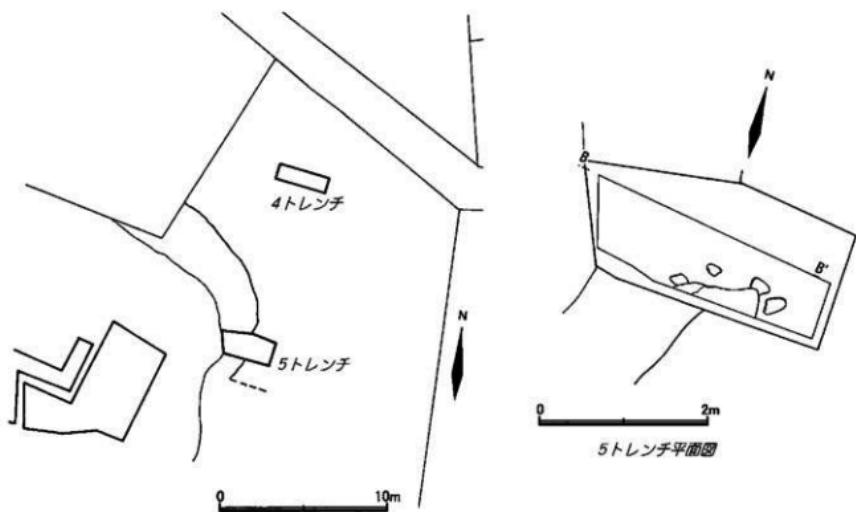
第63図 2トレンチ第Ⅱ面検出遺構・遺物



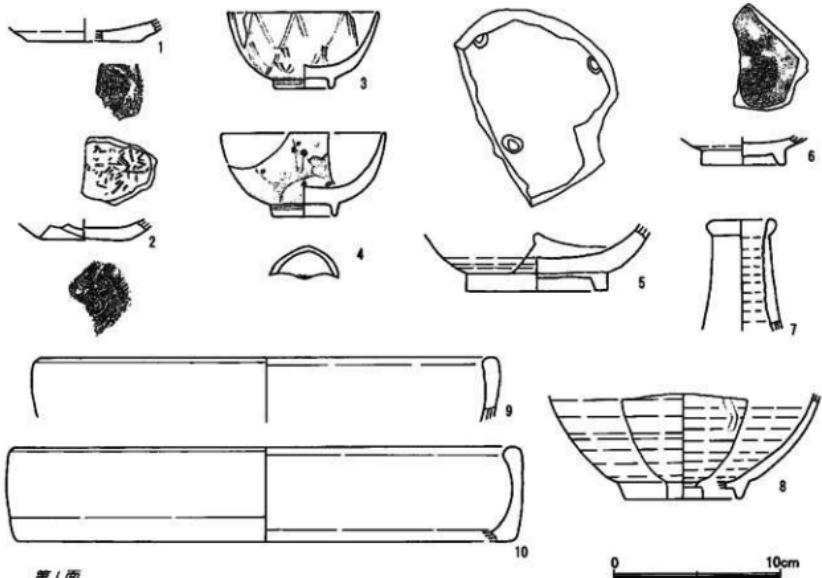
第64図 2号石列出土状況



第65図 3トレンチ第II面検出遺構・遺物

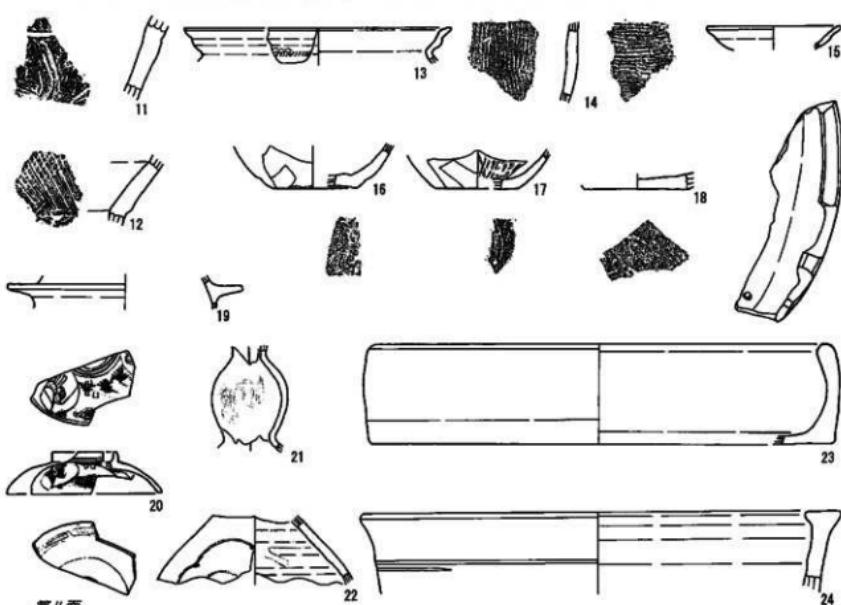


第66図 4・5トレンチ位置図・土層図



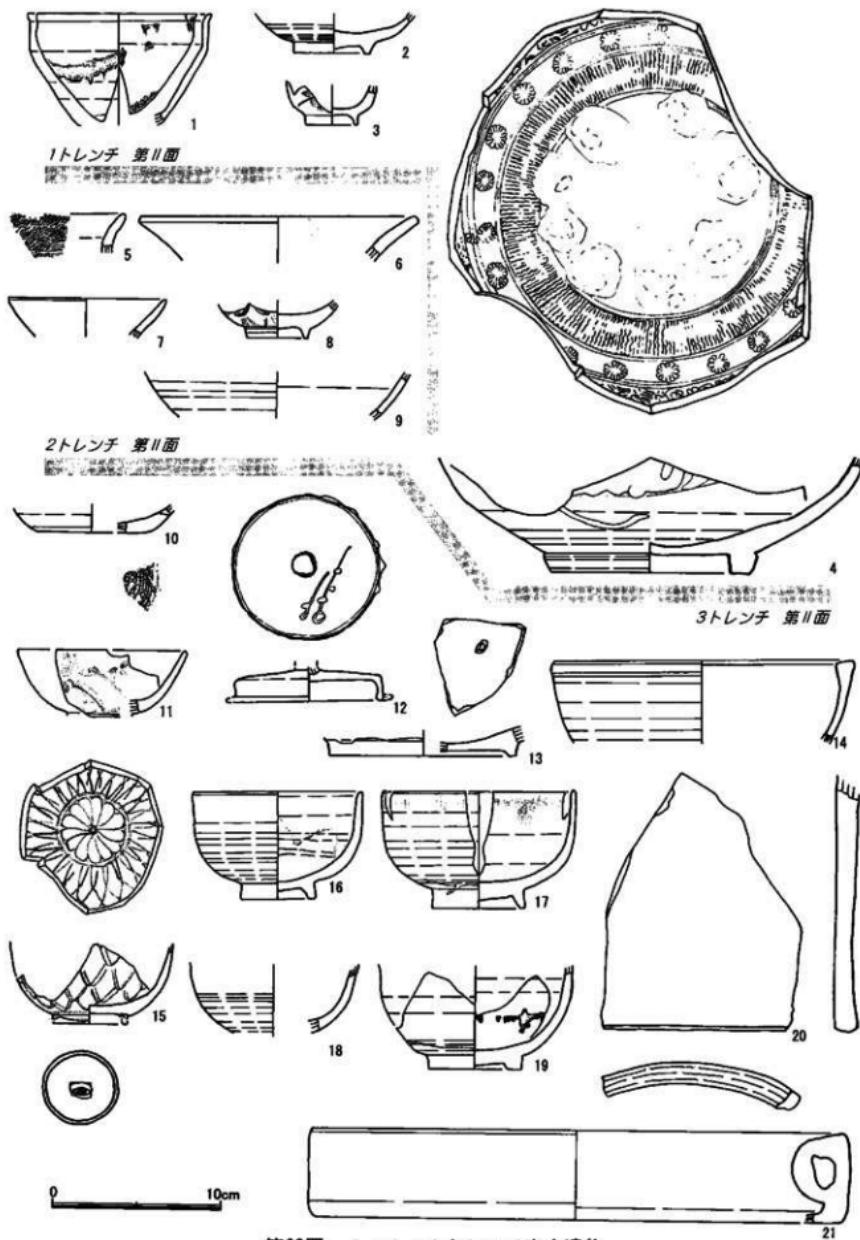
第一面

0 10cm

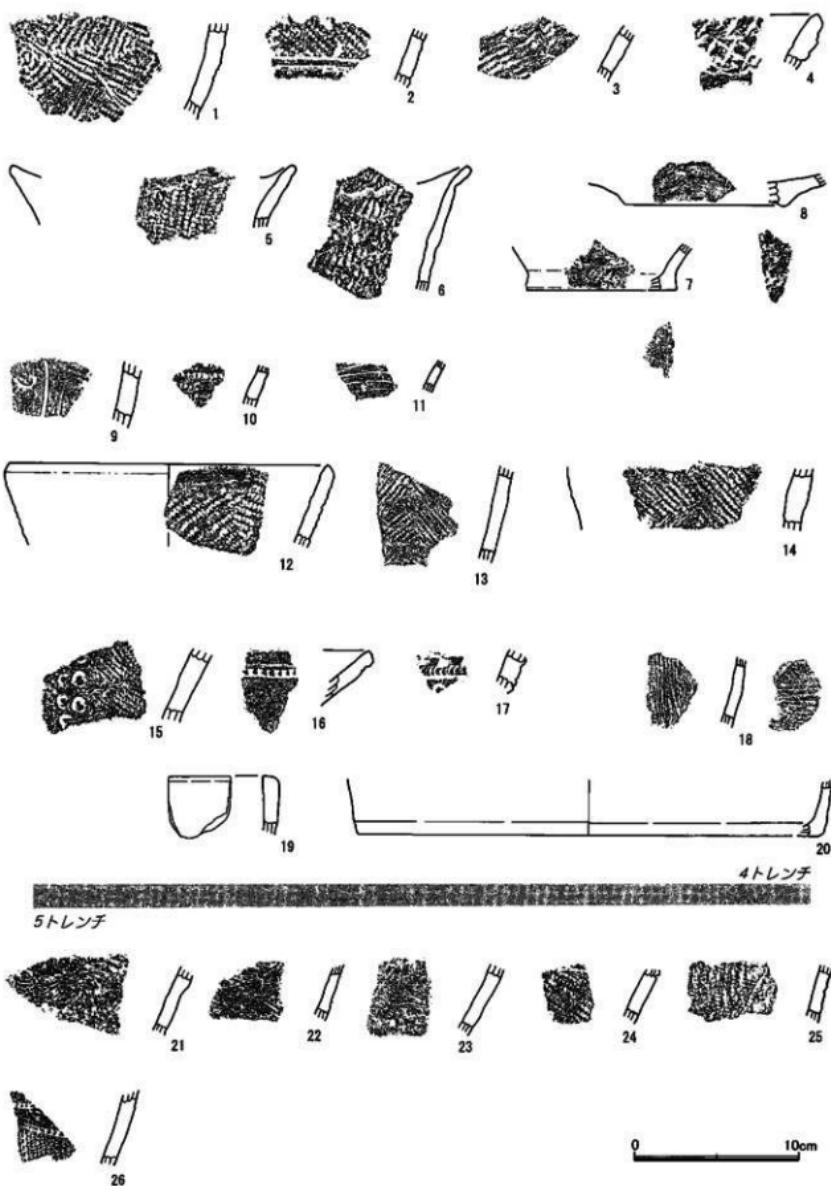


第二面

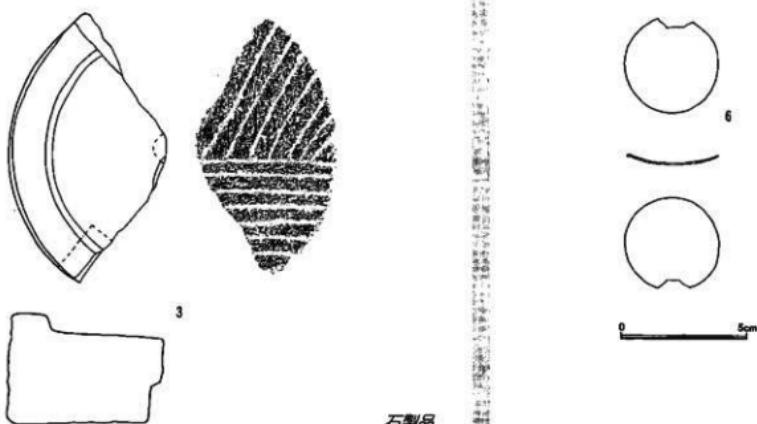
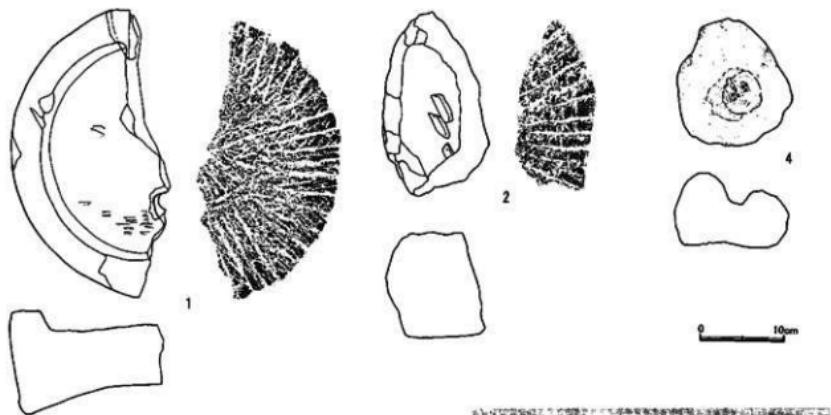
第67図 1トレンチ出土遺物



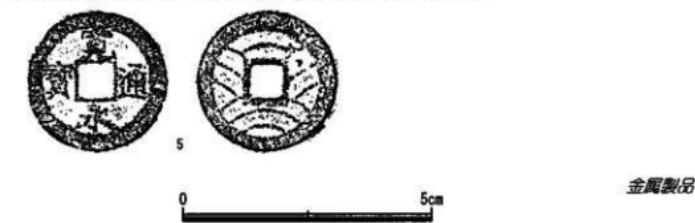
第68図 1・2・3トレンチ出土遺物



第69図 4・5トレンチ出土遺物

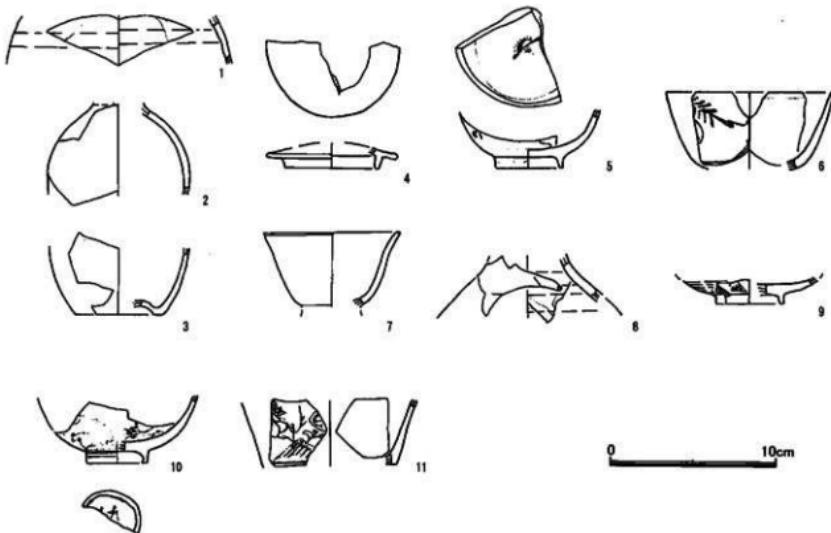


石製品



金属製品

第70図 1・3 トレンチ出土遺物・表探遺物



第71図 1・3トレンチ出土遺物・表探遺物

第26表 権現遺跡出土遺物一覧表

番号	出土場所	遺物名	種別	年代	方法	出土地点	備考	参考文献
-	I P1	磁器	焼	-	-	722.036	-	近代 大正～昭和
-	I P1-2	磁器	焼類	-	-	722.036	型紙刷	近代 明治
-	I P2	陶器	焼類	-	-	721.775	-	近代 大正～昭和
-	I P3	ガラス	-	-	-	722.006	-	近代 大正～昭和
67-6	I P4	陶器	焼	-	5.0	721.941	鉄輪	近世 -
-	I P5	磁器	焼	10.8	-	721.830	型紙刷	近代 明治
-	I P6	磁器	焼	9.6	3.4	4.4	722.031	型紙刷
-	I P7	磁器	焼	-	-	721.906	型紙刷	近代 明治
-	I P7-2	磁器	焼	-	-	721.906	-	近世 -
-	I P8	土器	-	-	-	721.896	-	-
-	I P9	磁器	焼	-	-	721.829	-	近世 -
67-8	I P10	陶器	焼類	-	7.0	721.836	-	近世 -
67-4	I P11	磁器	焼	9.8	4.0	5.0	721.763	-
67-7	I P11-2	陶器	焼類	4.0	-	721.763	1トレンIと接合	近世 -
-	I P12	瓦	軒平	-	-	722.054	-	-
-	I P13	土器	台付壺	-	-	722.061	-	-
67-1	I P14	土器	-	-	7.0	722.121	-	平安 -
67-2	I P15	土器	壺	-	5.4	722.156	内黒	平安 -
-	I P16	須恵器	壺	-	-	722.031	-	古墳 -
-	I P16-2	磁器	焼類	-	-	722.031	-	近世 -
-	I P17	土器	深鉢	-	-	722.015	-	繩文 開山並行
-	I P18	土器	-	-	-	722.041	-	-
-	I P19	土器	-	-	-	722.022	-	-
67-10	I P20	土器	培格	30.6	25.6	5.6	722.034	-
-	I P21	陶器	-	-	-	722.067	-	近世 -
-	I P22	土器	深鉢	-	-	721.907	-	繩文 -
-	I P23	土器	深鉢	-	-	721.911	-	繩文 -
-	I P24	土器	深鉢	-	-	721.942	-	繩文 -
67-9	I P25	土器	培格	28.0	-	722.001	-	近世 -
67-5	I P26	陶器	焼類	-	8.5	721.750	-	近世 -
67-3	I P27	磁器	焼	9.2	3.6	4.5	721.891	3トレンII P22と接合
67-24	I P1	陶器	-	28.6	-	721.891	-	-
-	I P2	陶器	焼類	-	-	721.526	-	近世 -
67-22	I P3	陶器	焼類	-	-	721.848	-	近世 -
-	I P4	土器	培格	-	-	721.744	1トレンIII P5と接合	近世 -

番号	出土地点	地	種類	断面	口径	底径	高さ	出土レベル	説明	年代	特徴
-	1トレンチ	II P6	土器	培塿	-	-	-	721.772	1トレ II P4と接合	近世	-
-	1トレンチ	II P6-2	磁器	瓶頸	-	-	-	721.772	-	近代	大正～昭和
-	1トレンチ	II P6	土器	培塿	-	-	-	721.742	-	近世	-
67-12	1トレンチ	II P7	土器	深鉢	-	-	-	721.804	-	縄文	五領ヶ台式
67-18	1トレンチ	II P8	土器	-	-	-	-	721.791	-	平安	-
-	1トレンチ	II P9	土器	-	-	-	-	721.784	-	-	-
-	1トレンチ	II P10	陶器	瓶頸	-	-	-	721.801	-	近代	大正～昭和
-	1トレンチ	II P11	磁器	瓶	-	-	-	721.851	-	近世	-
-	1トレンチ	II P12	土器	-	-	-	-	721.670	内巣	平安	-
-	1トレンチ	II P12-2	土器	-	-	-	-	721.670	-	平安	-
-	1トレンチ	II P13	土器	-	-	-	-	721.882	-	縄文	-
-	1トレンチ	II P14	土器	-	-	-	-	721.934	-	縄文	-
-	1トレンチ	II P15	陶器	碗	-	-	-	721.874	-	-	-
67-21	1トレンチ	II P16	陶器	-	-	-	-	722.021	-	近代	-
-	1トレンチ	II P17	土器	-	-	-	-	722.043	-	縄文	-
-	1トレンチ	II P18	土器	深鉢	-	-	-	721.718	-	縄文	-
67-17	1トレンチ	II P19	土器	甲斐型壺	-	5.0	-	721.690	-	平安	-
67-16	1トレンチ	II P19-2	土器	环	-	5.0	-	721.690	-	平安	-
-	1トレンチ	II P20	土器	深鉢	-	-	-	721.826	-	縄文	-
67-15	1トレンチ	II P21	土器	皿	8.0	-	-	722.048	-	平安	-
67-20	1トレンチ	II P22	磁器	蓋	11.2	4.0	2.5	721.802	-	近世	-
-	1トレンチ	II P23	陶器	碗	-	-	-	721.666	-	近世	-
67-13	1トレンチ	II P24	土器	S字型	15.0	-	-	721.761	-	古墳	-
67-23	1トレンチ	II P25	土器	培塿	27.8	27.8	5.9	721.640	-	近世	-
-	1トレンチ	II P26	陶器	瓶頸	-	-	-	721.914	-	近世	-
68-4	1トレンチ	II P27	陶器	皿	-	11.5	-	722.051	-	近世	-
68-3	1トレンチ	II P28	陶器	碗	-	3.0	-	722.133	-	近世	-
67-14	1トレンチ	II P29	土器	甲斐型壺	-	-	-	721.964	-	平安	-
68-2	1トレンチ	II P30	陶器	碗	-	-	4.6	721.909	-	近世	-
68-1	1トレンチ	II P31	陶器	碗	11.0	-	-	721.827	天目形	近世	-
-	1トレンチ	II P32	土器	培塿	-	-	-	721.811	-	近世	-
67-11	1トレンチ	II P33	土器	深鉢	-	-	-	721.890	-	縄文	下吉井式
67-19	1トレンチ	II P34	陶器	羽茎	-	-	-	722.027	-	-	-
70-5	1トレンチ	II C1	銭貯	寛永通寶	2.7	2.7	1.0	721.912	四文錢	近世	-
-	1トレンチ	II C2	銭貯	寛永通寶	-	-	-	721.726	銭錢	近世	-
-	2トレンチ	- P1	土器	-	-	-	-	721.698	-	古墳	-
68-6	2トレンチ	- P2	土器	-	16.4	-	-	721.728	-	弥生	栗林式
-	2トレンチ	- P3	磁器	碗	-	-	-	721.620	-	弥生	栗林式
68-5	2トレンチ	- P4	土器	蓋	-	-	-	721.655	-	弥生	栗林式
68-9	2トレンチ	- P5	陶器	-	-	-	-	721.877	-	近世	-
68-8	2トレンチ	- P6	陶器	碗	-	3.6	-	721.685	二重網目文	近世	-
68-7	2トレンチ	- P7	土器	-	9.2	-	-	721.666	-	古墳	-
-	2トレンチ	- P8	磁器	-	-	-	-	721.708	型紙刷	近代	明治
-	2トレンチ	- P9	磁器	-	-	-	-	721.665	1トレ I P5と同一個体	近代	-
-	2トレンチ	- P9-2	磁器	-	-	-	-	721.665	型紙刷	近代	明治
-	2トレンチ	- P9-3	土器	-	-	-	-	721.665	-	-	-
-	2トレンチ	- P9-4	土器	-	-	-	-	721.665	-	縄文	-
68-20	3トレンチ	- P1	瓦	軒平	-	-	-	722.099	-	近世	-
-	3トレンチ	- P2	土器	甲斐型壺	-	-	-	721.803	-	平安	-
-	3トレンチ	- P3	土器	-	-	-	-	721.833	-	-	-
68-11	3トレンチ	- P4	磁器	碗	10.0	-	-	721.835	-	近世	-
68-18	3トレンチ	- P5	陶器	碗	-	-	-	721.650	-	近世	-
68-10	3トレンチ	- P6	土器	坪	-	6.4	-	721.654	-	平安	-
68-21	3トレンチ	- P7	土器	培塿	31.6	30.4	5.3	721.652	3トレ II P8と接合	近世	-
68-21	3トレンチ	- P8	土器	培塿	31.6	30.4	5.3	721.596	3トレ II P7と接合	近世	-
68-14	3トレンチ	- P9	陶器	鉢	17.6	-	-	721.518	-	近世	-
68-16	3トレンチ	- P10	陶器	碗	10.0	4.4	6.5	721.733	-	近世	-
-	3トレンチ	- P11	土器	深鉢	-	-	-	721.696	-	縄文	-
-	3トレンチ	- P12	土器	深鉢	-	-	-	721.570	-	縄文	-
68-12	3トレンチ	- P13	陶器	蓋	-	-	-	721.675	-	近世	-
68-17	3トレンチ	- P14	陶器	碗	11.6	5.3	6.9	721.688	3トレ II P16・17と接合	近世	-
-	3トレンチ	- P15	磁器	-	-	-	-	721.691	-	-	-
68-17	3トレンチ	- P16	陶器	碗	11.6	5.3	6.9	721.738	3トレ II P14・17と接合	近世	-
68-17	3トレンチ	- P17	陶器	碗	11.6	5.3	6.9	721.682	3トレ II P14・16と接合	近世	-
-	3トレンチ	- P18	土器	深鉢	-	-	-	721.697	-	縄文	-
-	3トレンチ	- P19	磁器	-	-	-	-	721.617	-	-	-
68-15	3トレンチ	- P20	陶器	碗	-	4.3	-	721.488	二重網目文	近世	-
68-13	3トレンチ	- P21	土器	瓶頸	-	11.0	-	721.613	-	近世	-
-	3トレンチ	- P22	磁器	碗	9.2	3.6	4.5	721.553	1トレ I P27と接合	近世	-
68-19	3トレンチ	- P23	陶器	碗	-	5.4	-	721.747	-	近世	-
70-6	3トレンチ	- F1	銅製金具	-	3.7	3.7	0.1	721.770	-	-	-
71-8	1トレンチ	- 18	陶器	瓶頸	-	-	-	-	1トレ II C0と接合	近世	-
71-1	1トレンチ	- 1	陶器	瓶頸	-	-	-	-	-	近世	-
71-4	1トレンチ	- 3	陶器	蓋	8.0	5.5	-	-	-	近世	-
71-2	1トレンチ	- 36	陶器	瓶頸	-	-	-	-	-	近代	-

登録番号	出土地点	地名	種類	形態	寸法	重さ	付属品	出土状況	参考文献	時代	特徴
71-3	1トレンチ	- 37	陶器	瓶類	- 5.2	-	-	-	-	近代	-
71-3	1トレンチ	- 38	陶器	瓶類	- 5.2	-	-	-	-	近代	-
1トレンチ	- 40	陶器	瓶類	4.0	-	-	-	1トレIP11と接合	近世	-	
-	1トレンチ	- 41	磁器	碗	11.4	3.7	4.9	-	型紙刷	近世	明治
-	1トレンチ	- 48	磁器	仏壇型	6	4.4	5.2	-	-	近代	-
71-7	1トレンチ	- 52	陶器	碗	8.2	-	-	-	-	近世	-
-	1トレンチ	- 53	陶器	瓶類	-	7.2	-	-	-	近世	-
-	1トレンチ	- 56	黒曜石	2次加工を有する剥片	1.5	1.0	0.8	-	-	一	-
1トレンチ	- 1	陶器	碗	-	3.0	-	-	-	-	近世	-
-	2トレンチ	- 1	黒曜石	-	1.6	3.8	2.0	-	-	-	-
-	3トレンチ	- 11	黒曜石	陶器	2.6	1.9	0.5	-	-	縄文	-
3トレンチ	- 1	磁器	碗	-	-	-	-	-	-	-	-
3トレンチ	- 2	磁器	碗	-	-	-	-	-	-	-	-
3トレンチ	- 3	磁器	碗	-	-	-	-	-	-	-	-
-	3トレンチ	- 10	陶器	-	9.6	-	-	-	二重網目文	近世	-
71-9	3トレンチ	- 14	陶器	碗	-	3.0	-	-	3トレF0と接合	近世	-
69-12	4トレンチ	- 1	土器	窓林	19.0	-	-	-	-	縄文	-
69-5	4トレンチ	- 7	土器	窓林	-	-	-	-	-	波状口縄	縄文
69-6	4トレンチ	- 8	土器	深鉢	-	-	-	-	-	波状口縄	帆遊堂Z式
69-1	4トレンチ	- 9	土器	窓林	-	-	-	-	-	縄文	蘭山並行
69-13	4トレンチ	- 10	土器	窓林	-	-	-	-	-	縄文	-
69-15	4トレンチ	- 11	土器	窓林	-	-	-	-	-	縄文	諸磯a式
69-14	4トレンチ	- 15	土器	窓林	-	-	-	-	-	縄文	-
69-2	4トレンチ	- 24	土器	窓林	-	-	-	-	-	縄文	蘭山並行
69-3	4トレンチ	- 25	土器	深鉢	-	-	-	-	-	縄文	蘭山並行
69-17	4トレンチ	- 32	土器	窓林	-	-	-	-	-	縄文	早期～前期中葉
69-11	4トレンチ	- 33	土器	深鉢	-	-	-	-	-	縄文	中期
69-16	4トレンチ	- 51	土器	窓林	-	-	-	-	-	縄文	-
69-10	4トレンチ	- 52	土器	窓林	-	-	-	-	-	縄文	-
69-4	4トレンチ	- 58	土器	窓林	-	-	-	-	-	縄文	-
69-9	4トレンチ	- 59	土器	窓林	-	-	-	-	-	縄文	下吉井式
69-19	4トレンチ	- 60	土器	窓林	-	-	-	-	-	縄文	-
69-18	4トレンチ	- 61	土器	甲斐型窓	-	-	-	-	-	縄文	平安
69-7	4トレンチ	- 63	土器	窓林	-	8.7	-	-	-	縄文	帆遊堂Z式
69-8	4トレンチ	- 64	土器	窓林	-	9.6	-	-	-	縄文	-
69-20	4トレンチ	- 65	土器	窓林	-	27.6	-	-	-	縄文	-
4トレンチ	- 66	土器	窓林	-	-	-	-	-	-	縄文	-
-	4トレンチ	- 73	黒曜石	石核	2.0	3.1	1.2	-	-	縄文	-
-	4トレンチ	- 75	黒曜石	石核	2.3	1.9	1.0	-	-	縄文	-
-	4トレンチ	- 79	黒曜石	石核	3.3	2.8	2.0	-	-	縄文	-
69-22	5トレンチ	- 1	土器	窓林	-	-	-	-	-	縄文	早期～前期中葉
69-23	5トレンチ	- 2	土器	窓林	-	-	-	-	-	縄文	早期～前期中葉
69-21	5トレンチ	- 3	土器	深鉢	-	-	-	-	-	縄文	早期～前期中葉
69-24	5トレンチ	- 10	土器	窓林	-	-	-	-	-	縄文	-
69-25	5トレンチ	- 12	土器	窓林	-	-	-	-	-	縄文	-
69-26	5トレンチ	- 13	土器	窓林	-	-	-	-	-	縄文	諸磯a式
71-5	1トレンチ	- SX4	磁器	破片	-	4.0	-	-	-	縄文	-
71-4	1トレンチ	- SX5	陶器	蓋	8.0	5.5	-	-	-	縄文	-
71-8	1トレンチ	- CO	陶器	瓶類	-	-	-	-	-	縄文	-
71-6	3トレンチ	- E0	磁器	碗	10.0	-	-	-	-	縄文	-
71-9	3トレンチ	- F0	陶器	碗	-	3.0	-	-	-	縄文	-
71-10	表様	- 4	磁器	碗	-	3.6	-	-	-	縄文	-
71-11	表様	- 13	磁器	碗	-	-	-	-	-	縄文	-
-	1トレンチ	- S1	-	転轍	* * *	-	-	721.990	-	-	-
-	1トレンチ	- S2	-	2次加工を有する剥片	2.2	1.6	0.7	721.983	-	縄文	-
-	1トレンチ	- S3	-	石核	2.0	1.9	1.3	721.985	-	-	-
-	1トレンチ	- S4	-	剥片	-	-	-	721.986	-	-	-
-	1トレンチ	- S5	-	磨石	-	-	-	721.764	-	-	-
-	1トレンチ	- S6	-	磨石	-	-	-	721.801	-	-	-
-	1トレンチ	- S7	-	磨石	4.1	3.7	3.5	721.828	-	縄文	-
-	3トレンチ	- S1	-	磨凹石	11.9	8.1	6.2	721.899	表I	縄文	-
-	3トレンチ	- S2	-	磨石	9.9	6.5	7	721.915	-	縄文	-
-	3トレンチ	- S3	-	転轍	-	-	-	721.524	-	-	-
70-1	3トレンチ	- S4	安山岩	駿磨曰	-	12.4	-	721.730	-	近世	-
70-4	3トレンチ	- S5	-	凹石	15.2	13.7	8.8	721.682	表裏I対	縄文	-
70-3	3トレンチ	- S6	安山岩	駿磨曰	-	13.3	-	721.570	-	近世	-
-	4トレンチ	-	-	磨凹石	-	7.9	4.4	-	-	縄文	-
-	4トレンチ	-	-	磨凹石	-	8.5	4.1	-	表裏3対	縄文	-
-	4トレンチ	-	-	設石	12.1	8.7	4.4	-	-	縄文	-
-	4トレンチ	-	-	磨石	6.2	5.5	4.9	-	-	縄文	-
-	4トレンチ	-	-	磨石	-	6.4	4.2	-	-	縄文	-
-	表様	-	-	石棒	-	11.4	11.4	-	-	縄文	-
70-2	表様	-	-	安山岩	駿磨曰	-	12.6	-	-	近世	-

第27表 信虎誕生屋敷出土遺物一覧表

1トレンチ出土遺物

種類	出土場所	高さ	遺物番号	種類	特徴	口径	底径	器高	出土レベル	備考	時代	時期
											時代	時期
83-3	1トレンチ	-	P1	土器	かわらけ	12.9	6.9	2.4	293.493	P30と接合	中世	15~16世紀
-	1トレンチ	-	P2	土器	かわらけ	-	8.8	-	293.438	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P3	土器	碗	7.8	-	-	293.478	-	近世	-
83-6	1トレンチ	-	P4	土器	かわらけ	-	5.8	-	293.652	-	中世	15~16世紀
-	1トレンチ	-	P5	土器	かわらけ	-	7.0	-	293.530	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P6	碗	-	-	-	-	-	-	-	-
-	1トレンチ	-	P7	土器	かわらけ	11.2	-	-	293.577	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P8	土器	焼烙	-	9.7	-	293.617	-	近世	-
-	1トレンチ	-	P9	土器	かわらけ	6.6	-	-	293.599	内黒	中世	-
-	1トレンチ	-	P10	土器	かわらけ	-	-	-	293.636	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P11	土器	かわらけ	13.0	-	-	293.690	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P12	土器	かわらけ	-	-	-	293.593	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P13	土器	かわらけ	-	-	-	293.569	-	中世	-
83-14	1トレンチ	-	P14	陶器	香炉	-	11.6	-	293.541	-	近代	-
-	1トレンチ	-	P15	土器	かわらけ	-	-	-	293.498	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P16	土器	-	-	-	-	293.547	-	-	-
-	1トレンチ	-	P17	土器	かわらけ	10.6	-	-	293.559	焼成窯	中世	-
-	1トレンチ	-	P18	土器	かわらけ	-	-	-	293.595	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P19	土器	かわらけ	-	-	-	293.468	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P20	土器	かわらけ	8.6	-	-	293.472	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P21	土器	かわらけ	-	7.6	3.0	293.597	内黒	中世	-
83-11	1トレンチ	-	P22	土器	かわらけ	8.0	3.8	1.6	293.571	-	中世	15~16世紀
-	1トレンチ	-	P23	土器	かわらけ	-	-	-	293.640	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P24	土器	かわらけ	-	6.2	-	293.606	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P25	土器	かわらけ	-	6.0	-	293.602	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P26	土器	かわらけ	-	-	-	293.512	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P27	土器	-	21.8	-	-	293.603	-	-	-
-	1トレンチ	-	P28	土器	かわらけ	10.0	-	-	293.602	内黒	中世	-
-	1トレンチ	-	P29	土器	かわらけ	9.0	-	-	293.58	-	中世	-
83-3	1トレンチ	-	P30	土器	かわらけ	12.9	6.9	2.4	293.453	P1と接合	中世	-
-	1トレンチ	-	P31	土器	かわらけ	11.0	-	-	293.380	焼成窯	中世	-
-	1トレンチ	-	P32	土器	かわらけ	10.2	-	-	293.457	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P33	土器	-	-	-	-	293.462	-	-	-
-	1トレンチ	-	P34	土器	-	-	-	-	293.300	-	-	-
-	1トレンチ	-	P35	土器	かわらけ	10.4	-	-	293.277	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P36	土器	かわらけ	-	-	-	293.325	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P37	土器	かわらけ	-	-	-	293.347	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P38	陶器	-	-	-	-	293.362	-	近世	-
-	1トレンチ	-	P39	土器	-	-	-	-	293.518	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P40	土器	かわらけ	-	-	-	293.490	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P41	土器	かわらけ	8.0	-	-	293.373	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P42	土器	かわらけ	-	-	-	293.417	-	中世	-
83-2	1トレンチ	-	P43	土器	かわらけ	14.9	-	-	293.332	P45と接合	中世	15~16世紀
-	1トレンチ	-	P44	土器	かわらけ	12.4	-	-	293.357	-	中世	-
83-2	1トレンチ	-	P45	土器	かわらけ	14.9	-	-	293.350	P43と接合	中世	15~16世紀
-	1トレンチ	-	P46	土器	かわらけ	13.0	-	-	293.380	-	中世	-
83-9	1トレンチ	-	P47	土器	かわらけ	10.0	-	-	293.298	-	中世	15~16世紀
-	1トレンチ	-	P48	土器	かわらけ	-	-	-	293.317	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P49	碗	-	-	-	-	-	-	-	-
83-5	1トレンチ	-	P50	土器	かわらけ	10.9	-	-	293.388	-	中世	15~16世紀
83-7	1トレンチ	-	P51	土器	かわらけ	-	6.9	-	293.482	-	中世	15~16世紀
-	1トレンチ	-	P52	土器	かわらけ	-	-	-	293.325	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P53	土器	かわらけ	11.6	-	-	293.518	-	焼成窯	中世
-	1トレンチ	-	P54	碗	-	-	-	-	-	-	-	-
83-8	1トレンチ	-	P55	土器	かわらけ	-	5.7	-	293.302	-	中世	15~16世紀
-	1トレンチ	-	P56	土器	かわらけ	-	-	-	293.285	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P57	土器	かわらけ	6.0	-	-	293.333	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P58	土器	かわらけ	-	-	-	293.498	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P59	土器	かわらけ	14.0	-	-	293.404	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P60	土器	かわらけ	-	-	-	293.546	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P61	土器	かわらけ	-	-	-	293.464	-	中世	-
83-1	1トレンチ	-	P62	土器	かわらけ	14.7	-	-	293.374	P64と接合	中世	15~16世紀
83-10	1トレンチ	-	P63	土器	かわらけ	8.5	-	-	293.426	-	中世	15~16世紀
83-1	1トレンチ	-	P64	土器	かわらけ	14.7	-	-	293.400	P62と接合	中世	15~16世紀
-	1トレンチ	-	P65	碗	-	-	-	-	-	-	-	-
-	1トレンチ	-	P66	土器	かわらけ	-	-	-	293.359	内黒	中世	-
-	1トレンチ	-	P67	土器	かわらけ	10.6	-	-	293.570	-	中世	-
-	1トレンチ	-	P68	磁器	碗	11.2	-	-	293.557	-	近代	-
-	1トレンチ	-	P69	磁器	急須	-	-	-	293.420	-	近代	-
-	1トレンチ	-	P70	土器	かわらけ	16.8	-	-	293.482	-	中世	-
83-13	1トレンチ	-	P71	磁器	花瓶耳部	-	-	-	293.355	-	近世	-

発見場所	遺物名	材質	形状	寸法	測定者	測定日	測定期間	出土位置	出土層	地盤	参考文献
83-4 1トレンチ	- P72	土器	かわらけ	11.9	-	-	293.238	-	中世	15～16世紀	
- 1トレンチ	- P73	土器	かわらけ	19.6	-	-	293.251	焼成窓	中世	-	
- 1トレンチ	- P74	土器	かわらけ	12.8	-	-	293.184	焼成窓	中世	-	
- 1トレンチ	- P75	土器	かわらけ	14.0	-	-	293.328	-	中世	-	
83-12 1トレンチ	- P76	陶器	花瓶	11.0	-	-	293.068	被熱痕あり	中世	15世紀後半	
83-13 1トレンチ											
83-15 1トレンチ	- C1	金属製品	鉢	-	-	-	293.566		天皇元寶 初鎌年1023年		
83-16 1トレンチ	- W1	木製品	蓋串	13.1 11.0	1.5	-	293.012	附図2参照			

2トレンチ出土遺物

発見場所	遺物名	材質	形状	寸法	測定者	測定日	測定期間	出土位置	出土層	地盤	参考文献
- 2トレンチ	- P1	土器	かわらけ	-	-	-	293.658	青磁	-	-	
3トレンチ	- P2	土器	かわらけ	-	-	-	293.649	-	中世	-	
4トレンチ	- P3	土器	かわらけ	-	-	-	293.643	-	中世	-	
- 5トレンチ	- P4	土器	かわらけ	-	-	-	293.682	-	中世	-	

第28表 延命寺遺跡出土遺物一覧表

発見場所	遺物名	材質	形状	寸法	測定者	測定日	測定期間	出土位置	出土層	地盤	参考文献
83-17 2トレンチ	- -	磁器	碗	4.0	-	-	-	-	近代	-	
83-18 2トレンチ	- -	陶器	碗	- 5.3	-	-	-	-	近代	-	

第29表 小六科遺跡出土遺物一覧表

発見場所	遺物名	材質	形状	寸法	測定者	測定日	測定期間	出土位置	出土層	地盤	参考文献
83-19 4トレンチ	- -	磁器	碗	- 4.0	-	-	-	-	近世	-	
83-20 4トレンチ	- -	磁器	碗	-	-	-	-	-	近世	-	
83-21 4トレンチ	- -	磁器	碗	9.6	-	-	-	-	近世	-	
83-22 4トレンチ	- -	陶器	仏頭像	12.6	-	-	-	-	近世	-	

・4 レンチ（第66図）

土層堆積状況

1～3層に分層される。3層は2レンチの遺構が構築されている明赤褐色土層に対応する。2層には下層の明褐色土の粒子が含まれている。

検出された遺構・遺物

明確な遺構は存在せず、西側から東側に向かって傾斜していく地形が観察された。また、遺物としては暗褐色土層（2層）上位から、縄文時代を中心とする土器・石器が出土した。第69図3は早～前期中葉の繊維含有土器である。4は下吉井式、1・2は閑山式並行、6・8は須佐堂ZIII式である。15・16は諸磯a式である。18は甲斐型甕である。19・20は培培片である。石器としては、磨回石が2点、磨石が2点、敲石1点、黒曜石製石核3点が出土している。

・5 レンチ（第66図）

土層堆積状況

1～4層に分層される。4層は2レンチの遺構が構築されている明赤褐色土層に対応する。2層は硬化面であり、この層が使用されたと言える。2層は3層に連続するが、3層の土壤にしまりはない。

検出された遺構・遺物

明赤褐色土層直上から巨礫及び中礫が出土している。2レンチで検出された2号石列と礫の配列が似る。遺物としては、縄文時代を中心とする土器・石器が出土した。第69図21～23が早期から前期中葉にかけての繊維土器であり、第69図26は諸磯a式である。

・その他の一括遺物

金貨出土地点付近において、磨白（第70図2）を表採した。上面の受部が剥離によってなくなり、整痕を有している。第71図1～9は1レンチ第I面出土遺物であり、10・11は表採資料である。2・3は近代の遺物であるが、それ以外は全て近世の陶磁器片である。10の高台内には、焼緋を示すサインがある。

4 調査成果

今回の調査によって、大柴氏屋敷の近世段階における遺構面を確認することができた。石列や礎石状を呈する敷石状遺構など建物に伴う遺構群はレンチの北側に延びる形状を呈しており、レンチで主に確認されたのは井戸や石列など屋敷の前庭部に存在する遺構群である。このため、調査した地点は屋敷からやや離れた場所であることが分かる。また、土壘状高まりにレンチを設定し、その断面観察することによって、中世より新しい段階で土盛りされたものであるとの結果を得た。今回の調査では、中世に比定可能な面は確認され得なかった。これは、出土地点と調査地点が離れており、地盤高も異なることや、調査地点における土地利用のされ方が、中世から近世に連続的に移行したため、土壤の堆積作用がなく、中世の遺構面を更新する形で、近世段階の屋敷が構築されたためと考えられる。

（2）信虎誕生屋敷

1 調査に至る経緯

調査地点は金貨の出土地とは離れているが、調査地点の周囲には中近世の屋敷跡・屋敷跡推定地が存在しており、金貨出土地点の隣接地を調査することによって、金貨を包含した遺構面の指標が得られると捉え、発掘調査の実施を計画した。調査に先立ち、平成13年10月29日に地権者金子満郎氏・春日居町教育委員会内田裕一氏と現地にて協議を行った。その結果、果樹を伐採した箇所（1レンチを設定）及び果樹を埋めていない空間地（2レンチを設定）を掘り下げても良いとの回答を頂いた。また、出土埋蔵物の取扱いについては、遺跡の調査研究が終了した時点で協議の上対処するとした上で、平成13年11月13日付けで発掘調査承諾書を作成した。これらの事務手続きを受け平成13年12月10日から平成14年1月7日まで調査を行った。

なお、文化財保護法に基づく手続きは以下の通りである。

平成13年（2001）年12月 信虎誕生屋敷の発掘調査報告書を山梨県教育委員会教育長に提出

平成13年（2001）年12月 信虎誕生屋敷の埋蔵文化財発見通知を甲府警察所長に提出

2 調査地点の地理・歴史的環境

金貨出土地点は出土後に周囲を掘削したとのことであり、遺構の検出が困難であることから、周囲の屋敷跡を調査の対象とした。調査地点は周知の中世の埋蔵文化財包蔵地である信虎誕生屋敷内に位置しており、金貨出土地点の北側にあたる。下岩下地内の町並みは古く、『甲斐国志』の土底部の中に、原田仁兵衛・原三右衛門の名前が記されている。原田仁兵衛の屋敷推定地は金貨出土地の南側、原三右衛門の屋敷推定地は金貨出土地の北側に位置している。このことから、金貨は中世屋敷の一角から出土したことが分かる。

信虎誕生屋敷は周囲に水路を巡らせた方形の区画に立地する。周囲の道より高く、遺構面の残存が予想された。『菊蔭錄』には武田信虎の母は岩下氏と見え、この地が国人領主岩下氏の居館と考えられ、同時に信虎の誕生地とされてきた。また、『甲斐国志』では別に、「案ズルニ此處ハ跡部上野父子ノ居址ナリ」とし、寛永六年（1465）に敗死した守護代跡部氏の居館と推定している。

3 検出された遺構・遺物

・ 1 レンチ

土層堆積状況

局所的に土層の堆積状況は異なる。基本的な層序関係は中世の遺構面である暗褐色土の上に白色砂層・茶褐色土層が堆積している。レンチの北側においては暗褐色土が確認されなかつたため、部分的にレンチを設定して掘り下げたところ、多数の礫が検出されたこれらの中には遺物を含まないことから、河川の氾濫堆積によるものと考えられる。1号溝状遺構の中位北側において、溝状遺構を切るプランが確認され、この中からも多数の礫が検出された。このため、中世の遺構面が構築された後に、氾濫堆積が起きて遺構を損壊させたといえる。

出土遺物

第83図1から11は15～16世紀に比定されるかわらけである。13は花瓶片、14は瓶の把手部である。15は香炉の底部である。16は錢貨であり、銘は「天聖元寶」である。

検出された遺構（第74図）

1号土坑

（位置）西側のコーナー付近から検出された。（規模）長軸34cm、短軸28cm、深さ7cmである
（土層）覆土は白色砂層で、暗褐色土層が地山である。（遺物）なし

2・3号土坑

（位置）レンチ西側から検出された。（規模）円形の土坑（2号土坑）が長楕円形の土坑（3号土坑）を切っている。2号土坑は長軸1m10、短軸80cm、深さ20cmであり、3号土坑は長軸70cm、短軸42cm、深さ20cmを測る。
（土層）覆土は白色砂層で、暗褐色土層が地山である。

（遺物）土師質土器が2点出土している。破片資料であるため年代は明らかではない。

4号土坑

（位置）レンチ西側壁面付近から検出された。（規模）レンチの南側に続いているが、確認された範囲で長軸1m48、短軸48cm、深さ10cmで内部に1号柱穴を含む。南側が最も深くなつており、凹地に向かって緩やかに傾斜している。

（土層）覆土は白色砂層で、暗褐色土層が地山である。

（遺物）なし

5号土坑

（位置）レンチ西側から検出された。（規模）長軸1m09、短軸63cm、深さ16cmである。
（土層）覆土は白色砂層で、暗褐色土層が地山である。

（遺物）第74図中の2点の遺物はいずれも覆土上層であり遺構には伴なわない。

6号土坑

(位置) トレンチ南側から検出された。

(規模) 平面形状は不整形であり、内部に5号柱穴を含んでいる。土坑の西南端が一段低くなっている。

(土層) 覆土は白色砂層で、暗褐色土層が地山である。

(遺物) 第74図中の3点の遺物はいずれも覆土上層であり遺構には伴なわない。

7号土坑

(位置) トレンチ南側コーナー付近から検出された。

(規模) 長軸1m38、短軸1m34、深さ44cmである。

(土層) 覆土は白色砂層で、暗褐色土層が地山である。土坑の側壁には礫が不連続的に伴なっており、井戸である可能性を示している。

(遺物) なし

8・9号土坑

(位置) 1トレンチ南側の壁際から検出された。

(規模) 楕円形の土坑(8号土坑)が長楕円形の土坑(9号土坑)を切っている。8号土坑は長軸93cm、短軸73cm、深さ43cmであり、9号土坑は確認される範囲で、長軸1m13、短軸1m10、深さ10cmを測る。また、9号土坑内には7号柱穴が存在している。

(土層) 覆土は白色砂層で、暗褐色土層が地山である。

(遺物) 第74図中の8・9号土坑内の3点の遺物はいずれも覆土上層であり遺構には伴なわない。

10号土坑

(位置) 1トレンチ東側から検出された。

(規模) 左右にテラスがあり、中央が一段深くなっている。長軸1m56、短軸66cm、深さ53cmである。

(土層) 覆土は白色砂層で、暗褐色土層が地山である。

(遺物) 第74図中の2点の遺物はいずれも覆土上層であり遺構には伴なわない。

1号柱穴

(位置) 1トレンチ西側から検出された。

(規模) 長軸38cm、短軸29cm、深さ19cmである。

(土層) 覆土は白色砂層で、暗褐色土層が地山である。

(遺物) なし

2号柱穴

(位置) 1トレンチ西側から検出された。

(規模) 長軸47cm、短軸44cm、深さ34cmである。

(土層) 覆土は白色砂層で、暗褐色土層が地山である。

(遺物) なし

3号柱穴

(位置) 1トレンチ南側から検出された。

(規模) 長軸34cm、短軸30cm、深さ26cmである

(土層) 覆土は白色砂層で、暗褐色土層が地山である。

(遺物) なし

4号柱穴

(位置) 1トレンチ南側から検出された。

(規模) 長軸30cm、短軸26cm、深さ20cmである。

(土層) 覆土は白色砂層で、暗褐色土層が地山である。

(遺物) なし

5号柱穴

(位置) 1トレンチ南側から検出された。

(規模) 長軸50cm、短軸37cm、深さ40cmである。

(土層) 覆土は白色砂層で、暗褐色土層が地山である。

(遺物) 第図中の遺物は覆土上層であり、遺構には伴なわない。

6号柱穴

(位置) 1トレンチ南側から検出された。

(規模) 長軸57cm、短軸48cm、深さ38cmである。

(土層) 覆土は白色砂層で、暗褐色土層が地山である。

(遺物) なし

7号柱穴

(位置) 1トレンチ南側から検出された。

(規模) 長軸57cm、短軸40cm、深さ34cmである。

(土層) 覆土は白色砂層で、暗褐色土層が地山である。

(遺物) なし

8号柱穴

(位置) 1トレンチ東側から検出された。

(規模) 長軸70cm、短軸44cm、深さ41cmである。

(土層) 覆土は白色砂層で、暗褐色土層が地山である。

(遺物) 柱の端部が遺存していた。

溝状造構

(位置) 1トレンチ北側・東側から検出された。

(規模) 確認される範囲内で長軸7m68、短軸44cm、深さ38cmである。

(土層) 暗褐色土層が地山であり、覆土は炭化物層、褐色土層、白色砂層、暗褐色土層の順に堆積する。溝状造構の遺構面上には広範囲にわたって、炭化物層が堆積しており、瀬戸・美濃陶器片の表面は被熱を受けている。

(遺物) 第83図中の土器は覆土上位から出土している。遺構の底面直上において、第83図13が出土した。これは、15世紀後半に比定される瀬戸美濃の花瓶片である。北側からは斎串を中心とした円形の硬化面が確認されており、祭祀の場として機能したことが推察される。

遺構の性格

溝状造構内より斎串が検出されていることから、水路としての機能が想定され得るが、遺構内のレベルはほぼ平坦であるため、地割溝と捉えた方が妥当である。斎串と瀬戸・美濃陶器片は近接しているため、祭祀による一連の行為を反映しているのかもしれない。また、溝状造構が8号柱穴を切っているため、柱穴群が存在した後に溝状造構が構築されたといえる。したがって、検出された遺構全てが同時期のものではないが、細分するのは困難である。覆土に炭化物層があるが、遺構面には焼けた痕跡はない。このため、他の場所で形成された炭化物を溝状造構に廃棄している可能性がある。

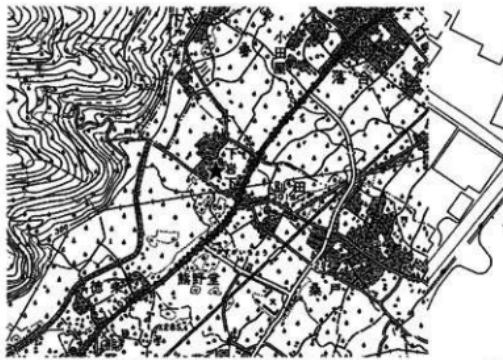
2 トレンチ

土層堆積状況

掘り下げの結果、遺構は検出されなかった。しかし、1トレンチの土層堆積状況と同じく、暗褐色土層の上に明褐色土層・茶褐色土層・白色砂層が堆積している。調査地点周囲において、遺構の遺存状況が良好であることが確認された。

4 調査成果

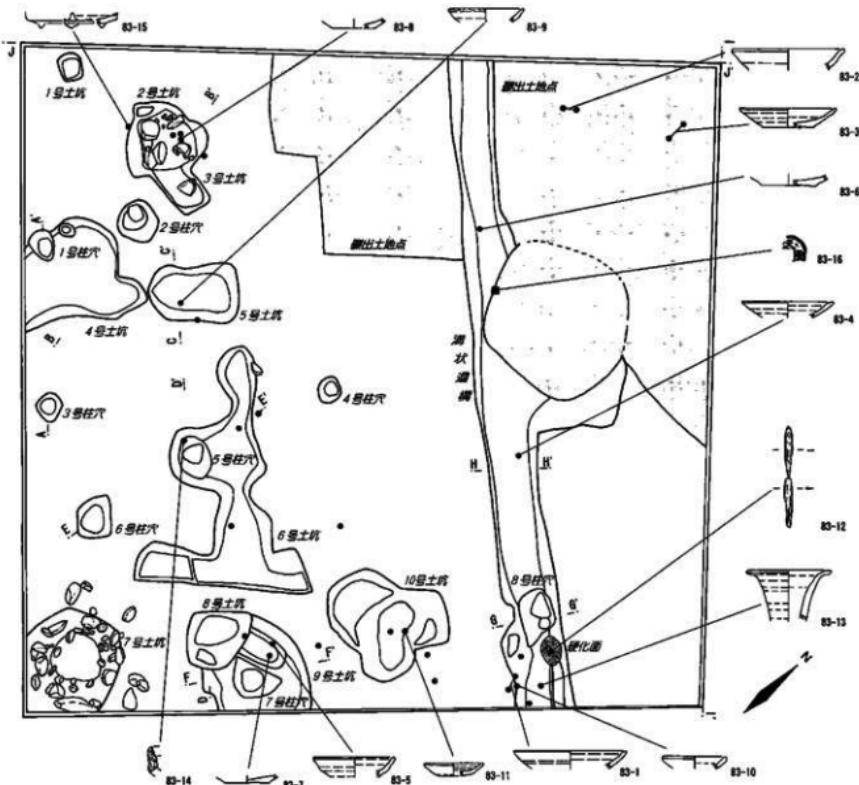
今回の発掘調査によって、15世紀から16世紀の遺構群が良好な遺存状態で検出された。この結果によって、1) 金貨出土地点においても、中世の遺構面が残存しており、今回の調査地点と堆積環境-土地利用が同様であれば、金貨出土地点の遺構面も15~16世紀である可能性が強いことや、2) 15~16世紀の信虎誕生屋敷は、地割溝によって区画された内側に柱穴群が存在すること、3) 遺構の切り合い関係から複数の時期に分化可能であることなどが分かった。今回の調査成果をもって、直接的に金貨の年代を推定することは困難であるが、金貨の年代を探るために材料が得られたといえる。また、春日居町下岩下地内における中世遺構の遺存状態が極めて良好であることなどが確認された。



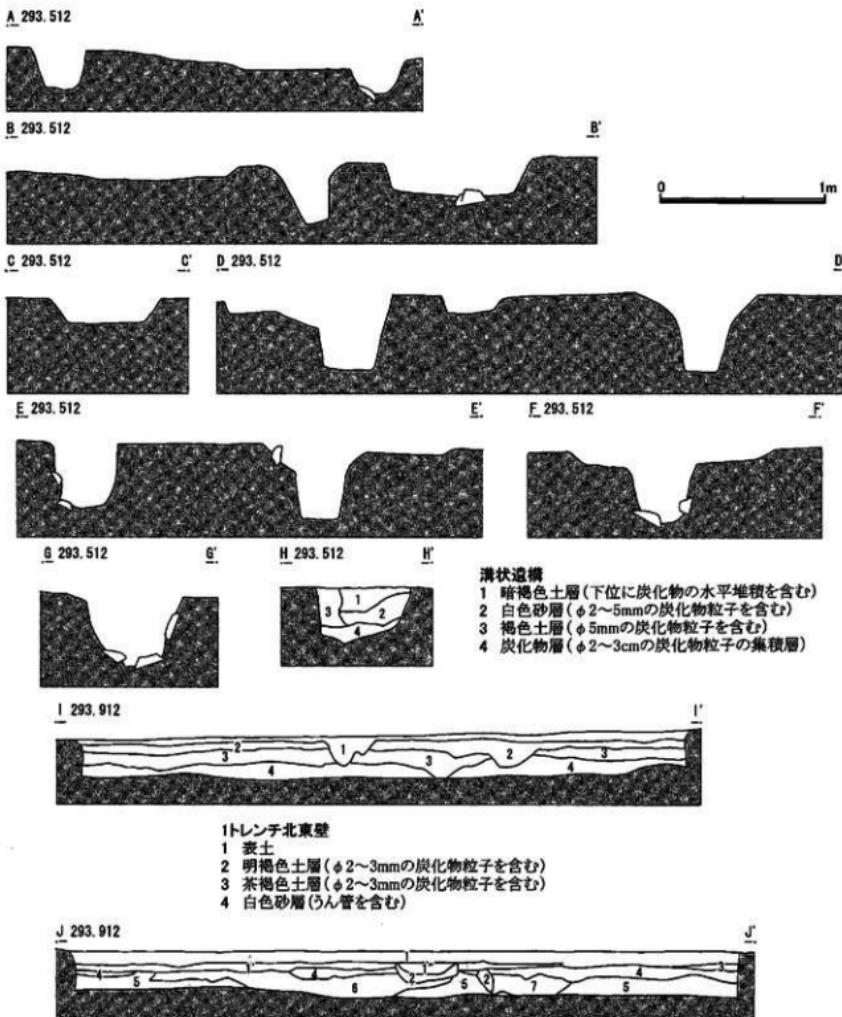
第72図 信虎誕生屋敷位置図



第73図 トレンチ設定図(1/1,000)



第74図 1トレンチ検出遺構・遺物



第75図 造構断面図・土層図

(3) 延命寺遺跡

1 調査に至る経緯

分布調査によって、延命寺遺跡からは6,000枚の銭貨が出土しており、出土地点も特定することができた。このため、平成14年11月6日に地権者小宮伊佐雄氏と現地で協議を行った。その結果、作物を植えていない場所を対象に調査を行うこと、などの条件のもとに発掘調査の許可を得た。また、出土埋蔵物の取扱いについては、遺跡の調査研究が終了した時点で協議の上対処するとした上で、平成14年11月6日付けで発掘調査承諾書を作成した。これらの事務手続きを受け平成14年11月19日から平成14年11月20日までの2日間調査を行った。

なお、文化財保護法に基づく手続きは以下の通りである。

平成14年（2002）年11月 延命寺遺跡の発掘調査報告書を山梨県教育委員会教育長に提出

平成14年（2002）年11月 延命寺遺跡の埋蔵文化財発見通知を甲府警察所長に提出

2 調査地点の地理・歴史的環境

ここでは、出土地点周囲における関連資料の評価について述べたい。出土地の南側には五ヶ堰用水が流れ、その南側には延命寺が存在したという。五ヶ堰用水は寛永年間頃に開削されたとされており、それ以前の地形は菊花山に連続する緩斜面地であったと捉えられる。延命寺の創建時期は不明であるが、1807年の駒橋図（長田一幸文書）には菊花山の麓に描かれていることから、19世紀初めの段階には存在したといえる。この絵図をみると、街道沿いの町屋から内側に入った空間地が出土地点であったことが分かる。『大月市史』によると同絵図において、出土地点東側に小山田出羽守妾婦宅跡が描かれているとのことであるが、1998年の山梨県埋蔵文化財センターの御所遺跡調査（小山田出羽守妾婦宅跡に比定される）からは土坑やピットが確認されたものの、関連する遺構は検出されなかった。また、現況として、出土地点西南側に近世の墓標が2基存在する。小宮氏の話によると、屋敷墓であるとのことであるが、元禄以降の墓標であり、中世の大量一括埋蔵銭貨とは関わりがない。

3 検出された遺構と遺物

・ 1トレント

土層堆積状況

表土一明褐色土層の順に堆積しており、土壤が非常に堅く均質である。住居状遺構・柱穴1・柱穴2の覆土は暗褐色土である。セクション中の擾乱層は穂を多く含んでおり、畑を耕作していた段階のものである。遺構面覆土から近世の磁器片（第83図18）が出土している。

検出された遺構

銭貨埋蔵遺構

（位置）1トレントの中央南側より検出された。

（規模）北側を地権者の小宮氏が掘り込んだ際の土坑に切られており、西側と南側が残存している。

残存している土坑形状から30cm×30cmの方形を呈していることが分かるが、これは小宮氏の話と一致している。底面は播鉢状を呈しているが、これは小宮氏が掘り込んだ際の土坑に切られており、元の形状を残していない。

（土層）遺構には、表土が覆土として充填されていた。

（時期）1975（昭和49）年に出土した銭貨の最新銭から15世紀第3～4四半世紀（鈴木案）ないしは、15世紀第2四半世紀（永井案）に構築されたと推定される。

（遺物）なし

遺構の性格

銭貨を埋める遺構であり、深さが20cmあることから縁錢を数段重ねて埋めたと推定できる。

住居状遺構

（位置）1トレントの北西コーナーより検出された。

（規模）遺構が北側及び西側に伸びているため、全体の把握はできないが、確認された範囲で1m \times 90cmを測る。底面南よりにピットを有する。ピットは20cm×19cm、深さ20cmである。

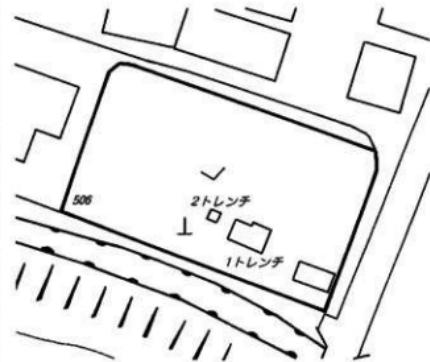
（土層）遺構の覆土は暗褐色土である。

（時期）伴出遺物から縄文時代と捉えられる。

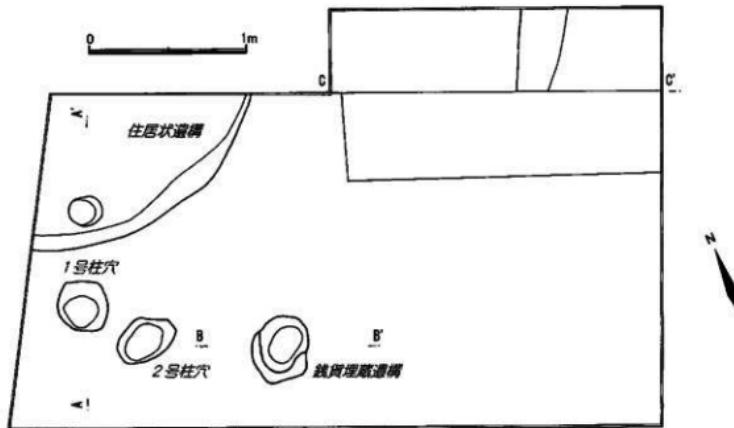
（遺物）縄文時代の剥片が1点出土した。



第76図 延命寺遺跡位置図



第77図 トレンチ設定図(1/500)



A 363.540



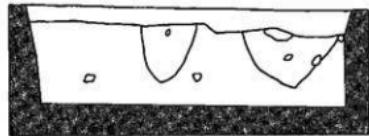
A'

B 363.740



B'

C 363.940



C'

0 1m

2トレンチ

1 表土

2 暗褐色土層(Φ2~3cmの礫を含む)

3 明褐色土層(Φ1~5mmの茶褐色粒子・Φ2~5cmの礫を含む)

第78図 1トレンチ検出遺構

遺構の性格

遺構の全容を検出し得たのではないが、縄文時代の竪穴住居ないしは関連遺構であると捉えられる。

1号柱穴

(位置) 1トレンチ西側、住居状遺構南側に位置する。 (規模) 34cm×30cm、深さは28cmである。

(土層) 遺構の覆土は、暗褐色土層である。 (遺物) なし

2号柱穴

(位置) 1トレンチ西側、住居状遺構南側に位置する。 (規模) 37cm×25cm、深さは22cmである。

(土層) 遺構の覆土は、暗褐色土層である。 (遺物) なし

・2トレンチ 土層堆積状況

表土(層厚約15cm)一明褐色土層の順に堆積している。1トレンチと同じく、畑を耕作していた段階の擾乱層が検出されたものの、遺構・遺物は検出されなかった。近代の磁器片(第83図17)が出土している。

4 調査成果

今回の発掘調査によって中世における錢貨埋蔵遺構の確認調査を行うことができた。錢貨埋蔵遺構は30×30cmの方形を呈しており、企画性をもった平面プランを持つ土坑に埋められたことが明らかになった。しかし、錢貨埋蔵遺構の周囲に遺構は存在せず、トレンチの掘り下げに伴って中世の陶器片は出土しなかったため、年代的な追認を行うことはできない。近世段階において出土地点周囲に遺構はうかがわれず、今回の調査においても、中世の遺構は確認されなかつたことから、周囲に遺構を伴なわず、単独で埋めたことが想定される。

(4) 小六科遺跡

1 調査に至る経緯

調査に先立ち、平成14年10月11日に地権者小野英雄氏・白根町教育委員会保坂敏子氏と現地で協議を行った。その結果、1) 現状で植えている立木を避けて掘削すること、2) 地権者所有地中央には埋設水道管があるため避けること、などの条件のもとに発掘調査の許可を得た。また、出土埋蔵物の取扱いについては、遺跡の調査研究が終了した時点で協議の上対処するとした上で、平成14年10月16日付けで発掘調査承諾書を作成した。これらの事務手続きを受け平成14年10月22日から平成14年10月24日までの3日間調査を行った。

なお、文化財保護法に基づく手続きは以下の通りである。

平成14年(2002)年10月 小六科遺跡の発掘調査報告を山梨県教育委員会教育長に提出

平成14年(2002)年10月 小六科遺跡の埋蔵文化財発見通知を甲府警察署長に提出

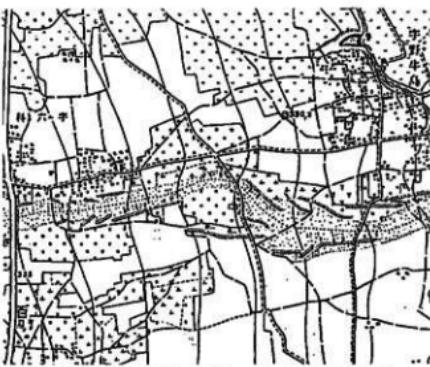
2 調査地点の地理・歴史的環境

ここでは、中世以降の土地利用の変遷について概説したい。「白根町史」によると出土地点周辺には近世段階において集落があったが、文化年間に移転したという。集落が移った要因としては、前御勤使川の流路になったことが挙げられる。出土地点は、錢貨所有者である市川孝氏の旧屋敷跡であり、市川氏の屋敷も文化年に移ったという。明治43年改版の大日本帝国陸地測量部が作成した地図を見ると果樹園となっている。中世の状況に係る資料はないが、近世段階で居住域から生産域へ土地利用が転換したことが分かる。

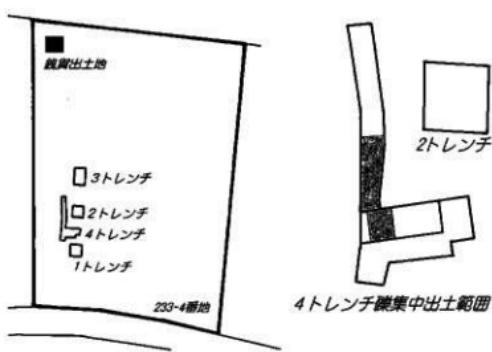
小野英雄氏所有の南アルプス市小六科233-4における錢貨の出土地点は北西コーナー近くである。小野氏の話によると錢貨出土地点の近くには屋敷神が祭られていたが約40年前に撤去したという。この屋敷神は南側を向いており、その前には1対のネズミサシの木が埋められていたとのことである。現状では果樹が植えられていたため、出土地点を調査することはできなかつたが、所有地全体の地形を観察すると錢貨出土地点を含めた西側が微高地状を呈しているため、ここに1~3トレンチを設定した。



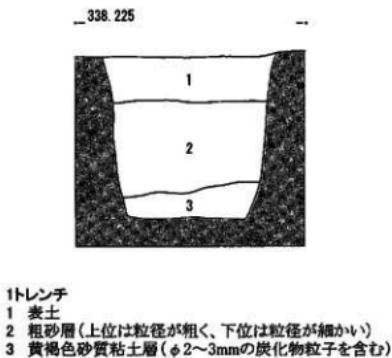
第79図 小六科遺跡位置図



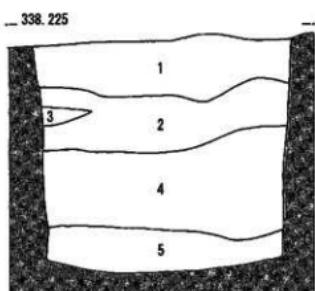
第80図 明治26年段階の小六科遺跡周辺
(大日本帝国陸地測量部作成)



第81図 レンチ設定図(1/500)



- 2トレンチ
- 1 表土
 - 2 黄褐色粘土層(ϕ 2~3cmの礫を含む)
 - 3 灰褐色土層(ϕ 2~5cmの礫・近世陶磁器片を含む)
 - 4 黄褐色粘土層
 - 5 粗砂層(ϕ 2~3cmの礫を含む)
 - 6 黄褐色粘土層(ϕ 2~3mmの炭化物粒子・うん管を含む)



第82図 土層図

3 検出された遺構と遺物

1 トレンチ

(土層) 1～3層に分層される。前御勅使川の洪水堆積層（2層）を厚く含む。

(遺物) なし

2 トレンチ

(土層) 1～6層に分層される。1トレンチに比しより低い位置で前御勅使川の洪水堆積層（5層）が確認された。

(遺物) なし

3 トレンチ

(土層) 1～5層に分層される。2トレンチとほぼ同じレベルで前御勅使川の洪水堆積層（4層）が確認された。

(遺物) なし

4 トレンチ

2トレンチにおいて、他のトレンチにおいて検出されなかった灰褐色土層（3層）が確認されたため、新規に1～2トレンチ間にトレンチを設定した。これが4トレンチである。掘り下げを行ったところ、2トレンチの灰褐色土層（3層）に比定される層の上面において礫が不定形に集中した。この中に近世の陶磁器片が確認されたため、範囲確認を行ったところ、第図の様に広がりることが分かった。礫集中の断ち割りを行ったところ、灰褐色土層と礫集中が互層状になることが確認された。詳細は以下の通りである。

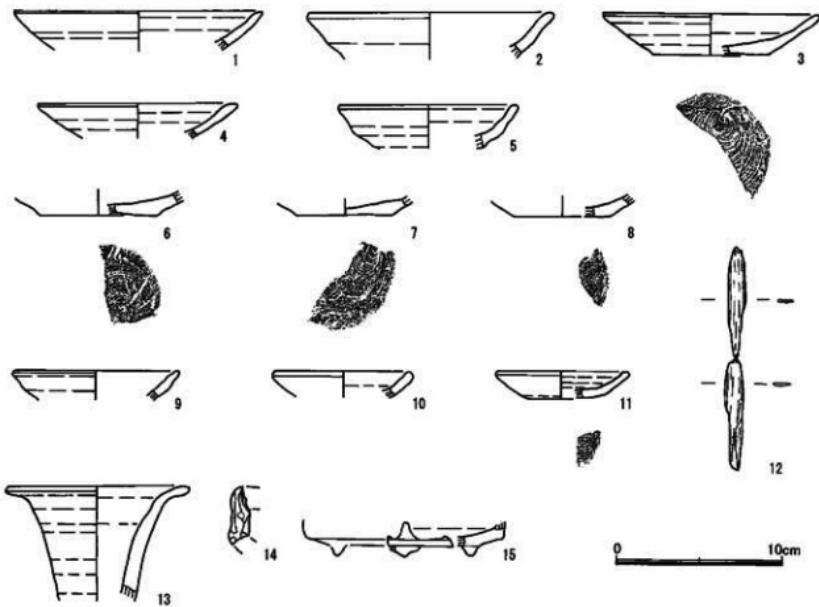
(土層) 上から表土－黄褐色粘土層－礫集中－灰褐色土層－礫集中の順に堆積する。1層目の礫集中の層厚は約10cm程度である。礫の並びはランダムであり、遺物の出土レベルも一定ではない。

(遺物) 近世陶磁器片が確認された。礫の間に混入する形で出土しており、意図をもった出土状況ではない。第83図19～20は磁器、22は陶器である。

4 調査成果

掘り下げにより確認された面がどの時代に対応するのかについて考察する必要がある。トレンチを掘り下した結果、1トレンチ3層・2トレンチ6層・3トレンチ5層は砂質であり、色調や炭化物粒子を含んでいる点で同一であることから、対応する面であると解釈される。調査地点南側に位置している百々遺跡の発掘調査においては、平安時代の遺構面より下に、炭化物粒子を伴う黄褐色土層が検出されている。この層は弥生時代・古墳時代の遺物の包含層であることから、1トレンチ3層・2トレンチ6層・3トレンチ5層を精査したが、遺構・遺物は確認されなかつた。調査地点西側において、当埋蔵文化財センターが甲西バイパス建設に伴い試掘調査を行ったところ、この面に比定される土層が確認されている。この試掘調査の際にも遺構・遺物は確認されなかつたとのことである。このため、黄褐色粘土・砂質粘土層の年代的な位置付けをする材料は乏しいが、百々遺跡の発掘調査から古墳時代から弥生時代と仮定したい。

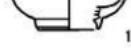
江戸時代に比定される面は3層であるため、中世の面は粗砂層となる。このため、部分的に前御勅使川の氾濫を受け、錢貨が埋められた場所は残存したものの、他の遺構面（今回の調査地点）は削平された、という可能性を想定することができる。



信虎誕生屋敷 1トレンチ出土遺物

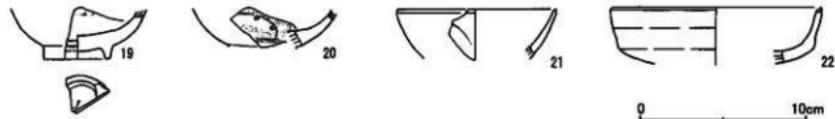


0 5cm



0 10cm

延命寺遺跡出土遺物



0 10cm

小六科遺跡出土遺物

第83図 信虎誕生屋敷・延命寺遺跡・小六科遺跡出土遺物

第V章 調査の成果と課題

今回の調査によって、12ヶ所の大量一括埋蔵銭貨出土事例・5ヶ所の一括銭貨出土事例・3ヶ所の金貨出土事例（これらの数字は新聞掲載事例を除く）が集成された。この章では出土事例における中世段階の環境を整理し、次いで年代と分布論を扱いたい。（年代については、最新銭による年代決定が可能な大量一括埋蔵銭貨出土事例を対象とする）また、出土遺構の巨視的・微視的な環境を推定し得る資料についてはその性格について扱いたい。

第1節 出土事例における中世段階の様相

大量一括埋蔵銭貨・一括埋蔵銭貨・金貨が出土した地点における中世段階の環境を推定する際に、3つの視点を設定した。3つの視点とは、1) 出土地点及びその周囲における他の包蔵地との関係、2) 出土遺構とその周囲の遺構との位置関係、3) 銭貨の出土状況である。これらの項目ごとに出土事例を整理したのが、第30表である。

出土地点の周囲における包蔵地との関係や中近世における出土地点の概況が明らかな事例は、以下の通りである。大量一括埋蔵銭貨出土事例としては、長坂町大八田（小和田遺跡）は、国人領主の館と推定される小和田館跡の東に展開する集落であり、南部町万沢（御屋敷遺跡）は、万沢氏の館跡の付近から出土した。両者共に中世の包蔵地との位置関係は明らかである。一方、中世まで遡るかどうか不明であるが、南アルプス市小六科・上野原町桐原は近世段階の屋敷内から出土した。同じく大月市駒橋は1807年の絵図には、街道や街道に伴う町屋と寺院の間の空間地として描かれている。一括埋蔵銭貨出土事例としては、明野村深山田遺跡は寺院跡、一宮町北堀遺跡は土坑墓・溝状遺構などが確認された遺跡内、南アルプス市大師東丹保遺跡は水田などの生産域を含む集落内から確認された。

金貨出土事例としては、高根町村山西割は中世の土豪屋敷の一郭から出土し、春日居町下岩下は「甲斐国志」土庶部にある原田仁兵衛屋敷の周囲から検出された。新聞掲載事例の八代町奈良原は康応年間に開山した寺院、甲府市古市場は創建不詳の寺院跡地から出土したことである。

出土遺構とその周囲の遺構との位置関係としては、以下の通りである。大量一括埋蔵銭貨出土事例としては、長坂町大八田（小和田遺跡）は出土地北側の居住区と南側の墓域の境界に位置しており、3つの出土地点が一定の間隔を空けた状態で出土している。大月市駒橋は遺構が単独で検出されており、周囲に中世遺構はない。しかし、調査面積が狭小であったことを考慮する必要がある。一括埋蔵銭貨出土事例としては、明野村深山田遺跡は掘立柱建物や溝状遺構を切って土坑が構築されており、錢貨が埋められた土坑は東側の土坑に切られている。一宮町北堀遺跡の出土遺構は土坑墓・溝状遺構と離れた地点に位置している。一括埋蔵銭貨出土事例としては、南アルプス市大師東丹保遺跡は掘立柱建物を含む居住空間と溝状遺構を挟んで15m程の地点にある。金貨出土事例としては、勝沼町上岩崎は出土地点の周囲に石列遺構が存在する。

錢貨の出土状況としては、以下の通りである。大量一括埋蔵銭貨出土事例としては、境川村石橋・長坂町大八田（小和田遺跡）第3地点・高根町村山西割は壺、上野原町桐原は壺に収められた状況で出土した。上野原町桐原と大泉谷戸はそれぞれ錢貨を収めた壺・錢貨が石で遮蔽されていた。出土事例の多くは、繩錢の状態で検出されている。特に長坂町大八田（小和田遺跡）の第3地点では貫縄・百文縄が壺に収められた状態で出土した。塙山市千野鳥居原・一宮町竹原田・大月市駒橋では繩錢が列状に数段積み重ねられた状態で出土しており、貫縄・百文縄であつた可能性を示唆している。長坂町大八田（小和田遺跡）の第1・2地点においても、錢貨は数枚付着した状態で見つかっていることから、幾つかの単位に分けられていたと考える方が妥当である。明野村深山田遺跡・一宮町北堀遺跡は、容器に収められていました錢貨が抜き取られた状態と推察される。一括埋蔵銭貨出土事例としては、南アルプス市大師東丹保遺跡では、ピットの底面から錢貨が検出されている。遺構の共伴遺物に壺串があるが、錢貨との関係は不明である。また、新聞掲載事例の八代町奈良原は壺、高根町五町田は壺、白州町白須は土器に収められていたという。

第2節 年代と分布

(1) 年代

大量一括埋蔵銭貨の年代論については、鈴木公雄・永井久美男氏による論考がある。両者の年代観は特に第6期以降の取扱いの点で大きく異なっている。このため、最新銭の年代的評価に差異が生じているが、ここでは2つの年代観を併記したい。

第30表 事例のまとめ

大量一括埋蔵鉄貨出土事例

No.	出土地点	出土時	現状	出土地の性格	遺構の配置	出土状況	
1	塩山市千野島居原	人家の一郭	人家の一郭	△	—	?	—
2	勝沼町上岩崎	葡萄畑	葡萄畑	△	—	?	—
3	一宮町竹原田	桃畑	葡萄畑	△	—	?	—
4	一宮町市之藏	人家	人家	△	—	?	—
5	境川村石橋	人家	人家	△	—	?	—
6	南アルプス市小六科	果樹園	果樹園	△	屋敷跡?	?	—
7	長坂町大八田(小和田遺跡)	調査	調査	○	集落遺跡	○	居住区と墓域の境界?
8	長坂町大八田(渋田遺跡)	畑地	畑地	△	散布地内	?	—
9	南部町万沢(御屋敷遺跡)	畑地	畑地	○	屋敷跡付近から出土	?	—
10	上野原町樺原	人家	人家	△	烽火台下	?	—
11	富士吉田市上暮地(殿ノ入遺跡)	?	工場	△	—	?	—
12	大月市駒橋	畑地	畑地	○	街道と寺の間の空間地?	○	遺構が単独で出土

新聞掲載事例

No.	出土地点	出土時	現状	出土地の性格	遺構の配置	出土状況	
1	塩山市小屋敷	神社境内	?	△	—	?	—
2	八代町奈良原	寺院境内	△	寺院跡	?	—	?
3	中道町七覚	山林	山林	△	—	?	—
4	甲府市大里町古市場	竹藪	?	△	寺院跡?	?	—
5	高根町五町田	人家	人家	△	—	?	—

一括埋蔵鉄貨出土事例

No.	出土地点	出土時	現状	出土地の性格	遺構の配置	出土状況	
1	一宮町石	葡萄畑	葡萄畑	△	—	?	—
2	大泉村谷戸	畑地	畑地	△	—	?	—
3	明野村小笠原(深山田遺跡)	調査	調査	○	寺院跡	○	2つの土坑が切り合っている
4	一宮町塙田(北堀遺跡)	調査	調査	○	集落遺跡	○	遺構群とは離れている。
5	南アルプス町大師(大師東丹保遺跡)	調査	調査	○	集落遺跡	○	建物跡と15m程離れる

新聞掲載事例

No.	出土地点	出土時	現状	出土地の性格	遺構の配置	出土状況	
1	白州町白須	畑地	田	△	—	?	—

金貨出土事例							
No.	出土地点	出土時	現状	出土地の性格	遺構の配置	出土状況	
1	春日居町下岩下	畠地	桃畠	○ 屋敷跡?	? -	? -	
2	高根町村山西割	人家	人家	○ 屋敷跡	? -	○	壺の中に収められた 状態で出土
3	勝沼町上岩崎	葡萄畠	葡萄畠	△ -	○ 石列遺構に近 接	?	遺構面直上から出 土?

新聞掲載事例							
No.	出土地点	出土時	現状	出土地の性格	遺構の配置	出土状況	
1	甲府市古府中町御馬 屋小路	?	人家	△ 田畠	? -	?	-

第31表 大量一括埋蔵錢貨の時期比定

	鈴木案	永井案	出土地
第1期	13世紀第4四半紀 14世紀第1四半紀	13世紀第2四半紀 14世紀第1四半紀	
第2期	14世紀第2四半紀 14世紀第3四半紀	14世紀第1四半紀 14世紀第3四半紀	
第3期	14世紀第4四半紀 15世紀第1四半紀	14世紀第3四半紀 15世紀第1四半紀	
第4期	15世紀第2四半紀 15世紀第3四半紀	15世紀第1四半紀	一宮町竹原田 長坂町大八田（小和田遺跡） 長坂町大八田（渋田遺跡） 南部町万沢
第5期	15世紀第3四半紀 15世紀第4四半紀	15世紀第2四半紀	大月市駒橋
第6期	15世紀第4四半紀 16世紀第2四半紀	15世紀第2四半紀 16世紀第3四半紀	勝沼町上岩崎 南アルプス市小六科
第7期	16世紀第3四半紀	15世紀第3四半紀 16世紀第3四半紀	塩山市千野鳥居原 一宮町市之藏 境川村石橋
第8期	16世紀第4四半紀	16世紀第1四半紀 16世紀第3四半紀	富士吉田市上暮地（殿ノ入遺跡）

山梨県の事例では、第4期の4事例が確認されている。中でも、長坂町大八田（小和田遺跡）は発掘・整理作業を通して、遺構の状況・錢種構成などが確認されている。出土錢貨総枚数を比較すると、一宮町竹原田は2,400枚・長坂町大八田（小和田遺跡）は第1地点が1,098枚、第2地点が2,400枚、第3地点が2,802枚・長坂町大八田（渋田遺跡）が2,979枚・南部町万沢が67枚である。この内、南部町万沢は散逸が著しく、一宮町竹原田も資料の散逸が認められるため、長坂町大八田（小和田遺跡）が遺存状況が良い事例といえる。最新錢による時期区分によると、鈴木氏案では15世紀第2四半紀から第3四半紀、鈴木氏案では15世紀第1四半紀と捉えられる。

第5期は大月市駒橋の事例である。出土錢貨総枚数は6,307枚である。保管者の話によると、若干の散逸があるという。埋められた時期は、鈴木氏案では15世紀第3～第4四半紀、永井氏案では15世紀第2四半紀に比定される。

第6期は勝沼町上岩崎・南アルプス市小六科の事例である。出土錢貨総枚数は、勝沼町上岩崎は2,639枚・南アルプス市小六科は1,526枚である。両者共に、散逸が著しいという。鈴木氏案では15世紀第4四半紀～16世紀第2四半紀、永井氏案では15世紀第2四半紀に比定される。

第7期は塩山市千野鳥居原・一宮町市之藏・境川村石橋である。出土錢貨総枚数を比較すると、塩山市千野鳥居原が9,370枚・一宮町市之藏が不明・境川村石橋が1,942枚である。境川村石橋は若干の散逸がある。鈴木氏案では16世紀第3四半紀、永井氏案では15世紀第3四半紀～16世紀第3四半紀に比定される。

第8期は富士吉田市上墓地（殿ノ入遺跡）である。出土錢貨総枚数は5,014枚である。鈴木氏案では16世紀第4四半紀、永井氏案では16世紀第1～第3四半紀に比定される。

調査で確認された範囲では、1) 第4期に出現し、第8期まで連続すること、2) 第4期の出土事例が最も多い（長坂町小和田遺物からは3ヶ所で出土しており、出土地点で数えると6例となることが分かった。

（2）分布

大量一括埋蔵錢貨出土事例はほぼ全県的に出土しているといえるが、全体的な傾向として、盆地東南端に分布することが挙げられる。いずれの事例も中世の包蔵地内または近接した位置にあるが、北巨摩・東八代・東山梨は中世集落が明確に存在する地点に位置するものが多いに対し、郡内の事例は、集落と隣合わせの地点ではあるが、空間地であることが多い。また、北巨摩の3事例は非常に近接した地域（長坂町大八田・高根町五町田）において集中的に出土している。一括埋蔵錢貨出土事例は北巨摩・東八代・中巨摩に、金貨出土事例は高根町・勝沼町・春日居町・甲府市（近世か？）で確認されている。

第3節 事例の性格

出土事例の性格については、備蓄行為とする埋蔵錢説や祭祀行為とする埋納錢説という2説が提唱されているが、性格の認定要素についての議論が同一の俎上にないことから、解釈論に陥っている感がある。また、例えば福知山城から出土した埋蔵錢貨の様に、明白に埋納行為と指摘し得る事例は議論の余地はないが、多くの出土事例は出土時の状況について記録されていないことから、常にどちらとも解釈し得る要素を含んでいる。そこでここでは、両義的に解釈し得る事例についての判断を留保し、出土状況の記録保存措置がとられている事例についての性格についてふれたい。

出土地点の微視的・巨視的な環境を把握可能な事例として長坂町大八田（小和田遺跡）が挙げられる。長坂町大八田（小和田遺跡）は事例報告で述べた通り、性格の異なる遺構群の境界から出土している。この点から、「ケガレの浄化」という機能を持つ埋納錢であるとの指摘を受けているが、この解釈の検討には、遺構群の時期決定や出土遺構と同一時期に比定される遺構の把握などの作業が求められることから、基礎データの整備が待たれる。

第4節まとめ

本章では、出土事例の中世段階の様相について資料の基礎整理をし、年代論・分布論的な視点から問題点を抽出し、併せて事例の性格について扱った。しかし、1) 個々の事例についての厳密な資料批判の実施、2) 錢貨が埋蔵された時代背景を踏まえた評価付けなどは必ずしも十分に行えなかつたことが、本章の問題点として挙げられる。上記の問題点を踏まえた議論の展開については別稿の中で行いたい。

附編 I

大月市駒橋出土銭貨の微小部蛍光X線分析

小林克次・網倉邦生

1.はじめに

成分分析により精銭・模鋳銭の判別を行うことは有効な手段の一つであるが知られている（鳴谷 1997）。出土銭貨の分析は、これまで多くの分析例があるが（佐々木 1997など）、民間鑄造銭の一つである「島銭」については、これまで分析例がほとんどない。そこで、島銭の製造や流通の問題についての情報得るためにも、成分分析が不可欠であると考えられる。埋蔵銭貨出土遺跡詳細分布調査においても、島銭が一点出土したので、この分析を行った。比較対象資料として、精銭（永楽通宝）と模鋳銭の成分分析も行った。

2.分析方法

2-1. 分析資料：対象とした資料は、大月市駒橋出土銭貨50点である。内訳は、島銭1点、精銭（永楽通宝）30点、模鋳銭（永楽通宝4点、元豊通宝4点、銭種不明11点）19点である。本銭と模鋳銭の判別は、肉眼鑑別によった。鑑別は、銭貨をにした状態で行い、他の銭貨に比べて最大長が小さく、かつ最大厚が小さいものを模鋳銭と認定した。

2-2. 分析方法：非破壊分析の手法の一つである微小部蛍光X線分析装置を用い、出土銭貨の成分分析を行った。使用した装置はセイコーアンスツルメンツ社製マイクロエレメントモニタSEA-5200（Mo X線管球、Si（Li）半導体検出器）である。出土銭貨の分析においては、通常鋸を除去して分析が行われるが（注1）、微小部（直径100μm）を測定できる装置を用いることにより、クリーニングなどで金属部が露出した箇所を測定することが可能となり、資料を損なうことなく分析が可能である。分析条件は、照射径100μm、X線管電圧50kV、X線管電流自動設定、測定時間200秒、大気雰囲気である。元素は銅（Cu）・スズ（Sn）・鉛（Pb）を同定し、ファンデムタルパラメーター法（標準試料なし）で定量を行った。測定点は、腐食部を避け、クリーニング等により金属部分が露出している箇所を選び、一資料につき三点を測定した。

3.分析結果および考察

第32表に、出土銭貨の蛍光X線分析結果を示した。島銭は、少量の鉛を含むが、ほとんどが銅であることが分かった。精銭は、全ての資料が、スズと鉛を含んでいることが明らかとなった。また、模鋳銭は、島銭と同様に、素材がほぼ銅のものと、精銭のように一定量のスズと鉛を含んでいるものとに分かれた。模鋳銭の前者を模鋳銭（A）、後者を模鋳銭（B）として、各資料別のスズ含有量の平均と標準偏差を第32表に、鉛について第32表に示した。

第32図に、第32表のデータを元にして、銭種別のスズと鉛の含有量をそれぞれX、Y軸にとったグラフを示した。スズ・鉛を一定量含む資料では、本銭は比較的まとまった組成範囲に収まつたが、模鋳銭は、それに比べるとばらつく傾向にあった。また、模鋳銭でも銭種が判明しているものでは、永楽通宝は4点とも、模鋳銭（A）の組成になり、元豊通宝4点中、2点が模鋳銭（A）、もう2点が模鋳銭（B）の組成となった。模鋳銭（B）の組成の元豊通宝は非常に似通った組成を示した。

島銭は、全くスズを含まず、鉛も少量しか含有されていなかった。成分の傾向としては、模鋳銭と同じである。島銭は、近年の説では、日本製説が有力である（齋藤 努ほか 1998）が、本研究の結果において、模鋳銭と同様な成分組成を示したことから、それに合致する結果が得られたと考えている。

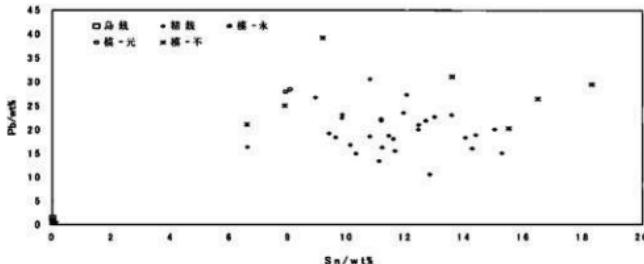
模鋳銭を成分組成で見ると、模鋳銭（A）と模鋳銭（B）が見いだされた。模鋳銭と精銭の判別を肉眼により行っているので、判別ミスなのか、精銭と同様な組成を持つものがあるのか、両方の可能性が考えられる。また、模鋳銭（B）の中でも、スズが10%以下のものと14%以上のものとに分けることができ、精銭はほぼその中間の組成にある。この傾向についても、模鋳銭の組成の傾向を表しているのか、精銭との判別に問題があるのか、まだ判断ができず、今後の分析例の蓄積が課題である。

第32表 出土銭貨の蛍光X線分析結果（3回測定の平均値）

		Sn	Pb					
鳥銭		98.6	0.0	1.4	■	判別不能	98.7	0.0
精銭 - 1	永楽通宝	71.3	9.4	19.3	●	判別不能	56.3	13.6
精銭 - 2	永楽通宝	67.7	9.8	22.5	●	判別不能	57.0	16.5
精銭 - 3	永楽通宝	67.5	12.4	20.1	●	判別不能	64.2	15.5
精銭 - 4	永楽通宝	74.7	10.3	15.0	●	判別不能	51.6	9.2
精銭 - 5	永楽通宝	70.3	11.6	18.1	●	判別不能	99.4	0.0
精銭 - 6	永楽通宝	64.3	13.0	22.7	●	判別不能	67.0	7.9
精銭 - 7	永楽通宝	67.0	9.8	23.2	●	判別不能	99.6	0.1
精銭 - 8	永楽通宝	76.6	12.8	10.6	●	判別不能	52.2	18.3
精銭 - 9	永楽通宝	67.6	14.0	18.4	●	判別不能	72.3	6.6
精銭 - 10	永楽通宝	75.5	11.1	13.4	●	判別不能	98.6	0.0
精銭 - 11	永楽通宝	64.3	8.9	26.8	●	判別不能	98.9	0.0
精銭 - 12	永楽通宝	64.9	15.0	20.1	●	判別不能	98.7	0.9
精銭 - 13	永楽通宝	69.7	14.3	16.1	●	判別不能	99.3	0.0
精銭 - 14	永楽通宝	60.6	12.0	27.3	●	判別不能	99.5	0.0
精銭 - 15	永楽通宝	77.0	6.6	16.4	●	判別不能	99.6	0.0
精銭 - 16	永楽通宝	73.0	10.1	16.8	●	判別不能	64.2	7.9
精銭 - 17	永楽通宝	66.5	11.2	22.3	●	判別不能	63.5	8.0
精銭 - 18	永楽通宝	64.5	11.9	23.5	●	判別不能	99.0	0.0
精銭 - 19	永楽通宝	66.7	14.4	18.9	●	判別不能	99.6	0.0
精銭 - 20	永楽通宝	65.4	12.7	21.9	●	判別不能	99.6	0.0
精銭 - 21	永楽通宝	69.6	15.3	15.1	●	判別不能	99.6	0.0
精銭 - 22	永楽通宝	66.5	12.5	21.0	●	判別不能	64.2	7.9
精銭 - 23	永楽通宝	58.6	10.8	30.6	●	判別不能	63.5	8.0
精銭 - 24	永楽通宝	69.8	11.4	18.8	●	判別不能	99.0	0.0
精銭 - 25	永楽通宝	72.5	11.2	16.3	●	判別不能	99.6	0.0
精銭 - 26	永楽通宝	72.8	11.6	15.6	●	判別不能	99.6	0.0
精銭 - 27	永楽通宝	66.9	11.2	21.9	●	判別不能	99.6	0.0
精銭 - 28	永楽通宝	70.6	10.8	18.6	●	判別不能	64.2	7.9
精銭 - 29	永楽通宝	72.0	9.6	18.4	●	判別不能	63.5	8.0
精銭 - 30	永楽通宝	63.3	13.6	23.1	●	判別不能	99.6	0.0

第33表 各資料別のズス (Sn) 濃度平均値	
資料別数	1 30 11 8
濃度平均値	1.4 19.7 0.5 24.6
標準偏差	0.5 6.6 0.5 6.4

第34表 各資料別の鉛 (Pb) 濃度平均値	
資料別数	1 30 11 8
濃度平均値	0.0 11.7 0.1 12.1
標準偏差	0.0 2.4 0.2 5.5



第84図 出土銭貨の蛍光X線分析結果

注1：鋳の部分を分析すると、地金とは異なる成分になることが多い、通常は除去して分析を行う。

参考文献

- 中川 近禮 1995 東京古泉会報告第2号
 佐々木 稔 1997 出土銭貨 No. 7
 鳩谷 和彦 1997 帝京大学山梨文化財研究所研究報告集第8集
 斎藤 努ほか 1998 金融研究

附編Ⅱ

信虎誕生屋敷から出土した木材の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

信虎誕生屋敷は、兜山南東麓に位置する中世の豪族、岩下氏の居館とされている。発掘調査により、15～16世紀のかわらけと共に溝状遺構・柱穴などが検出され、柱材、斎串等の木製品が出土している。

本報告では、出土した木製品の樹種同定を行い、木材利用に関する資料を得る。

1. 試料

試料は、出土した木材3点（資料1～3）である。資料1は柱材、資料2は斎串、資料3は器種不明の加工痕のある木製品である。

2. 方法

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

3. 結果

樹種同定結果を表1に示す。木製品は、針葉樹1種類（マツ属複維管束亞属）と広葉樹1種類（クリ）に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

・マツ属複維管束亞属 (*Pinus* subgen. *Diploxylon*) マツ科

試料には年輪界が観察できなかった。軸方向組織は仮道管と樹脂道で構成される。放射組織は、柔細胞と仮道管が認められる。放射柔細胞の分野壁孔は窓状となり、放射仮道管内壁には鈍歯状の突出が認められる。放射組織は単列、1～15細胞高。本来は、水平樹脂道を有すると考えられるが、観察した範囲では認められなかった。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圈部は1～4列、孔圈外で急激へやや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

4. 考察

柱と木製品は、落葉広葉樹のクリであった。クリは、重硬で強度や耐朽性が高く、狂いや割れも少ないので（平井、1980；農商務省山林局、1912）。この材質から、柱材としては適材と考えられる。木製品についても同様の材質を利用した可能性がある。

斎串は、複維管束亞属であった。複維管束亞属の木材は、軽軟で加工が容易で、割裂性も高いことから、この材質を利用したことが推定される。県内では、二本柳遺跡で10～14世紀および戦国時代とされる斎串について樹種同定が行われており、ヒノキ属とスギの多い結果が得られているが、複維管束亞属は認められていない（パリノ・サーヴェイ株式会社、2000）。このことから、斎串には割裂性の高い針葉樹が用いられてはいるが、地域・遺跡によって樹種が異なっていた可能性がある。

当該期の木製品については、県内では樹種同定を行った例が少ないため、木材利用に関しては不明な点が多い。今後、さらに当該期の木材利用に関する資料を蓄積し、器種や地域による差異等についても検討したい。

引用文献

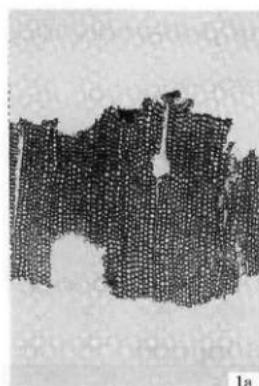
- 平井信二（1980）木の事典 第4巻、かなえ書房。
農商務省山林局編（1912）木材ノ工藝的利用。

表35 樹種同定結果

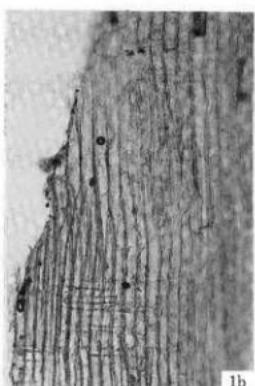
番号	器種	樹種
資料1	柱	クリ
資料2	斎串	マツ属複維管束亞属
資料3	木製品	クリ

パリノ・サーヴェイ株式会社 (2000) 二本柳遺跡の古環境と木製品の樹種.

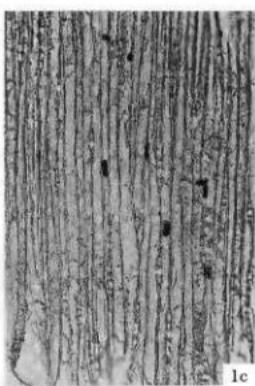
「山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第183集 二本柳遺跡 一般国道52号線（甲西道路）改良工事・中部横断自動車道建設 工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」, p. 234-256, 山梨県教育委員会・建設省甲府工事事務所・日本道路公団東京建設局.



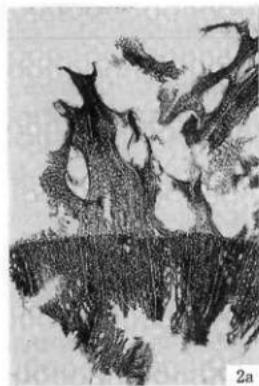
1a



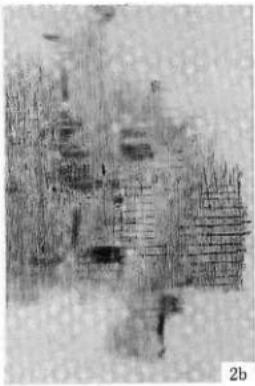
1b



1c



2a



2b



2c

1. マツ属複雜管束亞属 (資料2)

2. クリ (資料1)

a : 木口, b : 桢目, c : 板目

■ 200 μ m:a

■ 200 μ m:b,c

図版12 木材断面

写 真 図 版



境川村石橋錢貨出土地点
西側屋敷墓





完掘状況



1号敷石状造構・井戸完掘状況



井戸完掘状況

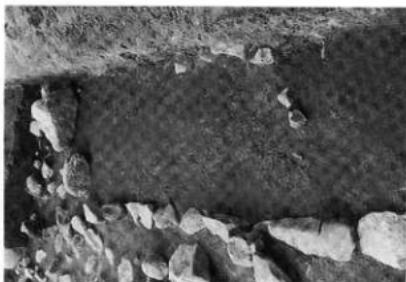


1号石列遺物出土状況



遺物出土状況

図版14 権現遺跡調査状況



1号石列完掘状況



2号石列完掘状況



2号石列遺物出土状況



2号敷石状遺構検出状況



焼土遺構土層堆積状況



4トレンチ土層堆積状況

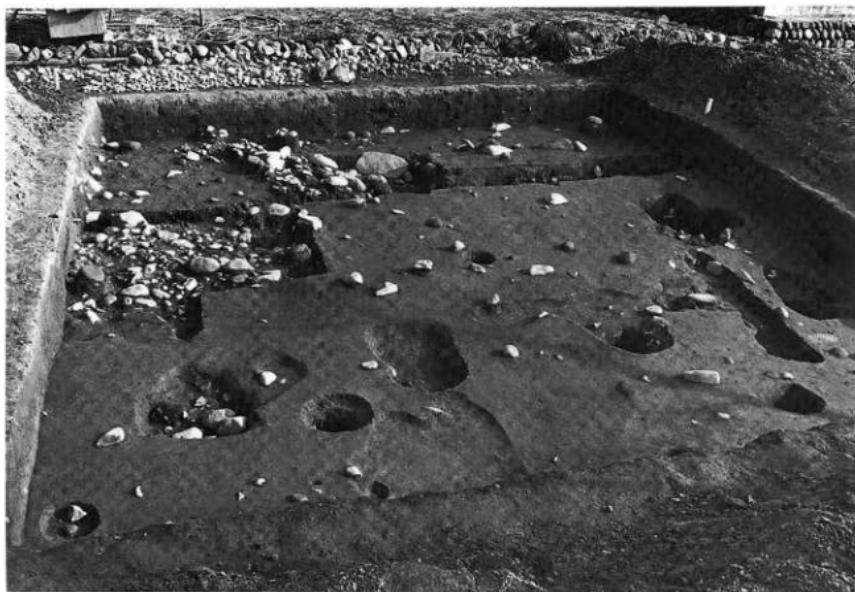


4トレンチ完掘状況



5トレンチ完掘状況

図版15 信虎誕生屋敷調査状況



完掘状況



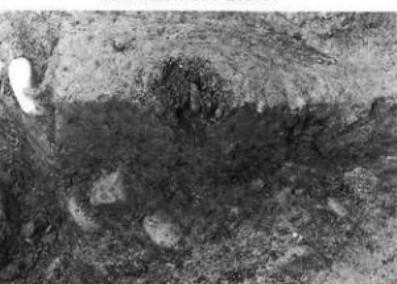
7号土坑完掘状況



溝状遺構土層堆積状況



8号柱穴柱材検出状況



斎串検出状況

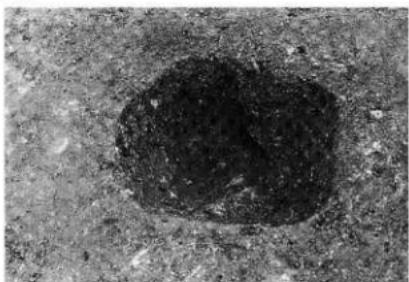
図版16 延命寺遺跡調査状況



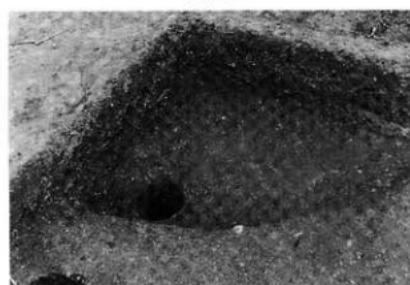
調査地点全景



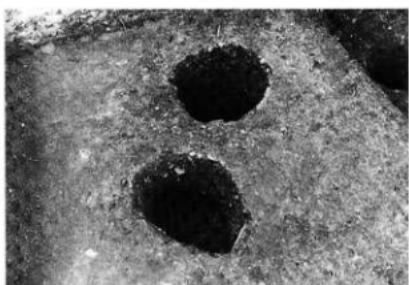
完掘状況



錢貨出土地点完掘状況

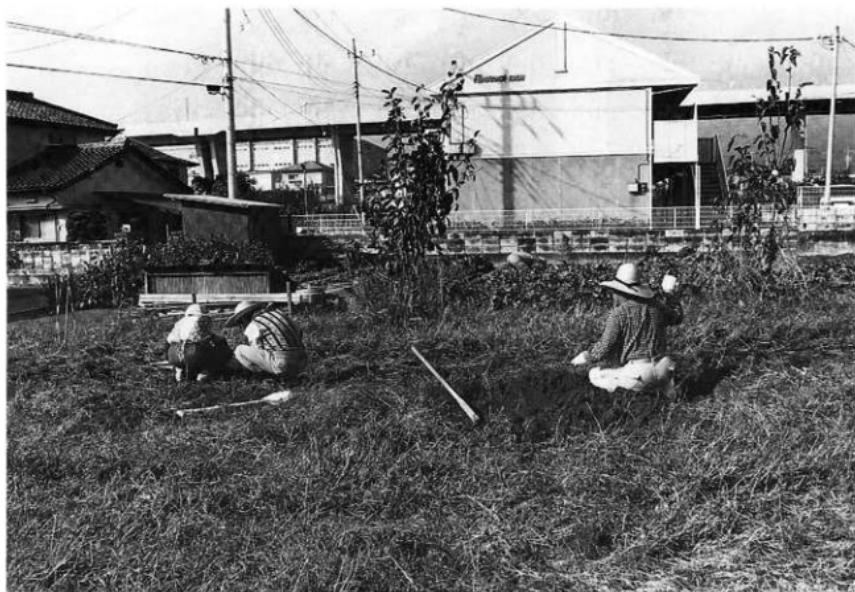


住居状遺構完掘状況



1・2号柱穴完掘状況

図版17 小六科遺跡調査状況



調査風景



1 トレンチ土層堆積状況



2 トレンチ土層堆積状況



3 トレンチ土層堆積状況



4 トレンチ土層堆積状況

図版18 出土地周辺



塩山市千野鳥居原出土地遠景



塩山市千野鳥居原出土地近景



境川村石橋出土地遠景



境川村石橋出土地近景



上野原町桐原出土地遠景



上野原町桐原出土地近景



一宮町石出土地遠景



大泉村谷戸出土地遠景



大泉村谷戸出土地遠景



春日居町下岩下出土地遠景



春日居町下岩下出土地近景



高根町村山西割出土地遠景



高根町村山西割西側土壠状高まり



高根町村山西割東側土壠状高まり



大泉村谷戸字鍛冶田出土地遠景



大泉村谷戸字鍛冶田出土地近景



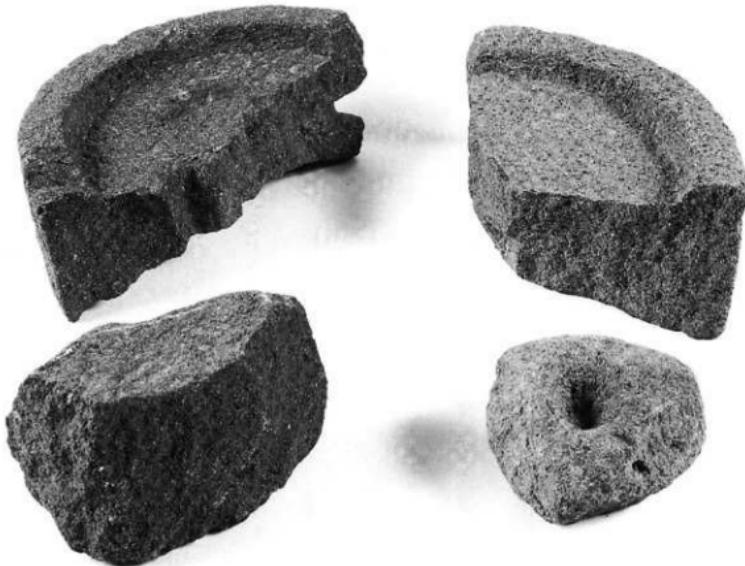
大泉村東原出土地遠景



大泉村東原出土地近景

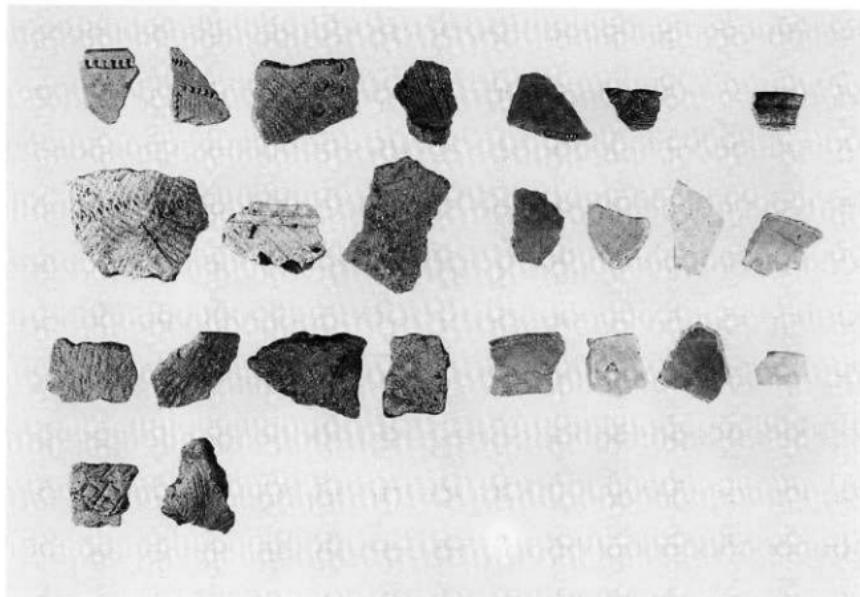


權現遺跡出土陶磁器

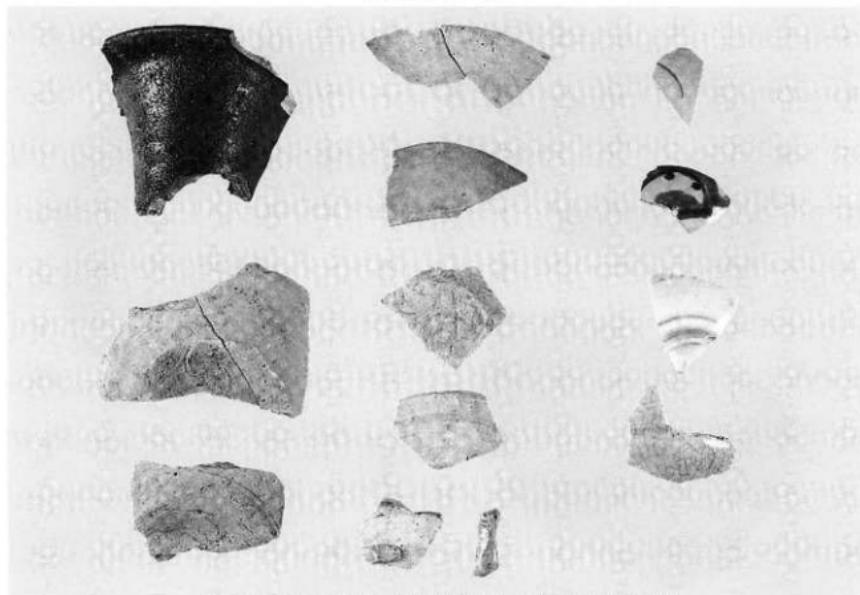


權現遺跡出土石製品

圖版20 出土遺物



權現遺跡出土土器



信虎誕生屋敷出土陶器・土師質土器、小六科遺跡出土陶磁器

報告書抄録

ふりがな	まいぞうせんかしゅつどいせきぐんじょうさいぶんぶちょうさほうこくしょ						
書名	埋蔵銭貨出土遺跡群詳細分布調査報告書						
副書名							
卷次	(全1巻)						
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号	第217集						
著者名	網倉邦生・小林克次・三森鉄治						
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター						
所在地	〒400-1508 山梨県東八代郡中道町下曾根923 TEL055-266-3016						
発行者	山梨県教育委員会						
発行年月日	2004年3月31日						
所収遺跡名	所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
権現遺跡	高根町	19404	35° 50' 11"	138° 24' 28"	2002年12月11日 ～2003年1月22日	173.4m ²	学術調査
信虎誕生塁敷	春日居町	19301	35° 41' 41"	138° 39' 23"	2001年12月9日 ～2002年1月7日	75.1m ²	学術調査
延命寺遺跡	大月市	19206	35° 36' 41"	138° 57' 01"	2002年11月19日 ～11月20日	10.6m ²	学術調査
小六科遺跡	南アルプス市	19208	35° 39' 43"	138° 28' 22"	2002年10月22日 ～10月24日	8.5m ²	学術調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
権現遺跡	散布地・城館跡	平安・中世・近世	石列2・井戸・敷石状遺構2・纏集中2・焼土遺構	陶土器・石器・漆器・古須土器・瓦・瓦類・瓦・金剛輪・石門扇	近世の戲教跡		
信虎誕生塁敷	城館跡	中世	土坑10・柱穴8・溝状遺構	花瓶・土師質土器・壺・瓦・金剛輪	中世の建物跡と祭祀遺構		
延命寺遺跡	その他	中世・近世	土坑1・柱穴2・住居状遺構	近世陶磁器片	大抵一括埋蔵銭貨出土遺構		
小六科遺跡	散布地	中世・近世		近世陶磁器片	織を伴う近世遺物包含層		

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第217集

埋蔵銭貨出土遺跡群詳細分布調査報告書

印刷日 2004.3.26

発行日 2004.3.31

編集 山梨県埋蔵文化財センター

発行 山梨県教育委員会

印刷 (株)アド井上

